

令和6年度

Shizuoka City Museum of Art ANNUAL REPORT 2024

静岡市美術館年報 No.15

目次

1. 基本理念・沿革	
1-1 基本理念	3
1-2 沿革	3
1-3 令和6(2024)年度事業一覧	4
2. 展覧会事業	
2-1 京都 細見美術館の名品 一琳派、若冲、ときめきの日本美術	6
2-2 没後35周年記念 平野富山展 一平櫛田中と歩んだ彩色木彫、追求の軌跡	13
2-3 珠玉の東京富士美術館コレクション 西洋絵画の400年	21
2-4 令和6年度国立美術館巡回展 写真をめぐる100年のものがたり 京都国立近代美術館コレクションを中心に	28
2-5 キース・ヘリング展 アートをストリートへ	37
2-6 北欧の神秘 ノルウェー・スウェーデン・フィンランドの絵画	43
3. 交流事業(教育普及事業)	
3-1 交流事業	50
1) Shizubi Research+「倉俣史朗と静岡」/2) Shizubi シネマアワー/3) しずびオープンアトリエ/4) しずびチビッコプログラム/5) 暦とあそぶワークショップ/6) プレゼントワークショップ/7) 夜店市/8) 平野富山ブロンズ彫刻パネル展示/9) 平野富山ブロンズ彫刻鑑賞マップ	
3-2 連携事業	59
1) ミュージアム教室・展示解説/2) 生涯学習センター・静岡市美術館連携事業「しずび出前講座」/3) 静岡・音楽館×科学館×美術館共同事業(三館共同事業)/4) その他施設との連携	
4. 受託事業等	
4-1 受託事業等	62
1) 「旧五十嵐邸・竹久夢二」展/2) 静岡市清水文化会館マリナート常設展示「平野富山-清水が生んだ彩色木彫の名匠」	
5. 調査研究・研修受入等	
5-1 調査研究	64
5-2 博物館実習	65
5-3 視察等受入	65
6. 収藏品・図書等	
6-1 収藏品・画像貸出	66
6-2 図書等	66
7. 広報活動	
7-1 広報制作物	67
7-2 ウェブサイト	68
7-3 施設広報記録	68
8. 管理運営	
8-1 利用者数	69
8-2 過去展覧会一覧	74
8-3 静岡市美術館運営協議会	78
8-4 組織図・職員名簿	79
8-5 条例・施行規則	80
8-6 施設・建築概要	82

1. 基本理念・沿革

1-1 基本理念

静岡市美術館は、JR静岡駅北口の複合ビル「葵タワー」3階に、平成22年5月に開館、同年10月にグランドオープンしました。「人・地域が躍動する芸術文化の創造・発信」を基本理念に、展示室では、美術を主軸にデザインや工芸など幅広いジャンルの展覧会を開催します。

また、エントランスホールや多目的室、ワークショップ室などの「交流ゾーン」では、様々なアートシーンの紹介や講演会、ワークショップ、コンサート、美術映画の上映など普及事業を実施します。駅から徒歩3分という立地を活かし、誰もが気軽に立ち寄れる“ちょっと面白い街の中の広場”のような美術館を目指しています。

美術館ロゴマーク



美術館のロゴマークは、静岡、そして日本を象徴する富士山をモチーフにしています。重ねられた2つの円には、美術館を中心とした人の輪の広がり、地域と世界を結ぶイメージが表されています。また、視点と興行きの変化による“視ることの楽しさ”にも気付かせてくれます。

デザイン：柿木原政広(アートディレクター /10inc.)

1-2 沿革

平成18(2006)年

3月 「静岡市文化振興ビジョン」策定

平成19(2007)年

3月 「(仮称)静岡市立美術館 基本計画」策定

7月4日 「葵タワー」着工

平成20(2008)年

3月 「(仮称)静岡市立美術館運営実施計画」策定

平成21(2009)年

7月8日 美術館内装建築工事着工[内装設計：(株)丹青研究所、内装建築工事：(株)木内建設]

7月16日 静岡市美術館条例制定

11月12日 静岡市美術館条例施行規則制定

平成22(2010)年

3月24日 静岡市が(財)静岡市文化振興財団を指定管理者に指定

4月1日 「葵タワー」オープン

5月1日 静岡市美術館開館・完成記念式典開催

9月30日まで展覧会関連事業および交流事業を実施

10月1日 静岡市美術館グランドオープン記念式典開催

10月2日 開館記念展<I> 「ポーラ美術館コレクション展 印象派とエコール・ド・パリ」開催(～11月28日)

平成23(2011)年

5月9日 美術館のロゴマークなどヴィジュアル・アイデンティティーが世界3大広告賞のひとつ「The One Show 2011」の銀賞を受賞

平成24(2012)年

1月4日 美術館エントランスホールに漆芸作品「東海道五十三次ひとめ図」設置、除幕式開催

平成25(2013)年

9月14日 来館100万人達成記念式典を実施

平成26(2014)年

5月2日 静岡県教育委員会より博物館相当施設に指定

平成27(2015)年

3月20日 静岡市が(公財)静岡市文化振興財団を第Ⅱ期指定管理者に指定

5月1日 静岡市美術館開館5周年

平成29(2017)年

8月18日 展覧会観覧者100万人達成

令和元(2019)年

10月10日 来館300万人達成記念式典を実施

令和2(2020)年

4月1日 静岡市が(公財)静岡市文化振興財団を第Ⅲ期指定管理者に指定

5月1日 静岡市美術館開館10周年

※過去展覧会一覧は、74～77頁を参照。

1-3 令和6(2024)年度事業一覧

		展覧会	交流事業
令和6年(2024年)	4月	京都 細見美術館の名品 —琳派、若冲、ときめきの日本美術— 4月13日-5月26日<開館39日間>	13日 おうちで!しずびオープンアトリエ「縹綯彩色に挑戦!色鮮やかな文様を描こう」(動画配信+貸出キット)(-3月31日)
	5月		28日 しずびチビッコプログラム「細見美術館の名品」
	6月	没後35周年記念 平野富山展 —平櫛田中と歩んだ彩色木彫、追求の軌跡— 6月6日-7月15日<開館35日間>	3日 Shizubiシネマアワー vol.33 ①『ゴッホとヘレーネの森 クレラー・ミュラー美術館の至宝』
	7月		4日 同 ②『ハーブ&ドロシー ふたりからの贈りもの』
	8月	珠玉の東京富士美術館コレクション 西洋絵画の400年 7月26日-9月23日<開館53日間>	6日 平野富山ブロンズ彫刻パネル展示(-7月15日)
	9月		13日 しずびチビッコプログラム「平野富山展」
	10月	令和6年度国立美術館巡回展 写真をめぐる100年のものがたり 京都国立近代美術館コレクションを中心に 10月4日-11月17日<開館39日間>	9日 しずびオープンアトリエ「絵画を立体化!紙ジオラマ『立版古』をつくろう」(-18日)
	11月		10日 第60回 静岡夏まつり夜店市(-12日)
	12月		31日 しずびチビッコプログラム「西洋絵画の400年」
	令和7年(2025年)	1月	キース・ヘリング展 アートをストリートへ 11月28日-1月19日<開館43日間>
2月		6日 Shizubi Research+「倉俣史朗と静岡」(-12月15日)	
3月		1日 プレゼントワークショップvol.42「銅版画でクリスマスカードをつくろう」 子ども編	
		8日 同 大人編	
		14日 Shizubi Research+「倉俣史朗と静岡」ギャラリートーク(-15日)	
		21日 しずびチビッコプログラム「キース・ヘリング展」	
		13日 暦とあそぶワークショップvol.27「新年を彩る和綴じ本をつくろう」	
		11日 暦とあそぶワークショップvol.28「ひな祭りの準備をしよう!」	
		15日 しずびオープンアトリエ「絵画を立体化!紙ジオラマ『立版古』をつくろう」(-3月16日)	
	北欧の神秘 —ノルウェー・スウェーデン・フィンランドの絵画— 2月1日-3月26日<開館47日間>	8日 Shizubiシネマアワー vol.34 ①『魂のまなざし』	
		9日 同 ②『見えるもの、その先に ヒルマ・アフ・クリントの世界』	
		20日 しずびチビッコプログラム「北欧の神秘」	

2. 展覧会事業 目次

2-1 京都 細見美術館の名品 ―琳派、若冲、ときめきの日本美術―	6
2-2 没後35周年記念 平野富山展 ―平櫛田中と歩んだ彩色木彫、追求の軌跡	13
2-3 珠玉の東京富士美術館コレクション 西洋絵画の400年	21
2-4 令和6年度国立美術館巡回展 写真をめぐる100年のものがたり 京都国立近代美術館コレクションを中心に	28
2-5 キース・ヘリング展 アートをストリートへ	37
2-6 北欧の神秘 ―ノルウェー・スウェーデン・フィンランドの絵画	43

2. 展覧会事業

2-1 京都 細見美術館の名品 —琳派、若冲、ときめきの日本美術—

会期：4月13日(土)～5月26日(日)

概要：京都・細見美術館の収蔵品は、昭和の実業家・細見良(初代古香庵)に始まる細見家三代により80年近くをかけ蒐集され、日本美術史を総覧するコレクションとして国内外から高い評価を受けている。

本展では、細見美術館の開館25周年を記念し、約1000点に及ぶ良質なコレクションの中から重要文化財8件を含む名品104件を厳選して展示した。古墳時代の考古遺物や平安・鎌倉時代の仏教・神道美術、室町時代の水墨画、茶の湯釜、桃山時代の七宝装飾、茶陶、江戸時代の風俗画、肉筆浮世絵、そして現代でも高い人気を誇る琳派、伊藤若冲などにより、コレクターの心をときめかせ、魅了した美の世界を存分に紹介した。

巡回先：大阪高島屋、東京・日本橋高島屋、ジェイアール名古屋タカシマヤ、長野県立美術館

主催：静岡市、静岡市美術館 指定管理者(公財)静岡市文化振興財団、静岡新聞社・静岡放送

後援：静岡市教育委員会

特別協力：公益財団法人 細見美術財団

協力：ヤマト運輸

企画制作：毎日放送

静岡展特別協賛：セキスイハイム東海

観覧料：一般 1,400円(1,200円)
大高生・70歳以上 1,000円(800円)
※()内は前売および20名以上の団体料金
※中学生以下無料
※障がい者手帳等をご持参の方および介助者原則1名は無料

観覧者数：23,273人(有料18,041人、無料5,232人、有料率77.52%)

出品点数：104件

制作物：

1)チラシ

<仕様>紙：b7トラネクスト 99kg
サイズ・数量：A4 65,000部

2)ポスター

<仕様>紙：グラディアCoC 120.5kg
サイズ・数量：B1 55部、B2 2,050部、B3 2,750部(うち400部はJR帯つき)



チラシ表面



チラシ裏面



B1・B2ポスター



B3ポスター

カタログ：

<仕様>180×250mm、272頁



カタログ表紙

カラー図版241点

参考図版(カラー39点、モノクロ21点)

細見良行「二十五年をふりかえって」

千玄室「御祝の言葉」

志村ふくみ「細見美術館開館二十五周年にむけて」

山下裕二「細見美術館、そして細見家三代と私」

岡野智子「細見美術館—その礎と道程—」

作品解説／作者解説／出品目録／細見美術財団 細見美術館 展覧会履歴／細見家三代と細見美術館の紹介

監修・編集：細見美術館

製作・発行：毎日放送

発行年：2023年

普及ツール：

1)音声ガイド

2)本展オリジナルミニDMの作成・配布

コースター型のミニDMを制作し、市内店舗等へ配布した。

制作物：

◆ミニDM

<仕様>マットコート110kg

サイズ・数量：100×100mm 20,000部



ミニDM表面



ミニDM裏面

3)速報チラシ特典

「どうする家康展」の会期中に、館内に本展の速報チラシを配架し、本展の会期中にそのチラシを持参した方に、美術館オリジナルクリアファイルをプレゼントした。

利用者数：133人

4)フォトスポットの設置

来館者のSNS等での情報発信を期待し、エントランスに細見美術館でも人気の高い作品、神坂雪佳《金魚玉図》のフォトスポットを設置した。



5)ゴールデンウィーク特典の実施

4月27日(土)から5月6日(月)の計10日間、15時以降の観覧者各日先着50名に、しずびオリジナル茶アメをプレゼントした。

各種連携：

1)近隣店舗との連携

葵タワー内および近隣店舗で、展覧会入場者への優待サービスの実施、本展に合わせた特別メニューの提供を行った。

制作物：

◆チラシ

<仕様>紙：マットコート 70kg

サイズ・数量：A4 4,000部



協賛チラシ表面



協賛チラシ裏面

2)清水文化会館マリナートとの相互特典の実施

当館で清水文化会館マリナートにて開催の「Hello!セサミストリートの世界展」の半券を提示すると、当館オリジナルグッズをプレゼント、清水文化会館マリナートで当館の半券を提示すると、当日料金から100円引きとなる相互特典を実施した。

利用者数：清水文化会館マリナート12人、当館10人

3)静岡伊勢丹「駿府各流大茶会」との相互特典の実施

当館で静岡伊勢丹にて開催の「駿府各流大茶会」の半券を提示すると、当館オリジナルグッズをプレゼント、静岡伊勢丹「駿府各流大茶会」で当館の半券を提示すると、茶席を割引する相互特典を実施した。

利用者数：静岡伊勢丹「駿府各流大茶会」19人、当館100人

4)SBS学苑パルシェ校との連携

SBS学苑パルシェ校と連携し、鑑賞付き講座を実施した。

日時：4月24日(水)

参加者数：19人

主要広報記録：

1) テレビ・ラジオ

- ・「展覧会紹介」SBSテレビ『ヨエロスン』、3月1日放送。
- ・「展覧会紹介」SBSラジオ『DJ RoniのROUND ABOUT』、3月22日放送。
- ・「展覧会紹介」FM-Hil『chalchalサタデー 静岡ドライブインフォメーション』、3月30日放送。
- ・「展覧会紹介」SBSテレビ『Soleいいね!』、4月2日放送。
- ・「琳派や若冲の名品が一堂に」SBSテレビ『県内ニュース』、4月13日放送。
- ・「展覧会紹介」SBSラジオ『鉄崎幹人のWASABI』、4月18日放送。
- ・「展覧会紹介」NHK総合『県内ニュース』、4月20日放送。
- ・「展覧会紹介」NHK Eテレ『日曜美術館アートシーン』、4月21日放送。
- ・「展覧会紹介」SBSラジオ『ゴゴボラケ』、4月24日放送。
- ・「琳派と若冲 心ときめく日本美術」SBSテレビ『県内ニュース』、4月24日放送。
- ・「展覧会紹介」TOKAIケーブルネットワーク『トコチャンワイド』、4月25日放送。
- ・「展覧会紹介」NHK Eテレ『日曜美術館アートシーン』、4月28日放送。
- ・「「琳派」などの名品展 来場者1万人」SBSテレビ『県内ニュース』、5月3日放送。

2) 新聞

- ・大石沙織「伊藤若冲《雪中雄鶏図》羽毛の質感を描き分け」『静岡新聞』、4月2日。
- ・大石沙織「葛飾北斎《五美人図》髪型、服装に見る身分差」『静岡新聞』、4月3日。
- ・大石沙織「神坂雪佳《金魚玉図》受け継がれる琳派の技」『静岡新聞』、4月4日。
- ・大石沙織「重要文化財《金銅春日神鹿御正体》愛らしく凛とした表情」『静岡新聞』、4月5日。
- ・岡本妙「日本美術3代続く 審美眼」『静岡新聞』、4月8日。
- ・岡本妙「細見美術館の名品、一堂に 静岡市美術館あす開幕」『静岡新聞』、4月12日。
- ・橋爪充「細見美術館展1万人」『静岡新聞』、5月4日。

3) 雑誌他

- ・「展覧会紹介」『和楽』、2・3月号。
- ・「展覧会紹介」『美術展びあ 2024』。
- ・「展覧会紹介」『美術の窓』、2月号。
- ・「展覧会紹介」『和楽』、4・5月号。
- ・「展覧会紹介」『墨』、3・4月号。
- ・「展覧会紹介」『和楽』、6・7月号。
- ・「展覧会紹介」『美術の窓』、5月号。
- ・「展覧会紹介」『すろ〜かる』、4月号。
- ・「展覧会紹介」『富士ニュース』、23331号。
- ・「展覧会紹介」『すろ〜かる』、5月号。

4) ウェブサイト等(媒体名のみ記載)

「アートアジェンダ」、「Fashion Press」、「Sfumart」、「ぴあポイント」、「アットエス」、「ケイティコム 今見られる全国のおすすめ展覧会」



5月3日 来場者1万人達成

関連事業：

1) 記念講演会「細見コレクションと伊藤若冲」

概要：

細見美術館館長の細見良行氏を招き、仏教美術、茶の湯釜、遊楽図、北斎など本展出品作品の見どころや作品にまつわる祖父・細見良氏とのエピソードのほか、伊藤若冲の画業を概観した。細見氏ならではの軽妙な語り口と豊富な画像資料を用いた親しみやすい内容で、細見コレクションの魅力に加えて日本美術を鑑賞する楽しみを知ることができ、参加者から好評を得た。

日時：4月13日(土)14:00-15:30

会場：多目的室 参加者数：86人

講師：細見良行氏(細見美術館館長)

主要広報記録：

◆新聞

・橋爪充「細見美術館展」開幕 静岡市美術館で細見氏講演」『静岡新聞』、4月14日。



2) 講演会「細見コレクションで楽しむ琳派」

概要：

展覧会の各章の見どころに始まり、本阿弥光悦、俵屋宗達や尾形光琳、江戸琳派の酒井抱一や鈴木其一、中村芳中、そして神坂雪佳まで琳派の系譜をわかりやすく概観した。琳派とは何か、どのような画派であるのかを特徴とともに豊富な画像資料を用いて丁寧に解説し、琳派の魅力が存分に伝わる内容であった。参加者からの質疑も多く、琳派について深く理解する機会となった。

日時：4月27日(土)14:00-15:30

会場：多目的室 参加者数：90人

講師：福井麻純氏(細見美術館主任学芸員)



3) 当館学芸員によるスライドトーク

概要：展覧会に対する理解を深めるため、当館学芸員によるスライドトークを会期中実施した。

日時：5月11日(土)14:00-

会場：多目的室 参加者数：108人

参加料：無料



出品作品リスト

・指定品のうち○は重要文化財、○は重要美術品を示す。
 ・所蔵はすべて細見美術館。

I 祈りのかたち

No.	指定	作品名称	作者名	員数	材質技法	時代／制作年	展示期間	
							4/13- 4/26	4/27- 5/26
1		金銅誕生釈迦仏立像		1軀	鍍金銅製 鑄造	飛鳥時代		
2		蝶鳥下絵法華経断簡	伝光明皇后 書	1幅	彩箋墨書	平安中期		
3		絵因果経断簡		1幅	紙本著色	鎌倉時代		
4		金胎仏画帖断簡(東方欲金剛像)		1幅	紙本著色	平安後期		
5		准胝観音像		1幅	絹本著色	鎌倉時代		
6	○	虚空蔵菩薩像		1面	板絵著色	鎌倉時代		
7	○	金銅千体阿弥陀懸仏		1面	銅製鑄造 鍍金 彫金	鎌倉前期		
8	○	熊野十二社権現懸仏		1面	銅製鑄造 鍍金 鍍銀	鎌倉時代		
9		薬師如来懸仏「熊野三山御正体集」のうち		1面	銅製鑄造 鍍金	鎌倉時代		
10	○	金銅春日神鹿御正体		1軀	銅製鑄造 鍍金 鍍銀 彫金	南北朝時代		
11	○	羽黒山御手洗池出土銅鏡		30面	銅製鑄造	平安後期	20面は通期展示 10面は4/26まで	
12	○	金銅透彫尾長鳥唐草文華鬘		1面	銅製鍛造 鍍金 彫金	鎌倉時代		
13	○	金銅五鈷鈴		1口	銅製鑄造 鍍金	平安後期		
14	○	金銅三昧耶五鈷鈴		1口	銅製鑄造 鍍金	鎌倉時代		
15	○	金銅五鈷杵		1口	銅製鑄造 鍍金	平安後期		
16	○	金銅金剛盤		1面	銅製鑄造 鍍金	室町時代		
17		銅布薩形水瓶		1口	銅製鑄造	鎌倉時代		

II 数寄の心

No.	指定	作品名称	作者名	員数	材質技法	時代／制作年	展示期間	
							4/13- 4/26	4/27- 5/26
18		鹿形裝飾付腿		1口	炆器	古墳時代後期		
19		墨蹟	春屋妙葩	1幅	紙本墨書	南北朝時代		
20		消息(釜の文)	千 利休	1幅	紙本墨書	桃山時代		
21	○	梵字経刷白描伊勢物語絵巻断簡「彦星」		1幅	紙本墨画 木版墨刷	鎌倉時代		
22	○	煙寺晚鐘図	単庵智伝	1幅	紙本墨画	室町時代		
23	○	梅花小禽図	単庵智伝	1幅	紙本墨画	室町時代		
24		雪中花鳥図屏風	伝狩野元信	6曲1隻	紙本墨画	室町時代		
25		根来亀甲文瓶子		1口	木製漆塗	室町時代		
26		根来湯桶		1口	木製漆塗	室町時代		
27	○	芦屋霰地楓鹿図真形釜		1口	鉄製鑄造	室町時代		
28	○	芦屋十一面観音香炉釜	大江宣秀	1口	鉄製鑄造	天文3年(1534)銘		
29		志野茶碗 銘 弁慶		1口	施釉陶器	桃山時代		
30		黒染茶碗 銘 穂垣	宗味	1口	施釉陶器	桃山時代		
31		信楽鬼桶水指		1口	炆器	桃山時代		
32		織部分銅形香合		1合	施釉陶器	桃山時代		
33		織部菊兜香合		1合	施釉陶器	桃山時代		
34		伊賀伽藍香合		1合	炆器	桃山時代		
35		織部千鳥文手付四方鉢		1口	施釉陶器	桃山時代		

III 華やぎのとき

No.	指定	作品名称	作者名	員数	材質技法	時代／制作年	展示期間	
							4/13- 4/26	4/27- 5/26
36		桐竹鳳凰図屏風		6曲1隻	紙本金地著色	江戸初期		
37		桐鳳凰時絵長持		1合	木製漆塗	桃山時代		
38		七宝夕顔文釘隠		1個	銅製 象嵌七宝 無線七宝	桃山時代		
39		七宝流水蛇籠文釘隠		1個	銅製 象嵌七宝	江戸前期		
40		七宝梅花文釘隠		1個	銅製 象嵌七宝 無線七宝	江戸前期		
41		七宝桜文引手		1個	銅製 象嵌七宝	江戸前期		
42		七宝桜花手桶文引手		1個	銅製 象嵌七宝	江戸前期		
43		七宝花筏文引手		1個	銅製 象嵌七宝	江戸前期		
44		七宝鳥兜文引手		1個	銅製 象嵌七宝	江戸前期		
45		七宝八角水指		1合	銅製 有線七宝	江戸中期～後期		
46		北野社頭図屏風	「棕政」印	6曲1隻	紙本金地著色	江戸前期		
47		東山四条河原遊楽図屏風		6曲1隻	紙本著色	江戸前期		
48		遊楽図扇面		10面	紙本著色	江戸前期		

No.	指定	作品名称	作者名	員数	材質技法	時代/制作年	展示期間	
							4/13- 4/26	4/27- 5/26
49		男女遊楽図屏風		6曲1隻	紙本金地著色	江戸前期		
50		江戸風俗図巻	山東京伝 序跋	1巻	紙本著色	江戸後期		
51		夜鷹図	葛飾北斎	1幅	紙本淡彩	江戸後期		
52		五美人図	葛飾北斎	1幅	絹本著色	江戸後期		
53		桜幙幕時給螺鈿重箱		1合	木製漆塗	江戸前期		
54		菊時給徳利		1対	木製漆塗	江戸前期		
55		藤時給提重		1具	木製漆塗	江戸後期		
56		花車図屏風		6曲1双	紙本金地著色	江戸後期		

IV 琳派への憧れ

No.	指定	作品名称	作者名	員数	材質技法	時代/制作年	展示期間	
							4/13- 4/26	4/27- 5/26
57		月梅下絵和歌書扇面	本阿弥光悦 書 俵屋宗達 下絵	1幅	紙本墨書 金地銀泥下絵	江戸前期		
58		忍草下絵和歌色紙「郭公」	本阿弥光悦 書 俵屋宗達 下絵	1幅	紙本墨書 金銀泥下絵	江戸前期		
59		墨梅図	俵屋宗達	1幅	紙本墨画	江戸前期		
60		伊勢物語図色紙「大淀」	俵屋宗達	1幅	紙本著色	江戸前期		
61		柳図香包	尾形光琳	1幅	絹本金地著色	江戸中期		
62		色絵唐子図筆筒	尾形乾山	1口	施釉陶器	江戸中期		
63		白象図屏風	渡辺始興	2曲1隻	紙本墨画淡彩	江戸中期		
64		白梅小禽図屏風	中村芳中	6曲1隻	紙本金地著色	江戸後期		
65		朝顔図	中村芳中	1幅	絹本著色	江戸後期		
66		月に萩鹿図	中村芳中	1幅	絹本著色	江戸後期		
67		金魚玉図	神坂雪佳	1幅	絹本著色	明治末期		
68		十二月草花図	神坂雪佳	12面	絹本著色	大正末期～昭和初期	6面ずつ入れ替え	
69		伊勢物語図扇面「河内越」	神坂雪佳	1幅	紙本著色	大正末期～昭和初期		
70		住之江時給色紙箱	神坂雪佳 図案 木村秀雄 作	1合	木製漆塗	大正時代		
71		松風村雨図	酒井抱一	1幅	絹本墨画淡彩	天明5年(1785)		
72		扇面貼交屏風	酒井抱一	6曲1双	紙本墨画 紙本著色	江戸後期		
73		鹿楓図団扇	酒井抱一	1柄	紙本金地著色	江戸後期		
74		桜に小禽図	酒井抱一	1幅	絹本著色	江戸後期		
75		白蓮図	酒井抱一	1幅	絹本墨画淡彩	江戸後期		
76		四季草花流水図屏風	池田孤邨	2曲1隻	紙本金地著色	江戸後期		
77		水辺家鴨図屏風	鈴木其一	6曲1隻	紙本金地著色	江戸後期		
78		朴に尾長鳥図	鈴木其一	1幅	絹本著色	江戸後期		
79		白椿に寒茶碗花鉢図	鈴木其一	1幅	絹本著色	江戸後期		
80		雪中竹梅小禽図	鈴木其一	双幅	絹本著色	江戸後期		
81		桜下花雛図	鈴木守一	1幅	絹本著色	江戸後期～明治時代		
82		業平東下り図	鈴木守一	1幅	絹本著色	江戸後期～明治時代		
83		菊龍胆に小禽図	酒井道一	1幅	絹本著色	明治時代		

V 若冲のちから

No.	指定	作品名称	作者名	員数	材質技法	時代/制作年	展示期間	
							4/13- 4/26	4/27- 5/26
84		雪中雄鶏図	伊藤若冲	1幅	紙本著色	江戸中期		
85		糸瓜群虫図	伊藤若冲	1幅	絹本著色	江戸中期		
86		風竹図	伊藤若冲	1幅	絹本墨画	江戸中期		
87		瓢箪・牡丹図	伊藤若冲	双幅	紙本墨画	江戸中期		
88		花鳥図押絵貼屏風	伊藤若冲	6曲1双	紙本墨画	江戸中期		
89		海老図	伊藤若冲	1幅	紙本墨画	宝暦11年(1761)賛		
90		仔犬に箒図	伊藤若冲	1幅	紙本墨画	江戸中期		
91		伏見人形図	伊藤若冲	1幅	紙本著色	天明2年(1782)賛		
92		萬歳図	伊藤若冲	1幅	紙本墨画	江戸中期		
93		踏歌図	伊藤若冲	1幅	絹本墨画	江戸中期		
94		菊花図押絵貼屏風	伊藤若冲	6曲1双	紙本墨画	寛政7年(1795)頃		
95		宝珠に小椀図	伊藤若冲	1幅	紙本墨画	寛政12年(1800)頃		
96		里芋図	伊藤若冲	1幅	紙本墨画	江戸中期		

No.	指定	作品名称	作者名	員数	材質技法	時代／制作年	展示期間	
							4/13- 4/26	4/27- 5/26
97		関羽図	伊藤若冲	1幅	紙本墨画	江戸中期		
98		朱達磨図	伊藤若冲	1幅	紙本著色	江戸中期		
99		鼠婚礼図	伊藤若冲	1幅	紙本墨画	寛政8年(1796)頃		
100		虻に双鶏図	伊藤若冲	1幅	紙本墨画	江戸中期		
101		群鶏図	伊藤若冲	1幅	紙本墨画	寛政8年(1796)頃		
102		鶏図押絵貼屏風	伊藤若冲	6曲1双	紙本墨画	寛政9年(1797)頃		
103		遊鶏図押絵貼屏風	若演	6曲1双	紙本墨画	江戸後期		
104		釣瓶に鶏図	若演	1幅	紙本墨画	江戸後期		

2-2 没後35周年記念

平野富山展

—平櫛田中と歩んだ彩色木彫、追求の軌跡

会期：6月6日(木)～7月15日(月・祝)

概要：静岡県庵原郡江尻町(現・静岡市清水区江尻東)出身の平野富山(1911-89)は、日本近代彫刻史上、重要な彩色木彫家の一人である。人形師・池野哲仙(1880-1936)の元で学んだ確かな彫技と彩色技術により、伝統的な主題から今日的な女性像まで、超絶技巧とも言えるべき作品を生み出した。また富山は彫刻家・齋藤素巖(1889-1974)に師事して西洋彫刻も習得し、日展を中心に活躍する。さらには木彫界の巨匠・平櫛田中(1872-1979)に厚く信頼をおかれ、数多くの田中作品の彩色を手がけた。本展は平野富山の彩色木彫や西洋彫刻など約60点のほか、平櫛田中や関連作家らの作品約40点により、日本近代における人形、彩色木彫、西洋彫刻の三つの領域を横断し、彩色の専門家としても作家を支えた富山の仕事の全容に迫る初の試みとなった。

巡回先：なし(自主企画展)

主催：静岡市、静岡市美術館 指定管理者(公財)静岡市文化振興財団

後援：静岡市教育委員会

協賛：清水銀行

助成：芸術文化振興基金

観覧料：一般 1,300円(1,100円)

大高生・70歳以上 900円(700円)

※()内は前売および20名以上の団体料金

※中学生以下無料

※障がい者手帳等をご持参の方および介助者原則1名は無料

観覧者数：6,844人(有料4,128人、無料2,716人、有料率60.32%)

出品点数：104点

制作物：

1)チラシ

<仕様>紙：b7トラネクスト 99kg(A3二つ折り(仕上A4))、
マットコート 90kg(A4)

サイズ・加工・数量：A3二つ折り(仕上A4) 54,000部、
A4 5,300部

2)ポスター

<仕様>紙：ユーライト 135kg

サイズ・数量：B1 55部、B2 2,050部、B3 2,450部(うち
400部はJR帯つき)



チラシ表面



チラシ裏面



チラシ中面



B1・B2ポスター



B3ポスター

カタログ：

<仕様>220×285mm、194頁



カタログ表紙

カラー図版203点

参考図版(カラー58点、モノクロ206点)

藤井明「平櫛田中と近代日本木彫」

太田紗世「平野富山の仕事」

太田紗世「COLUMN1 日本人形社時代の富山」

太田紗世「COLUMN2 生活を支えた三美芸の仕事」

太田紗世「COLUMN3 星取り法と深く結びついた近代日本の木彫制作」

太田紗世「COLUMN4 鏡獅子への道」

太田紗世「COLUMN5 白鳳会時代の富山」

太田紗世「COLUMN6 富山と故郷清水—平野富山講演会の活動を中心に」

太田紗世「COLUMN7 富山が手がけた静岡市内のブロンズ彫刻と『水と彫刻のあるまちを創る会』の活動」

作品解説／主な作家解説／参考資料／平野富山 落款／平野富山 参考作品(石膏像)図版／平野富山年譜／主要参考文献／出品目録

編集・発行：静岡市美術館

発行年：2024年

普及ツール：

1)本展オリジナルミニDMの作成・配布

ハガキサイズのミニDMを制作し、市内店舗等へ配布した。

制作物：

◆ミニDM

<仕様>紙：マットコート 160kg

サイズ・数量：90×148mm 46,000部



ミニDM表面



ミニDM裏面

2)ブロンズ彫刻鑑賞マップ

※58頁を参照。

3)前売券購入特典

美術館受付で前売券を購入した方、先着200名に、本展オリジナルのクスノキ製木札をプレゼントした。



4)6月特典

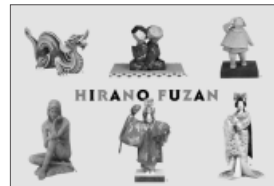
会期中の6月に本展をご観覧の方、各日先着50名に、本展オリジナル絵はがきをプレゼントした。

制作物：

◆絵はがき

<仕様>紙：マットコート 180kg

サイズ：148×100mm



絵はがき表面(計2種)



絵はがき裏面(計2種)



5)本展オリジナルしおりの制作・配布

しおりを制作し、静岡市立図書館各館で配布した。

制作物：

◆しおり

<仕様>紙：コート紙 180kg

サイズ・数量：47×143mm 20,000部



しおり表面



しおり裏面

6)特設パネルの設置

静岡市清水文化会館マリナート、静岡市立中央図書館、清水中央図書館、みほしるべ、ジュンク堂書店新静岡店の計5ヶ所に特設パネルを設置した。



7)速報チラシ特典

「どうする家康展」の会期中に、館内に本展の速報チラシを配架し、本展の会期中にそのチラシを持参した方に、美術館オリジナルグッズをプレゼントした。

利用者数：69人

8)SNS投稿でプレゼントの実施

会期中、SNSで展覧会の感想などを投稿し投稿画面を提示した方に本展オリジナルグッズをプレゼントした。

利用者数：23件

9)DM提示特典

会期中、ハガキ型ミニチラシを提示した方に本展オリジナルグッズをプレゼントした。

利用者数：296件

各種連携：

1)近隣店舗との連携

葵タワー内および近隣店舗で、展覧会入場者への優待サービスの実施、本展に合わせた特別メニューの提供を行った。

制作物：

◆チラシ

<仕様>紙：マットコート 70kg

サイズ・数量：A4 4,000部



協賛チラシ表面



協賛チラシ裏面

主要広報記録：

1)テレビ・ラジオ

- ・「展覧会紹介」FM-Hil『あさラジ@Morning』、5月15日放送。
- ・「展覧会紹介」FM-Hil『chalchalサタデー 静岡ドライブインフォメーション』、5月25日放送。
- ・「展覧会紹介」NHK Eテレ『日曜美術館アートシーン』、6月16日放送。
- ・「展覧会紹介」NHK Eテレ『日曜美術館アートシーン』、6月23日放送。
- ・「展覧会紹介」エフエムしみず『しみずマリナール「マリナートインフォメーション」』、6月28日放送。
- ・「展覧会紹介」FM-Hil『ひるラジ静岡情報館』、7月4日放送。
- ・「彫刻家 平野富山の作品展」SBSテレビ『LIVEしずおか』、7月6日放送。

2)新聞

- ・「平野富山作品一堂」『静岡新聞』、6月8日。
- ・「大自在」『静岡新聞』、6月13日。
- ・宮崎正剛「平野富山 独自の表現世界」『中日新聞』中部地方版、6月21日。
- ・「展覧会紹介」『読売新聞』静岡版、6月25日。

3)雑誌他

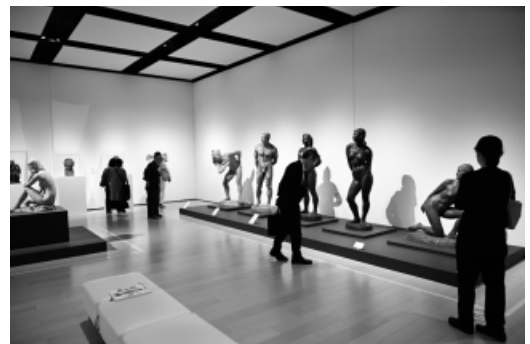
- ・「展覧会紹介」『美術展びあ 2024』
- ・「展覧会紹介」『和楽』、4・5月号。
- ・「平野富山の全容を余すところなく紹介」『にんぎょう日本』、5・6月号。
- ・「展覧会紹介」『和楽』、6・7月号。
- ・「展覧会紹介」『サライ』、6月号。
- ・「展覧会紹介」『美術の窓』、6月号。
- ・「展覧会紹介」『和楽』、8・9月号。
- ・木下直之「人形と彫刻の共存」『週刊文春』、7月18日号。
- ・平野千里「没後35周年記念 平野富山展によせて」『美術の窓』、7月号。
- ・太田紗世「彩色木彫家 平野富山の紹介」『井原市平櫛田中美術館』

友の会便り』、No.66。

- ・「展覧会紹介」『地域創造レター』、6月号。
- ・「展覧会紹介」『清水ベイブレス』、第962号。
- ・「展覧会紹介」『すろ〜かる』、6月号。
- ・「平野富山の彩色木彫 7月15日まで静岡市美術館」『富士ニュース』、23401号。
- ・「展覧会紹介」『すろ〜かる』、7月号。
- ・「展覧会紹介」『ZENBI 全国美術館会議機関誌 全美フォーラム』、February 2025 Vol.27。
- ・田中修二「展覧会レビュー」『屋外彫刻調査保存研究会 通信』、10月26日 No.70。

4)ウェブサイト等(媒体名のみ記載)

「Sfumart」、「アートアジェンダ」、「アットエス」、「ウェブ版「美術手帖」」、「トコマガ」



関連事業：

1)講演会「平野富山の周辺～彫刻家・平櫛田中と斎藤素巖を中心に～」

概要：

富山の彩色木彫の師・池野哲仙、西洋彫刻の師・齋藤素巖、富山が彩色担当を務めた木彫界の巨匠・平櫛田中らとの関わりを、時代背景や出品作品の解説を交えながら紹介いただいた。豊富な知識と幅広い視点からの講演により、富山が日本近代彫刻史上に残した足跡と功績について、深く理解できる機会となった。また、作家の人となりや浮き上がらせるエピソードにも触れるなど、分かりやすく丁寧な語り口は参加者からも好評を得た。

日時：6月23日(日)14:00-15:30

会場：多目的室 参加者数：64人

講師：藤井明氏(小平市平櫛田中彫刻美術館学芸員)



2) 彩色実演&「辰(たつ)」の飾り物絵付け体験

概要：

冒頭の実演では、ゲストの平野千里氏による辰作品の眼の彩色が披露された。わずか5ミリ程度の範囲に細かく色が塗られる様子をスクリーンに大きく投影した。その後、参加者は辰の絵付けに取り組み、富山作品にも見られる縹綯彩色の技法で面を塗ったのちに、金・銀の筆ペンで細かな装飾文様を描いた。並行して、金泥や胡粉の溶き作業が千里氏により実演された。小学生から80代まで幅広い年齢層の参加者による個性豊かな作品が完成した。

日時：6月30日(日)13:00-16:30

会場：多目的室 参加者数：24人

ゲスト：平野千里氏(彩色木彫家、平野富山の次男)

参加料：3,000円(材料費含む)

主要広報記録：

◆新聞

・「竜の飾り物 鮮やかに彩色」『静岡新聞』、7月5日。



3) 当館学芸員によるスライドトーク

概要：展覧会に対する理解を深めるため、当館学芸員によるスライドトークを会期中実施した。

日時：①6月16日(日) ②7月7日(日) いずれも14:00-

会場：多目的室 参加者数：計91人

参加料：無料



出品作品リスト

1 彩色木彫を志す―「鍍国」時代

作品番号	作者名	作品名称	員数	制作年代	材質技法	所蔵者
1	森川杜園	春日赤童子	1軀	明治21年(1888)	木、彩色	小平市平櫛田中彫刻美術館
2	森川杜園	里万歳	1対	制作年不詳	木、彩色	小平市平櫛田中彫刻美術館
3	森川杜園	雄鹿	1軀	制作年不詳	木、彩色	小平市平櫛田中彫刻美術館
4	加納鉄哉	羅陵王面	1面	明治41年(1908)	木、彩色	岐阜市歴史博物館
5	加納鉄哉	羅陵王像	1軀	大正3年(1914)	木、彩色	岐阜市歴史博物館寄託
6	加納鉄哉	鍾馗像	1軀	制作年不詳	木	岐阜市歴史博物館
7	加納鉄哉	鬼念仏像	1軀	制作年不詳	木、彩色	岐阜市歴史博物館
8	加納鉄哉	伶人 降魔舞 (雛飾りのうち)	5軀1組 2軀1組	制作年不詳	木、彩色	岐阜市歴史博物館寄託
9	牧俊高	[絃上]	1軀	制作年不詳	木、彩色	個人蔵
10	池野哲仙	蘭陵王面	1面	大正時代初期～昭和7年(1932)頃	木、彩色	静岡市
11	池野哲仙	蘭陵王	1軀	昭和2年(1927)	木、彩色	さいたま市岩槻人形博物館
12	池野哲仙	蘭陵王之舞	1軀	昭和4～7年(1929～32)頃	木、彩色	静岡市
13	池野哲仙	五人雅楽	5軀1組	昭和4年(1929)	木、彩色	さいたま市岩槻人形博物館
14	池野哲仙	白武悪面	1面	大正時代初期～昭和7年(1932)頃	木、彩色	静岡市
15	池野哲仙	百人一衆	1基	昭和9～11年(1934～36)頃	木、彩色	静岡市
16	池野哲仙	時代風俗人形頒布会 第一回頒布品	5軀	昭和9年(1934)頃	陶、木、彩色	さいたま市岩槻人形博物館
17	白澤会 同人合作	六歌仙	6軀1組	昭和10年(1935)頃	木、布、彩色ほか	さいたま市岩槻人形博物館
18	平野富山	羽衣	1基	昭和時代初期～昭和30年代後半	木、彩色	静岡市
19	平野富山	八重垣姫	1軀	昭和13年(1938)頃～昭和30年代後半	木、彩色	静岡市
20	平野富山	おぼろ夜	1軀	昭和14年(1939)頃	木、彩色	静岡市
21	平野富山	三番叟	3軀1組	昭和時代初期～昭和30年代後半	木、彩色	静岡市
22	平野富山	びわ	1軀	昭和時代初期～昭和30年代後半	木、彩色	荒川区
23	平野富山	稚児雛	一式	昭和時代初期	木、彩色	静岡市
24	平野富山	三輪雛	1対	昭和時代初期～昭和30年代後半	木、彩色	個人蔵
25	平野富山	こだま	1軀	昭和時代初期～昭和30年代後半	木、彩色	個人蔵
26	平野富山	[無題]	1軀	昭和時代初期～昭和30年代後半	木、彩色	静岡市
27	平野富山	七福神	7軀	恵比須、大黒、弁天、布袋、福祿寿/ 昭和時代初期～昭和30年代後半 毘沙門、寿老/ 昭和44～51年(1969～76)頃	木、布、彩色	個人蔵
資料1		『牧俊高氏能楽木彫陳列會目錄』	1枚		紙、印刷	荒川区
資料2	池野哲仙	畵案小品	1冊	明治38年(1905)	紙、墨、淡彩	荒川区
資料3	池野哲仙	写生(鯉)	1枚	明治35年(1902)	紙、墨、淡彩	荒川区
資料4	池野哲仙	写生(雉、梧桐実)	1枚	明治時代後期	紙、墨、淡彩	荒川区
資料5	池野哲仙	写生(海老)	1枚	明治37年(1904)	紙、墨	荒川区
資料6	池野哲仙	写生帖	1冊	明治45年(1912)	紙、墨、淡彩	荒川区
資料7		『池野鐵寛作 木彫吉野雛』	1枚		紙、印刷	荒川区
資料8	池野哲仙	写生(松壽作雛人形)	1枚	明治43年(1910)	紙、墨	荒川区
資料9	池野哲仙	写生(東大寺八幡宮陵王面)	1枚	制作年不詳	紙、墨、淡彩	荒川区
資料10	池野哲仙	図案(蘭陵王)	1枚	明治39年(1906)	紙、墨、淡彩	荒川区
資料11	池野哲仙	《百人一衆》背景型紙	一式	昭和9～11年(1934～36)頃	紙、墨、朱	荒川区
資料12	平野富山	画帖	1冊	昭和5～6年(1930～31)頃	紙、鉛筆、墨、淡彩	個人蔵
資料13	平野富山	画帖	1冊	昭和7年(1932)頃	紙、鉛筆	個人蔵
資料14	平野富山	画帖	1冊	昭和6～7年(1931～32)頃	紙、鉛筆、墨、淡彩	個人蔵
資料15		土産物(櫛(相撲取り)、櫓)	一揃	昭和30年代後半		個人蔵
資料16		図案(国技館みやげ、櫓)	1枚	制作年不詳	紙、墨、着彩	荒川区

2 西洋彫刻の仕事と平櫛田中との歩み―「敬吉」時代

作品番号	作者名	作品名称	員数	制作年代	材質技法	所蔵者
28	齋藤素蔵	農業(建築装飾八部作コムボジ ションのうち)	1軀	原型:昭和5年(1930) ※出品作は没後鑄造	ブロンズ	小平市
29	齋藤素蔵	工業(建築装飾八部作コムボジ ションのうち)	1軀	原型:昭和5年(1930) ※出品作は没後鑄造	ブロンズ	小平市
30	齋藤素蔵	構図	1基	原型:昭和18年(1943) ※出品作は没後鑄造	ブロンズ	小平市
31	齋藤素蔵	七十近し	1基	昭和31年(1956)	石膏	小平市
32	齋藤素蔵	老人	1基	昭和39年(1964)	石膏、着色	小平市
33	平野富山	ポデービルダー	1軀	昭和30年(1955)	石膏	静岡市

作品番号	作者名	作品名称	員数	制作年代	材質技法	所蔵者
34	平野富山	若人	1軀	昭和31年(1956)	石膏	個人蔵
35	平野富山	裸婦	1軀	原型:昭和34年(1959) ※出品作は没後制作	FRP	静岡市
36	平野富山	斜光	1軀	原型:昭和37年(1962) ※出品作は没後制作	FRP	静岡市
37	平野富山	おもがえり	1軀	原型:昭和47年(1972) ※出品作は没後制作	FRP	静岡市
38	平野富山	しづか	1軀	昭和49年(1974)	石膏	静岡市
39	平野富山	〔顔〕	1面	昭和46年(1971)	ブロンズレリーフ	静岡市
40	平櫛田中	遠き思ひ	1軀	大正5年(1916)	木	東京藝術大学
41	平櫛田中	尋牛	1軀	制作年不詳	木	小平市平櫛田中彫刻美術館
42	平櫛田中	靈亀随	1軀	昭和11年(1936)頃	木	小平市平櫛田中彫刻美術館
43	平櫛田中	源 頼朝公	1軀	昭和8年(1933)	木、彩色	井原市立平櫛田中美術館
44	平櫛田中	源 頼朝像	1軀	昭和9年(1934)	木、彩色	東京藝術大学
45	平櫛田中	浅野長勲公寿像	1軀	昭和24年(1949)	木、彩色	東京藝術大学
46	平櫛田中	平安老母	1軀	昭和11年(1936)	木、彩色	東京藝術大学
47	平櫛田中	慶典読書奉仕	1軀	昭和12年(1937)	木、彩色	井原市立平櫛田中美術館
48	平櫛田中	烏有先生像	1軀	昭和16年(1941)	木、彩色	東京藝術大学
49	平櫛田中	橋弁慶	2軀1組	昭和25年(1950)	木、彩色	小平市平櫛田中彫刻美術館
50	平櫛田中	楠公	1軀	昭和29年(1954)頃	木、彩色	小平市平櫛田中彫刻美術館
51	平櫛田中	鏡獅子試作裸形	1軀	昭和13年(1938)	木、彩色	早稲田大学坪内博士記念演劇博物館
52	平櫛田中	試作鏡獅子	1軀	昭和20年(1945)	木、彩色	株式会社歌舞伎座
53	平櫛田中	鏡獅子試作頭	1基	原型:昭和13年(1938) ※出品作は昭和34年(1959)鑄造と同型	ブロンズ、金箔、彩色	井原市立平櫛田中美術館
54	平櫛田中	雲林	1軀	昭和27年(1952)	木、彩色	井原市立平櫛田中美術館
55	平櫛田中	六奏歌	1軀	昭和28年(1953)	木、彩色	小平市平櫛田中彫刻美術館
56	平櫛田中	西山逍遥	1軀	昭和32年(1957)	木、彩色	東京国立近代美術館
57	平櫛田中	靈亀随	1軀	昭和11年(1936)※彩色は後年	木、彩色	日本芸術院
58	平櫛田中	弄花香滿衣	1幅	昭和45年(1970)	紙本墨書	静岡市
59	平櫛田中	桃李花開一杯酒	1幅	昭和52年(1977)	紙本墨書	静岡市
60	平櫛田中	集雅	1面	制作年不詳	紙本墨書	静岡市
61	平櫛田中	平野富世宛書簡	1通	昭和13年(1938)頃	紙本墨書	個人蔵
62	六代目 尾上菊五郎	桜	1幅	昭和3年(1928)	絹本淡彩	静岡市
63	平野富山	粧	1軀	昭和40年代前半～昭和51年(1976)頃	木、彩色	静岡市
64	平野富山	韋駄天童子	1軀	昭和40年代前半～昭和51年(1976)頃	木、彩色	静岡市
65	平野富山	鍾馗	1軀	昭和40年代前半～昭和51年(1976)頃	木、彩色	静岡市
66	平野富山	七福神	7軀	昭和40年代前半～昭和51年(1976)頃	木、彩色	個人蔵
67	平野富山	福童子	1軀	昭和40年代前半～昭和51年(1976)頃	木、彩色	静岡市
68	平野富山	福童子	1軀	昭和40年代前半～昭和51年(1976)頃	木、彩色	荒川区
69	平野富山	筒井筒	1軀	昭和40年代前半～昭和51年(1976)頃	木、彩色	静岡市
70	平野富山	親王雛	1対	昭和40年代前半～昭和51年(1976)頃	木、彩色	静岡市
71	平野富山	吉野雛	一式	昭和40年代前半～昭和51年(1976)頃	木、彩色	個人蔵
72	平野富山	扇面散らし文様欄間	2基	制作年不詳	木、彩色	静岡市
資料17		星取り機	1基			個人蔵
資料18		六代目尾上菊五郎写真	2枚	昭和11年(1936)頃		個人蔵
資料19	平野富山	図案〔鏡獅子彩色文様〕	2枚	制作年不詳	紙、墨	個人蔵
資料20	平野富山	覚書	1冊	制作年不詳	紙、鉛筆、墨	個人蔵
資料21	平野富山	図案集	1冊	制作年不詳	紙、鉛筆	個人蔵

3 彩色木彫家・平野富山

作品番号	作者名	作品名称	員数	制作年代	材質技法	所蔵者
73	平野富山	聖徳太子二歳像	1軀	昭和52～平成元年(1977～89)頃	木、彩色	静岡市
74	平野富山	聖徳太子立像	1軀	昭和52～平成元年(1977～89)頃	木、彩色	清水銀行
75	平野富山	立待月	1軀	昭和52年(1977)頃	木、彩色	個人蔵
76	平野富山	吉祥天	1軀	昭和52～平成元年(1977～89)頃	木、彩色	静岡市
77	平野富山	良寛像	1軀	昭和52～平成元年(1977～89)頃	木、彩色	静岡市
78	平野富山	利休像	1軀	昭和52～平成元年(1977～89)頃	木、彩色	個人蔵
79	平野富山	天神	1軀	昭和52～平成元年(1977～89)頃	木、彩色	静岡市

作品番号	作者名	作品名称	員数	制作年代	材質技法	所蔵者
80	平野富山	孫	1龕	昭和52～平成元年(1977～89)頃	木、彩色	静岡市
81	平野富山	福ねずみ	1龕	昭和52～平成元年(1977～89)頃	木、彩色	個人蔵
82	平野富山	福鼠御嫁入り	1龕	昭和52～平成元年(1977～89)頃	木、彩色	個人蔵
83	平野富山	龍	1龕	昭和52～平成元年(1977～89)頃	木、彩色	荒川区
84	平野富山	瑞果喜猿	1龕	昭和52～平成元年(1977～89)頃	木、彩色	静岡市
85	平野富山	福寿恵比須尊像	1龕	昭和52～平成元年(1977～89)頃	木、彩色	清水銀行
86	平野富山	福寿大黒天尊像	1龕	昭和52～平成元年(1977～89)頃	木、彩色	清水銀行
87	平野富山	三輪雛	一対	昭和52～平成元年(1977～89)頃	木、彩色	静岡市
88	平野富山	蘭陵王面	1面	昭和52～平成元年(1977～89)頃	木、真鍮、彩色	荒川区
89	平野富山	犬	1龕	昭和52～平成元年(1977～89)頃	木、彩色	静岡市
90	平野富山	神馬	1龕	昭和53年(1978)頃	木、彩色	静岡市
91	平野富山	神猿	1龕	昭和56年(1981)	木、彩色	静岡市
92	平野富山	鏡獅子	1龕	昭和52～平成元年(1977～89)頃	木、彩色	静岡市
93	平野富山	翁舞	1龕	昭和52～平成元年(1977～89)頃	木、彩色	静岡市
94	平野富山	羽衣舞	1龕	昭和58年(1983)	木、彩色	静岡市
95	平野富山	釈迦如来	1龕	昭和59年(1984)頃	木、彩色	静岡市
96	平野富山	花ごころ	1龕	昭和52～平成元年(1977～89)頃	木、彩色	静岡市
97	平野富山	マフラーの女	1龕	昭和58年(1983)頃	木、彩色	静岡市
98	平野富山	母子順風	1龕	昭和55年(1980)	木、彩色	静岡市
99	平野富山	おさな心	1龕	昭和59年(1984)頃	木、彩色	静岡市
100	平野富山	着衣の女	1龕	昭和59年(1984)	木、彩色	駿府博物館
101	平野富山	干支張子	4龕	昭和52～平成元年(1977～89)頃	紙、彩色	個人蔵
102	平野富山	番合	3点	昭和52～平成元年(1977～89)頃	木、彩色	個人蔵
103	平野富山	帯留 翁面	1点	昭和40年代前半～昭和51年(1976)頃	木、彩色	個人蔵
104	平野富山	〔ループタイ〕狂言面 武悪	1点	昭和52～平成元年(1977～89)頃	木、彩色	個人蔵
資料22	平野富山	図案〔花ごころ彩色文様〕	1枚	昭和52～平成元年(1977～89)頃	紙、鉛筆、淡彩	個人蔵
資料23	池野哲仙	印矩	1個	大正8年(1919)	木、彩色	個人蔵
資料24		印章	12個			個人蔵
資料25		道具類(彫刻刀など)	一揃			個人蔵
資料26		『古今文様大鑑 六』	1冊	昭和8年(1933)	紙、印刷	個人蔵
資料27		『平野富山後援会会員名簿』	1冊	昭和59年(1984)	紙、印刷	個人蔵

2-3 珠玉の東京富士美術館コレクション 西洋絵画の400年

会期：7月26日(金)～9月23日(月・祝)

概要：1983年に東京都八王子市に開館した東京富士美術館は、国内外で制作された幅広い時代の絵画・版画・彫刻・写真・陶磁器等を約3万点収蔵している。とくにその西洋絵画コレクションは、16世紀のイタリア・ルネサンスから20世紀の近現代美術までを網羅し、国内屈指の充実度を誇る。本展では同館の所蔵品から選りすぐられた80点余の西洋絵画を展覧した。

西洋では伝統的に神話画や宗教画が高尚な絵画ジャンルとして重視されたが、近代になると斬新な絵画主題の開拓や、造形表現そのものの革新へと画家たちの関心が移っていった。モネ、ルノワール、ゴッホ、シャガールといった人気画家のほか、ティントレット、ヴァン・ダイク、クロード・ロランら古典的巨匠オールド・マスターの名画を通して、西洋絵画400年の歴史を紹介した。

巡回先：山口県立美術館、茨城県立近代美術館、大分県立美術館、宮崎県立美術館、沖縄県立博物館・美術館、岡山県立美術館、栃木県立美術館、佐賀県立美術館、熊本県立美術館、富山県美術館

主催：静岡市、静岡市美術館 指定管理者(公財)静岡市文化振興財団、静岡新聞社・静岡放送

後援：静岡市教育委員会、静岡県教育委員会

特別協賛：清水銀行

協力：NTYニット美術センター

観覧料：一般 1,400円(1,200円)

大高生・70歳以上 1,000円(800円)

※()内は前売および20名以上の団体料金

※中学生以下無料

※障がい者手帳等をご持参の方および介助者原則1名は無料

観覧者数：71,643人(有料60,627人、無料11,016人、有料率84.62%)

出品点数：83点

制作物：

1)チラシ

<仕様>紙：マットコート 90kg

サイズ・加工・数量：A3二つ折り(仕上A4) 265,000部

2)ポスター

<仕様>紙：マットコート 110kg

サイズ・数量：B1 50部、B2 2,500部、B3 4,120部(うち400部はJR帯つき)



チラシ表面



チラシ裏面



チラシ中面



B1・B2ポスター



B3ポスター

カタログ：

＜仕様＞190×250mm、217頁



カタログ表紙

カラー図版83点

参考図版(カラー)25点)

岡部昌幸「芸術に見える人間の心と知性—東京富士美術館コレクションでたどる西洋絵画史」

澤渡麻里「珠玉の東京富士美術館コレクション、あるいは西洋絵画ははじめの一歩」

「コラム1 天使とキューピッド、そしてプットー」

「コラム2 ヌードは世に連れ……西洋美術における裸体像の変遷」

「コラム3 芸術とパトロン」

「コラム4 作品の画題と主題」

「コラム5 時代によって変わってきた、絵画の中の「遠近感」

「コラム6 花の絵の東西」

「コラム7 “He has been here and fired a gun”」

「コラム8 絵画と写真」

「コラム9 シュルレアリスムの手法」

「コラム10 モネとジヴェルニー」

西洋美術の流れ 15-19世紀—第Ⅰ部を中心に／西洋美術の流れ 19-20世紀—第Ⅱ部を中心に／出品作品リスト

編集：澤渡麻里(茨城県近代美術館)、大橋弘明(東京富士美術館)

発行：東京富士美術館

発行年：2019年

普及ツール：

1)本展オリジナルミニDMの作成・配布

ハガキサイズのミニDMを制作し、市内店舗等へ配布した。

制作物：

◆ミニDM

＜仕様＞紙：ジェントルフェイス 175kg

サイズ・数量：100×148mm 15,000部



ミニDM表面



ミニDM裏面

2)撮影可能エリアの設定とフォトスポットの設置

来館者のSNS等での情報発信を期待し、展示室内の最後のエリアを区切り、ユトリロ、モネ、キスリングの作品を撮影可能としたほか、出口付近にも東京富士美術館を代表する作品《サン＝バルナール峠を越えるボナパルト》を使用したフォトスポットを設置した。

3)「赤」コーデで観覧の方へのプレゼント企画

出品作品ヴァン・ダイク《ベッドフォード伯爵夫人 アン・カーの肖像》、ルノワール《赤い服の女》などにちなみ、7月26日(金)から8月12日(月・祝)の期間、「赤」のコーディネート(赤い洋服、帽子、ストール、バッグ、ネクタイ等)でご観覧の方へ、当館オリジナルグッズをプレゼントした。

利用者数：3,520人

各種連携：

1)近隣店舗との連携

葵タワー内および近隣店舗で、展覧会入場者への優待サービスの実施、本展に合わせた特別メニューの提供を行った。

制作物：

◆チラシ

＜仕様＞紙：マットコート 70kg

サイズ・数量：A4 4,000部



協賛チラシ表面



協賛チラシ裏面

2)静岡県立美術館との相互特典の実施

当館で静岡県立美術館にて開催の「カナレットとヴェネツィアの輝き」の半券を提示すると、当館オリジナルグッズをプレゼント、静岡県立美術館で当館の半券を提示すると、観覧料金を団体料金に割り引きする相互特典を実施した。

利用者数：静岡県立美術館268人、当館407人

主要広報記録：

1) テレビ・ラジオ

- ・「展覧会紹介」SBSテレビ『Soleいいね!』、6月18日放送。
- ・「展覧会紹介」SBSテレビ『BUZZ』、6月28日放送。
- ・「展覧会紹介」SBSラジオ『ゴゴボラケ』、7月3日放送。
- ・「「西洋絵画の400年」展覧会始まる」SBSテレビ『県内ニュース』、7月26日放送。
- ・「展覧会紹介」FM-Hil『chalchalサタデー 静岡ドライブインフォメーション』、7月27日放送。
- ・「展覧会紹介」SBSラジオ『鉄崎幹人のWASABI』、7月30日放送。
- ・「展覧会紹介」K-MIX『K-MIX MOVE ON』、7月30日放送。
- ・「展覧会紹介」SBSラジオ『ゴゴボラケ』、8月7日放送。
- ・「モネ、ゴッホ、ルノワールも 最大級の西洋絵画コレクション 静岡に」SBSテレビ『LIVEしずおか』、8月12日放送。
- ・「3万人来場で記念セレモニー」SBSテレビ『県内ニュース』、8月29日放送。
- ・「展覧会紹介」FM-Hil『ひるラジ静岡情報館』、9月13日放送。

2) 新聞

- ・「静岡市美術館学芸員が語る 珠玉の東京富士美術館コレクション 西洋絵画の400年」『聖教新聞』、5月10日。
- ・「街の発展こそ 美術館の使命」『聖教新聞』、6月8日。
- ・深尾茅奈美「繊細で秀逸な質感描写①」『静岡新聞』、7月2日。
- ・深尾茅奈美「英雄のイメージを流布②」『静岡新聞』、7月3日。
- ・深尾茅奈美「リアルさ離れ独自表現③」『静岡新聞』、7月4日。
- ・深尾茅奈美「日本愛投影の画面構成④」『静岡新聞』、7月5日。
- ・鈴木明芽「東京富士美術館の名画、一堂に」『静岡新聞』、7月25日。
- ・鈴木明芽「教科書で学んだ!美術史たどる83点」『静岡新聞』、7月27日。
- ・「東京富士美術館 西洋絵画所蔵展 静岡市美術館で開幕」『聖教新聞』、7月27日。
- ・「県内で楽しむアートさんぽ」『静岡新聞 週刊YOMOっと静岡』、7月28日。
- ・小出禎樹「西洋絵画の400年一堂」『毎日新聞』静岡版、7月29日。
- ・「静岡のホテルでアフタヌーンティー 美術展合わせ提供」『静岡新聞』、7月31日。
- ・「西洋絵画400年の名作集う」『読売新聞』静岡版、8月18日。
- ・鈴木明芽「西洋絵画400年展に3万人」『静岡新聞』、8月29日。
- ・「西洋絵画400年展 5万人達成」『静岡新聞』、9月15日。

3) 雑誌他

- ・「展覧会紹介」『美術展びあ 2024』。
- ・「展覧会紹介」『和楽』、6・7月号。
- ・「展覧会紹介」『和楽』、8・9月号。
- ・「展覧会紹介」『InRed』、8・9月号。
- ・「「西洋絵画の400年」を静岡市美術館で学ぼう」『芸術新潮』、8月号。
- ・「展覧会紹介」『和楽』、10・11月号。
- ・「展覧会紹介」『すろ〜かる』、8月号。
- ・「西洋絵画の400」『富士ニュース』、23429号。
- ・「展覧会紹介」『すろ〜かる』、9月号。

4) ウェブサイト等(媒体名のみ記載)

「アットエス」、「Fashion Press」、「日経REVIVE」、「Sfumart」、「アートアジェンダ」、「たびらい」、「TOKAIケーブルネットワークHP、SNS」、「美術屋・百兵衛ONLINE」、「ウェブ版「美術手帖」」、「アットエス」



8月28日 来場者3万人達成

関連事業：

1) 記念講演会「名画を旅する90分」

概要：

ルネサンスから20世紀にいたるまでの西洋絵画の流れを、展覧会出品作品の解説も交えながらお話しいただいた。絵画のジャンルとそのランク付け、近代における絵画の革新など、展覧会の構成に沿った内容で、豊富なスライドで出品作以外の作品も適宜参照しながら進められた。参加者からは「名画の裏話、背景を知れて期待以上だった。とても分かりやすいお話で、聞きやすかった」など好意的な反応が多かった。

日時：7月27日(土)14:00-15:30

会場：多目的室 参加者数：74人

講師：五木田聡氏(東京富士美術館前館長)

主要広報記録：

◆新聞

・「西洋絵画の主題 序列や構図を解説」『静岡新聞』、7月28日。



2) 当館学芸員によるスライドトーク

概要：展覧会に対する理解を深めるため、当館学芸員によるスライドトークを会期中実施した。

日時：①8月24日(土) ②9月7日(土) いずれも14:00-

会場：多目的室 参加者数：計155人

参加料：無料



I. 絵画の「ジャンル」と「ランク付け」

I-1. 歴史画——神話、物語、歴史を描く～絵画の最高位～

作品番号	作家名	作品名	制作年	技法／素材
1	ベルナルド・ストロツィ	アブドミノに奪われた王位を返還するアレクサンドロス大王	1615-17年頃	油彩／カンヴァス
2	ヘラルト・デ・ライッセ	天使たちを迎えるアブラハム	17世紀後半	油彩／カンヴァス
3	アールト・デ・ヘルダー	ダヴィデ王を諫めるナタン	1683年	油彩／カンヴァス
4	ノエル＝ニコラ・コワベル	ヴィーナスの誕生	1732年頃	油彩／カンヴァス
5	クラウディオ・フランチェスコ・ボームン	ハンニバルの生涯——場面不詳(スペイン進軍前日に生け贄の準備をするハミルカル?)	1731-47年	油彩／カンヴァス
6	クラウディオ・フランチェスコ・ボームン	ハンニバルの生涯——ローマに対する永遠の憎しみを誓う少年ハンニバル	1731-47年	油彩／カンヴァス
7	クラウディオ・フランチェスコ・ボームン	ハンニバルの生涯——サグントゥムの戦いを前に勝利品の報酬を約束し、兵士を鼓舞するハンニバル	1731-47年	油彩／カンヴァス
8	クラウディオ・フランチェスコ・ボームン	ハンニバルの生涯——財産を町に集めるサグントゥムの人々	1731-47年	油彩／カンヴァス
9	クラウディオ・フランチェスコ・ボームン	ハンニバルの生涯——ハンニバルに財産を差し出すサグントゥムの人々	1731-47年	油彩／カンヴァス
10	クラウディオ・フランチェスコ・ボームン	ハンニバルの生涯——アルプスを越えるハンニバル	1731-47年	油彩／カンヴァス
11	フランソワ・ブーシェ	田園の奏楽	1743年	油彩／カンヴァス
12	ジャック＝ルイ・ダヴィッドの工房	サン＝ベルナル峠を越えるボナパルト	1805年	油彩／カンヴァス

I-2. 肖像画——王侯貴族から市民階級へ～あるべき姿/あるがままの姿～

作品番号	作家名	作品名	制作年	技法／素材
13	ティントレット(ヤコボ・ロブスティ)	蒐集家の肖像	1560-65年	油彩／カンヴァス
14	フランス・ハルス	男の肖像	1633年	油彩／カンヴァス
15	アントニー・ヴァン・ダイク	アマリア・ファン・ソルムス＝ブラウンフェルスの肖像	1629年	油彩／カンヴァス
16	アントニー・ヴァン・ダイク	ベッドフォード伯爵夫人 アン・カーの肖像	1639年	油彩／カンヴァス
17	ジャン＝マルク・ナティエ	フェルテ＝アンボワーズ侯爵夫人	1740年	油彩／カンヴァス
18	フランシスコ・デ・ゴヤ・イ・シルシエンテス	ブルボン＝ブラガンサ家の王子、ドン・セバスティアン・マリー・ガブリエル	1815-20年頃	油彩／カンヴァス
19	ジャック＝ルイ・ダヴィッドの工房	戴冠式の皇帝ナポレオン	1808年頃	油彩／カンヴァス
20	エリザベート＝ルイズ・ヴィージェルブラン	ルイ16世の妹 エリザベート王女	1782年	油彩／カンヴァス
21	ロベール・フェーヴル	ナポレオン1世	19世紀	油彩／カンヴァス
22	ジャック＝ルイ・ダヴィッドの工房	ナント侯アントワーヌ・フランセ伯爵の肖像	1811年頃	油彩／カンヴァス
23	ヘンリー・レイバーン	アダム・ファーガソンの肖像	18世紀後半	油彩／カンヴァス
24	ジャン＝フランソワ・ミレー	男の肖像	1840-41年頃	油彩／カンヴァス
25	ジョン・シンガー・サージェント	ハロルド・ウィルソン夫人	1897年	油彩／カンヴァス

I-3. 風俗画——市井の生活へのまなざし

作品番号	作家名	作品名	制作年	技法／素材
26	パオロ・ヴェロネーゼと工房	少年と騎士見習	1570年代	油彩／板から移されたカンヴァス
27	ピエール・ペルギーニ	田園の奏楽	17世紀後半-18世紀初頭	油彩／カンヴァス
28	ジョシュア・レノルズ	少女と犬	1780年頃	油彩／カンヴァス
29	トマス・ゲインズバラ	田舎家の前の人々	1772-73年	油彩／カンヴァス
30	ウィリアム・アドルフ・ブーグロー	漁師の娘	1872年	油彩／カンヴァス
31	ミケレ・ゴルディジャーニ	シルクのソファー	1879年	油彩／カンヴァス
32	ジュール・ジェーム・ルージュロン	鏡の前の装い	1877年	油彩／カンヴァス

I-4. 風景画——「背景」から純粋な風景へ～自然と都市～

作品番号	作家名	作品名	制作年	技法／素材
33	アンドリエス・ファン・エールトフェルト	オランダ船対バーバリ海賊船の海戦	17世紀前半	油彩／カンヴァス
34	ヤン・ファン・ホイエン	釣り人のある川の風景	1644年	油彩／カンヴァス
35	サロモン・ファン・ロイスダール	宿の前での休息	1645年	油彩／カンヴァス
36	ウイレム・デ・ヘウス	木立のある風景	17世紀後半	油彩／カンヴァス
37	ヤン・ハッカールト	イタリヤ的な風景	17世紀	油彩／カンヴァス
38	カナレット(ジョヴァンニ・アントニオ・カナル)	ヴェネツィア、サン・マルコ広場	1732-33年頃	油彩／カンヴァス
39	クロード・ロラン(クロード・ジュレ)	小川のある森の風景	1630年	油彩／カンヴァス
40	ユベール・ロベール	スフィンクス橋の眺め	1767年	油彩／カンヴァス
41	ヤン・グリフィエ	川の風景	17世紀後半-18世紀初頭	油彩／カンヴァス

I-5. 静物画——動かぬ生命、死せる自然

作品番号	作家名	作品名	制作年	技法／素材
42	ジャン＝パティスト・モノワイエ	花	17世紀	油彩／カンヴァス
43	コルネリス・ファン・スベドング	花と果物のある静物	1804年	油彩／カンヴァス
44	アンリ・ファンタン＝ラトゥール	葡萄と桃のある静物	19世紀後半	油彩／カンヴァス
45	ジョセフ・ロデファー・デキャンブ	静物、バラ	1890年頃	油彩／カンヴァス

II. 激動の近現代——「決まり事」の無い世界

II-1. 「物語」の変質

II-1-1. 物語／現実

作品番号	作家名	作品名	制作年	技法／素材
46	ルイ＝レオポルド・ボワイ	ミュスカダンとジャコバン <small>の争い</small> (別名:歌手ピエール＝ジャン・ガラの逮捕)	1795年頃	油彩／板
47	ジャック＝フランソワ・スヴェバック	タボル山の戦い	1812年	油彩／カンヴァス
48	ジョセフ・マラード・ウィリアム・ターナー	ヘレヴーツリュイスから出航するユトレヒトシティ64号	1832年	油彩／カンヴァス
49	ジャン＝パティスト・カミーユ・コロー	もの思い	1865-70年頃	油彩／カンヴァス
50	ジャン＝パティスト・カミーユ・コロー	ユディット	1872-74年頃	油彩／カンヴァス
51	ウジェーヌ・ドラクロワ	手綱を持つチェルケス人	1858年頃	油彩／カンヴァス
52	コンスタントロワイヨン	家畜の群れ	1850-60年代	油彩／カンヴァス
53	ジャン＝フランソワ・ミレー	鷲鳥番の少女	1866-67年	油彩／カンヴァス
54	シャルル＝フランソワ・ドービニー	ヴィレールヴィルの海岸	1870年	油彩／カンヴァス
55	ギュスターヴ・クールベ	水平線上のスコール	1872-73年	油彩／カンヴァス
56	ピエール＝オーギュスト・ルノワール	赤い服の女	1892年頃	油彩／カンヴァス
57	フィンセント・ファン・ゴッホ	鋤仕事をする農婦のいる家	1885年	油彩／カンヴァス
58	ピエール・ボナール	若い女	1905年頃	油彩／カンヴァス
59	エドゥワール・ヴェイヤール	婦人と子供	1904年	油彩／板に貼られた紙
60	マリー＝ローランサン	二人の女	20世紀前半	油彩／カンヴァス
61	アメデオ・モディリアーニ	ポール・アレクサンドル博士	1909年	油彩／カンヴァス

II-1. 「物語」の変質

II-1-2. 幻想の世界へ

作品番号	作家名	作品名	制作年	技法／素材
62	マルク・シャガール	曲馬	1967年	油彩／カンヴァスに貼った紙
63	ジョルジオ・デ・キリコ	ヘクトルとアンドロマケ	1955年	油彩／カンヴァス
64	ルネ・マグリット	観念	1966年	油彩／カンヴァス
65	ルネ・マグリット	再開	1965年	油彩／カンヴァス

II-2. 造形の革新

II-2-1. 光と色彩の饗宴

作品番号	作家名	作品名	制作年	技法／素材
66	ウジェーヌ・ブーダン	ベルクの海岸	1878年	油彩／カンヴァス
67	カミーユ・ピサロ	秋、朝、曇り、エラニー	1900年	油彩／カンヴァス
68	アルフレッド・シスレー	牧草地の牛、ルーヴシエンヌ	1874年	油彩／カンヴァス
69	アルフレッド・シスレー	レディース・コーヴ、ラングランド湾、ウェールズ	1897年	油彩／カンヴァス
70	ポール・セザンヌ	オーヴェールの曲がり道	1873年頃	油彩／カンヴァス
71	ギュスターヴ・カイユボット	トルーヴィルの別荘	1882年	油彩／カンヴァス
72	ポール・ゴッガン	水辺の柳、ボン＝タヴェン	1888年	油彩／カンヴァス
73	アンリ・マルタン	画家の家の庭	1902年	油彩／カンヴァス
74	アンリ・ル・シダネル	森の小憩、ジェルプロワ	1925年	油彩／カンヴァス
75	アンリ・ル・シダネル	黄昏の古路	1929年	油彩／カンヴァス
76	モーリス・ユトリロ	モンマルトル、ノルヴァン通り	1916年頃	油彩／カンヴァス
77	モイーズ・キスリング	花	1929年	油彩／カンヴァス

II-2. 造形の革新
II-2-2. フォルムと空間

作品番号	作家名	作品名	制作年	技法／素材
78	クロード・モネ	睡蓮	1908年	油彩／カンヴァス
79	エミール・ベルナール	城のあるスミュールの眺め	1905年	油彩／カンヴァス
80	アルベール・マルケ	トゥーロン湾の眺め	20世紀前半	油彩／カンヴァス
81	モーリスド・グラマンク	セーヌ河畔の家並み	1910年頃	油彩／カンヴァス
82	ジョルジオ・モランディ	静物	1948-49年	油彩／カンヴァス
83	ジョアン・ミロ	改革	1916年	油彩／カンヴァス

2-4 令和6年度国立美術館巡回展
写真をめぐる100年のものがたり
 京都国立近代美術館コレクションを中心に

会期：10月4日(金)～11月17日(日)

概要：近代写真の父アルフレッド・スティーグリッツが芸術としての写真の確立に努めてから100年以上が経つが、写真はどのように発展し、見られ、語られてきたのか。本展では、日本の美術館で先がけて大規模な写真コレクションを築いた京都国立近代美術館の写真コレクションを中心に、19世紀末から現在に至るまでの68作家・180点余で、多様に広がる写真表現の変遷をたどった。本展の核となるのはアメリカの写真収集家アーノルド&テミー・ギルバート夫妻が収集した「ギルバート・コレクション」である。各時代を代表する写真家の良質なプリントが含まれるこのギルバート・コレクションを基点としながら、写真が紡いできた様々なものがたり(ストーリー)を紐解いた。プリントされ、物質化した写真と向き合うことで、デジタル技術の普及とともに身近な存在となった「写真」の奥深さを改めて提示する機会となった。

巡回先：なし(自主企画展)

主催：静岡市、静岡市美術館 指定管理者(公財)静岡市文化振興財団、京都国立近代美術館、Daiichi-TV

後援：静岡市教育委員会

観覧料：一般 1,300円(1,100円)
 大高生・70歳以上 900円(700円)
 ※()内は前売および20名以上の団体料金
 ※中学生以下無料
 ※障がい者手帳等をご持参の方および介助者原則1名は無料
 ※2回目以降、本展有料観覧券半券提示で当日券200円引きとなるリピーター割引を実施

観覧者数：7,437人(有料4,890人、無料2,547人、有料率65.75%)

出品点数：183点

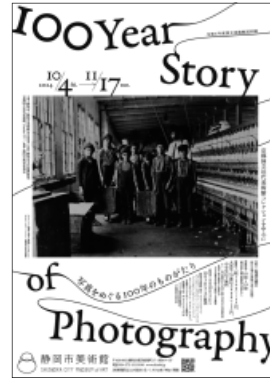
制作物：

1)チラシ

<仕様>紙：b7ナチュラル 99kg
 サイズ・数量：A4 90,000部

2)ポスター

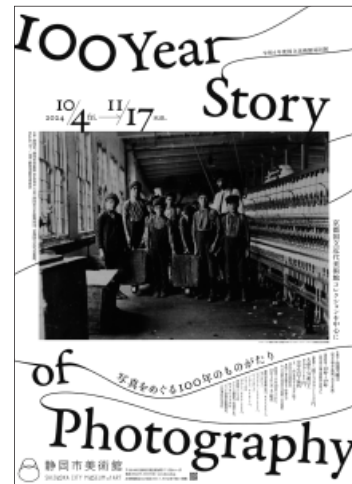
<仕様>紙：テイクGA-FS 135kg
 サイズ・数量：B1 60部、B2 2,050部、B3 2,450部(うち400部はJR帯つき)



チラシ表面



チラシ裏面



B1・B2ポスター



B3ポスター

カタログ：

＜仕様＞165×240mm、224頁



カタログ表紙

カラー図版177点

参考図版(カラー33点、モノクロ3点)

牧口千夏「京都国立近代美術館の写真コレクション」
今橋映子「写真コレクションの「眺め方」—写真創作の連鎖のために」

作品解説／作家略歴／出品作品リスト

執筆：牧口千夏(京都国立近代美術館主任研究員)、今橋映子(東京大学大学院教授)、伊藤鮎(静岡市美術館学芸員)
編集：伊藤鮎、大石沙織(静岡市美術館学芸員)、牧口千夏、山際美優(京都国立近代美術館研究補佐員)、平井啓修(京都国立近代美術館主任研究員)
発行：静岡市美術館、京都国立近代美術館
発行年：2024年

普及ツール：

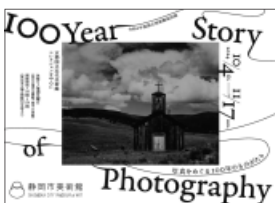
1)本展オリジナルミニDMの作成・配布
ハガキサイズのミニDMを制作し、市内店舗等へ配布した。

制作物：

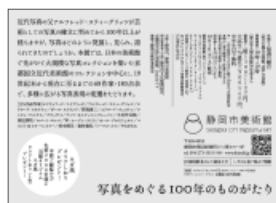
◆ミニDM

＜仕様＞紙：OKD 92 260g/m²

サイズ・数量：100×140mm 15,000部



ミニDM表面



ミニDM裏面

2)ネガ風クリアしおりプレゼントの実施

本展をご観覧の方、先着2,000名に、本展オリジナルクリアしおり(1枚)をプレゼントした。

制作物：

◆クリアしおり

＜仕様＞用紙：PPシート(0.2mm厚)

しおりサイズ：115×40mm



クリアしおり

3)SNS投稿でプレゼントの実施

会期中、「#写真をめぐるわたしのものがたり」「#静岡市美術館」をつけて写真に関連する話題をSNSに投稿した方に、当館オリジナルグッズをプレゼントした。

利用者数：24件

各種連携：

1)近隣店舗との連携

葵タワー内および近隣店舗で、展覧会入場者への優待サービスの実施、本展に合わせた特別メニューの提供を行った。

制作物：

◆チラシ

＜仕様＞紙：マットコート 70kg

サイズ・数量：A4 4,000部



協賛チラシ表面



協賛チラシ裏面

主要広報記録：

1) テレビ・ラジオ

- ・「展覧会紹介」FM-Hi!『chalchalサタデー 静岡ドライブインフォメーション』、9月21日放送。
- ・「“写真をめぐる100年” 静岡市で展覧会 19世紀末からの写真史たどる」Daiichi-TV『every.しずおか』、10月4日放送。
- ・「展覧会紹介」NHK総合『ひるしず』、10月12日放送。
- ・「19世紀末～現代 世界各地の写真展」NHK総合『県内ニュース』、11月3日放送。
- ・「展覧会紹介」NHK総合『ウィークエンド中部』、11月9日放送。

2) 新聞

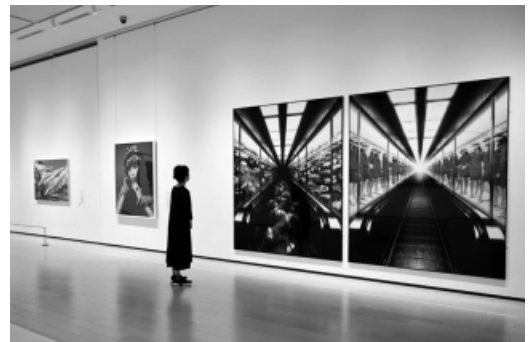
- ・丹野恒一「写真の100年めぐる」『毎日新聞』静岡版、10月17日。
- ・足達優人「写真史100年 表現の変遷」『中日新聞』静岡版、11月10日。

3) 雑誌他

- ・「多様に広がる写真表現の足跡を追う」『美術の窓』、2023年12月号。
- ・「世界屈指の写真コレクションを核に紹介」『美術展びあ 2024』。
- ・「展覧会紹介」『和楽』、8・9月号。
- ・「展覧会紹介」『和楽』、10・11月号。
- ・「展覧会紹介」『そう』、2024年秋号。
- ・「静岡市美術館で10月4日から、約180点で写真史の変遷をたどる」『CAPA』、10月号。
- ・「展覧会紹介」『キャノンフォトサークル』、10月号。
- ・「展覧会紹介」『デジタルカメラマガジン』、10月号。
- ・「展覧会紹介」『PHOTOSAI』、2024 Autumn Vol.46。
- ・「展覧会紹介」『装苑』、11月号。
- ・「展覧会紹介」『懸賞なび』、10月号。
- ・「展覧会紹介」『和楽』、12・1月号。
- ・「展覧会紹介」『すろ～かる』、10月号。
- ・「展覧会紹介」『富士ニュース』、23480号。
- ・「展覧会紹介」『すろ～かる』、11月号。

4) ウェブサイト等(媒体名のみ記載)

「Sfumart」、「デジカメWatch」、「Photo & Culture, Tokyo」、「Fashion Press」、「アートアジェンダ」、「WOMO」、「ウェブ版「美術手帖」」、「全日本写真連盟 静岡県本部HP」、「美術展ナビ」、「日経REVIVE」、「稲沢ケーブルテレビ」、「ArtPhotoSite」、「装苑ONLINE」、「アットエス」、「国立アートリサーチセンター」、「JDN」、「Shuffle by COMMERCIAL PHOTO」、「artscape」



関連事業：

1) 講演会「MoMAK写真コレクションの魅力」

概要：

京都国立近代美術館の学芸員である牧口千夏氏を講師に招き、同館の写真コレクションの特徴を出品作を中心に紹介いただいた。AtoZ方式でキーワードを上げながらの解説により、質の高い国立館のコレクションについてだけでなく、写真史における重要事項も知ることができる充実した内容となった。質疑も活発に出るなど、本展を深く理解する機会となった。

日時：10月19日(土)14:00-15:30

会場：多目的室 参加者数：42人

講師：牧口千夏氏(京都国立近代美術館主任研究員)



2) 講演会「あなたの一枚を探すために一写真の読み方を究める90分」

概要：

本展図録にも寄稿くださった写真史研究・比較芸術研究専門の今橋映子氏を講師に招き、出品作や出品作家を中心に、20世紀写真史における様々な動向を紹介いただいた。写真を読み解くための視点が多数提示されたことで、1枚の写真が持つ豊かさを理解する機会となっただけでなく、日々の創作に活かすための気づきを得られ、普段からカメラに親しんでいる多数の参加者たちから好評を得た。

日時：11月9日(土)14:00-15:30

会場：多目的室 参加者数：77人

講師：今橋映子氏(東京大学大学院総合文化研究科教授)



3) 当館学芸員によるスライドトーク

概要：展覧会に対する理解を深めるため、当館学芸員によるスライドトークを会期中実施した。

日時：10月13日(日)14:00-

会場：多目的室 参加者数：49人

参加料：無料



4) 静岡・音楽館×科学館×美術館共同事業

科学教室「光の跡ののこしかた」

※61頁を参照。

出品作品リスト

- ・作品情報は原則として所蔵者より提供されたデータに従っているが、本展の調査において修正を加えたものがある。
- ・制作年は原則として撮影年を記しているが、ポートフォリオの刊行年等、発表年やプリント年の可能性を含む場合がある。
- ・所蔵先の略称の正式名称は以下のとおり。
MoMAK=京都国立近代美術館
MoMAT=東京国立近代美術館
NMAO=国立国際美術館
SCMoA=静岡市美術館

Chapter 1 写真の自律性にもかかわらず

作品番号	作家名	作品名	制作年	技法	所蔵先
参考	W・H・フォックス・タルボット	題名不詳	不詳	カロタイプ(複製)	MoMAK
1	ジュリア・マーガレット・キャメロン	ジョン・ハーシェル卿	1867/1890	フォトグラビア	MoMAT
2		ジュリア・ジャクソン	1867	アルブミン・プリント	MoMAK
3	フレデリック・H・エヴァンス	ブルー・ジュ・大聖堂、南側廊	1903頃	ブラチナ・プリント	MoMAK
4		サリー州の森	1903頃	ブラチナ・プリント	
5	ロベール・ドマシー	メントーンの通り	1899/1900	フォトグラビア	MoMAT
6	ピーター・ヘンリー・エマソン	「ノーフォーク・ブローズ(湖沼地帯)の暮らした風景」より 沼地からの帰路	1886	ブラチナ・プリント	MoMAT
7	アルフレッド・ステューグリッツ	ターミナル	1892	フォトグラビア	MoMAK
8		春雨、ニューヨーク	1900	フォトグラビア	
9		ニューヨーク中央駅構内	1903	フォトグラビア	
10		三等船室	1907	フォトグラビア	
11		ロウアー・マンハッタン	1910	フォトグラビア	
12	フランク・ユージン	メヌエット	1900	フォトグラビア	MoMAK
13	エドワード・スタイケン	メーテルリンク	1901	ハーフトーン	MoMAK
14		白いドレスの婦人	不詳	ハーフトーン	
15		ヴェニス	不詳	フォトグラビア	
16	アン・W・ブリグマン	樹の精	1905	フォトグラビア	MoMAK
17	アルヴィン・ラングドン・コバーン	水に映るマスト	1906	ハーフトーン(ガム・ブラチナ・タイプ)	MoMAK
18		ノートルダム大聖堂	1907	彩色ハーフトーン(ガム・ブラチナ・タイプ)	
19		アルフレッド・ステューグリッツ氏の肖像	1907	フォトグラビア(ガム・ブラチナ・タイプ)	
20		またね(エルシー・トマス)	1908頃	ゼラチン・シルバー・プリント	
21		W・B・イェーツ、ダブリン	1908	ゼラチン・シルバー・プリント	
22	ポール・ストランド	盲目の女、ニューヨーク(原題:フォトグラフ、ニューヨーク)	1916	フォトグラビア	MoMAK
23		サンドイッチマン(原題:フォトグラフ、ニューヨーク)	1916	フォトグラビア	
24		陸橋からの光景(原題:フォトグラフ、ニューヨーク)	1916	フォトグラビア	
25		白いフェンス(原題:フォトグラフ、ニューヨーク)	1916	フォトグラビア	
26	錦古里孝治	野島康三氏	1930	プロムオイル・プリント	MoMAK
27	野島康三	にごれる海	1910	ガム・プリント	MoMAK
28		題名不詳	1926	プロムオイル・プリント	
29		樹	1930	プロムオイル・プリント	
30		仕事場、鋳物	1930	プロムオイル・プリント	
31		題名不詳	1930	プロムオイル・プリント	
32		仏手柑	1930	プロムオイル・プリント	
33		裸の背中	1930	プロムオイル・プリント	
34		題名不詳(モデルF.)	1931	プロムオイル・プリント	
35		千田是也氏	1932	プロムオイル・プリント	
36		細川ちか子氏	1932	プロムオイル・プリント	
37		中川一政写生之図	1919頃	ゼラチン・シルバー・プリント	
38		富本憲吉氏展覧会会場内の写真	1921	ゼラチン・シルバー・プリント	
39		富本憲吉氏展覧会会場内の写真	1921	ゼラチン・シルバー・プリント	
40		岸田劉生氏展覧会写真	1922	ゼラチン・シルバー・プリント	
41		岸田劉生氏展覧会写真	1922	ゼラチン・シルバー・プリント	
42		萬鉄五郎氏展覧会写真	1922	ゼラチン・シルバー・プリント	
43		萬鉄五郎氏展覧会写真	1922	ゼラチン・シルバー・プリント	
44		梅原龍三郎氏画室にて肖像	1926	ゼラチン・シルバー・プリント	
45		富本・リーチ	1934	ゼラチン・シルバー・プリント	

Chapter 2 ストレートな眼差し

作品番号	作家名	作品名	制作年	技法	所蔵先
46	ジャック＝アンリ・ラルティエグ	従姉妹のビヨネードが跳んだ	1905	ゼラチン・シルバー・プリント	MoMAK
47		従姉妹のビヨネードが自転車で転んだ	1907	ゼラチン・シルバー・プリント	
48		ジスウ、ルーザ	1911	ゼラチン・シルバー・プリント	

作品番号	作家名	作品名	制作年	技法	所蔵先
49	ウィラード・ヴァン・ダイク	ロボス岬のエドワード・ウェストン	1929	ゼラチン・シルバー・プリント	MoMAK
50	エドワード・ウェストン	「E」タウン、ニュー・メキシコ	1933	ゼラチン・シルバー・プリント	MoMAK
51		広大な砂丘	1936	ゼラチン・シルバー・プリント	
52		教会堂の扉、ホルニトス	1940	ゼラチン・シルバー・プリント	
53	イモージェン・カニンガム	おきぬげのベッド	1957	ゼラチン・シルバー・プリント	MoMAK
54		ギアリー・ストリートでの自画像	1958	ゼラチン・シルバー・プリント	
55	国吉康雄	モデルの顔	1937	ゼラチン・シルバー・プリント	MoMAK
56		無題(農機具)	1937	ゼラチン・シルバー・プリント	
57		コニーアイランド	1938	ゼラチン・シルバー・プリント	
58	アンドレ・ケルテス	放浪のヴァイオリン弾き、アボニー、ハンガリー	1921	ゼラチン・シルバー・プリント	MoMAK
59		諷刺的な踊り子、パリ	1926	ゼラチン・シルバー・プリント	
60		ボン・デザール	1932	ゼラチン・シルバー・プリント	
61		ワシントン広場	1954	ゼラチン・シルバー・プリント	
62		マルティニーク、1972年1月1日	1972	ゼラチン・シルバー・プリント	
63	ブラッサイ(ギュラ・ハラス)	ピカノとストープ、グランゾーギュスタン通りのアトリエにて	1939	ゼラチン・シルバー・プリント	MoMAK
64		ボン・ヌフ	1949	ゼラチン・シルバー・プリント	
65	アンリ・カルティエ＝ブレッソン	セビーリャ、スペイン	1932	ゼラチン・シルバー・プリント	MoMAK
66		ティヴォリ、イタリア	1933	ゼラチン・シルバー・プリント	
67		ジョージVI世の戴冠式の日、トラファルガー広場、ロンドン	1937	ゼラチン・シルバー・プリント	
68		国民党の最後、1949年、北京	1949	ゼラチン・シルバー・プリント	
69		天使と尼僧	1954	ゼラチン・シルバー・プリント	
70	インゲ・モラス(インゲボルグ)	村の会話、カスティーリャ地方	1956	ゼラチン・シルバー・プリント	MoMAK
71		花嫁付添いの乙女、ナバルカン、カスティーリャ地方	1955	ゼラチン・シルバー・プリント	
72		田舎家の室内、ウッドベリー、コネティカット	1972	ゼラチン・シルバー・プリント	
73	マヌエル・アルバレス・ブラボ	梯子のなかの梯子	1931-32	ゼラチン・シルバー・プリント	MoMAK
74		民衆の湯き	1933-34	ゼラチン・シルバー・プリント	
75	マヌエル・カリーリョ	メキシコ・シティ	1961	ゼラチン・シルバー・プリント	MoMAK
76		メキシコ・シティ	1975	ゼラチン・シルバー・プリント	
77	大辻清司	東京	1950年代/1998	ゼラチン・シルバー・プリント	MoMAT
78		東京、新宿	1950年代/1998	ゼラチン・シルバー・プリント	
79		東京	1950年代/1998	ゼラチン・シルバー・プリント	

Chapter 3 社会をうつす

作品番号	作家名	作品名	制作年	技法	所蔵先
80	ウジェーヌ・アジェ	マネキン	1925	ゼラチン・シルバー・プリント	MoMAK
81		ブティック #91	不詳	ゼラチン・シルバー・プリント	
82	ルイス・ハイン	綿糸工場の子供	1908	ゼラチン・シルバー・プリント	MoMAK
83		綿糸工場の子供達	1908	ゼラチン・シルバー・プリント	
84		破砕機の中の壊し屋少年達	1911	ゼラチン・シルバー・プリント	
85	アンセル・アダムス	鏡の池	1925	ゼラチン・シルバー・プリント	MoMAK
86		ブライダルヴェールの滝、ヨセミテ・ヴァレイ	1927頃	ゼラチン・シルバー・プリント	
87		ライエル山とマクルーア山	1936頃	ゼラチン・シルバー・プリント	
88		テナヤ湖、ヨセミテ国立公園内コネス山	1946頃	ゼラチン・シルバー・プリント	
89		月とハーフトーム、ヨセミテ・ヴァレイ	1960	ゼラチン・シルバー・プリント	
90	ヘレニス・アボット	5番街4、6、8番地の家	1936	ゼラチン・シルバー・プリント	MoMAK
91	ウォーカー・エヴァンズ	建築的習作	1929頃	ゼラチン・シルバー・プリント	MoMAK
92		ペンシルヴェニア州、ベツレヘム	1935	ゼラチン・シルバー・プリント	NMAO
93		バーミンガムの下宿屋の玄関、アラバマ	1936	ゼラチン・シルバー・プリント	MoMAK
94		ストア・ビルディング、ミシシッピ州ヴィクスバーグ	1936	ゼラチン・シルバー・プリント	NMAO
95	ドロシア・ラング	耕作	1930年代	ゼラチン・シルバー・プリント	MoMAK
96		キャベツ畑で働く人々	1930年代	ゼラチン・シルバー・プリント	
97	ダニール・ライオン	ファーガソン刑務所の農園	1967	ゼラチン・シルバー・プリント	MoMAK
98		ファーガソン刑務所の農園	1968	ゼラチン・シルバー・プリント	
99	木村伊兵衛	冬、秋田	1953	ゼラチン・シルバー・プリント	MoMAT
100		青年、秋田	1952	ゼラチン・シルバー・プリント	
101		板塙、秋田	1953	ゼラチン・シルバー・プリント	

作品番号	作家名	作品名	制作年	技法	所蔵先
102		姑、秋田	1954	ゼラチン・シルバー・プリント	
103	奈良原一高	「人間の土地」より 緑なき島—軍艦島:軍艦島全景	1954-57/1987	ゼラチン・シルバー・プリント	MoMAT
104		「人間の土地」より 緑なき島—軍艦島:地下道	1954-57/1986	ゼラチン・シルバー・プリント	
105		「人間の土地」より 緑なき島—軍艦島:立坑のリフトに乗る坑夫達	1954-57/1986	ゼラチン・シルバー・プリント	
106		「人間の土地」より 緑なき島—軍艦島:アパート俯瞰、昼景	1954-57/1986	ゼラチン・シルバー・プリント	
107	細江英公	鎌鼬 #8	1965	ゼラチン・シルバー・プリント	NMAO
108		鎌鼬 #13	1965	ゼラチン・シルバー・プリント	MoMAK
109	東松照明	沖縄:宮古島①	1972	エバーリッチ・プリント	MoMAK
110		沖縄:宮古島②	1979	エバーリッチ・プリント	
111		沖縄:宮古島③	1979	エバーリッチ・プリント	
112		沖縄:宮古島④	1979	エバーリッチ・プリント	

Chapter 4 語られる写真

作品番号	作家名	作品名	制作年	技法	所蔵先
113	マーガレット・パーク=ホワイト	題名不詳	不詳	ゼラチン・シルバー・プリント	MoMAK
114	ロバート・キャバ	スペイン(共和軍兵士の死)	1936	ゼラチン・シルバー・プリント	MoMAK
115		イタリー	1944	ゼラチン・シルバー・プリント	
116	ユセフ・カーシュ	ウィンストン・チャーチル	1941	ゼラチン・シルバー・プリント	MoMAK
117		アルベルト・アインシュタイン	1948	ゼラチン・シルバー・プリント	
118		アーネスト・ヘミングウェイ	1958	ゼラチン・シルバー・プリント	
119		ホアン・ミロ	1965	ゼラチン・シルバー・プリント	
120		マルク・シャガール	1965	ゼラチン・シルバー・プリント	
121	ヴェルナー・ビショフ	境内の神官たち、明治神宮	1951-52	ゼラチン・シルバー・プリント	MoMAK
122		クスコ近郊の笛吹き、ペルー	1954	ゼラチン・シルバー・プリント	
123	W・ユージン・スミス	カントリー・ドクター:無題(セリアーニ医師)	1948	ゼラチン・シルバー・プリント	MoMAK
124		カントリー・ドクター:無題(コロラド州クレムリングの遠望)	1948	ゼラチン・シルバー・プリント	
125		カントリー・ドクター:無題(雨の中往診に出るセリアーニ医師)	1948	ゼラチン・シルバー・プリント	
126		カントリー・ドクター:無題(患者を病院へ搬送するセリアーニ医師)	1948	ゼラチン・シルバー・プリント	
127		カントリー・ドクター:無題(娘を治療するセリアーニ医師を見つめる両親)	1948	ゼラチン・シルバー・プリント	
128		カントリー・ドクター:無題(負傷した子供とセリアーニ医師)	1948	ゼラチン・シルバー・プリント	
129		カントリー・ドクター:無題	1948	ゼラチン・シルバー・プリント	
130		カントリー・ドクター:無題	1948	ゼラチン・シルバー・プリント	
131		カントリー・ドクターのジョージ・ジェスマー	1948	ゼラチン・シルバー・プリント	
132		カントリー・ドクター:無題(司祭に電話するセリアーニ医師)	1948	ゼラチン・シルバー・プリント	
133		カントリー・ドクター:無題	1948	ゼラチン・シルバー・プリント	
134		カントリー・ドクター:無題	1948	ゼラチン・シルバー・プリント	
135	アンセル・アダムス	マンザナールから眺めたウィリアムソン山、カリフォルニア	1944	ゼラチン・シルバー・プリント	MoMAK
136	ウィンバロック	森の中の子供	1951	ゼラチン・シルバー・プリント	MoMAK
137	ドロシア・ラング	移民の母	1936	ゼラチン・シルバー・プリント	MoMAK
138	プレッソン=カルティエ・アンリ	パチェルリ枢機卿(後のローマ法王ピウスXII世)、モンマルトル、パリ	1938	ゼラチン・シルバー・プリント	MoMAK
139	W・ユージン・スミス	楽園への歩み	1946	ゼラチン・シルバー・プリント	MoMAK
140		助産婦:ちょっとした思いやりに感激する老人	1951	ゼラチン・シルバー・プリント	

Chapter 5 機械の眼

作品番号	作家名	作品名	制作年	技法	所蔵先
141	エドヴィアード・マイブリッジ	アニマル・ロコモーション #712	不詳/1887	コロタイプ	MoMAK
142	ラーズロー・モホイ=ナジ	ボートフォリオ『10点のフォトグラム 1922-1926』より フォトグラム	1922-26/1973	ゼラチン・シルバー・プリント	MoMAT
143		ボートフォリオ『10点のフォトグラム 1922-1926』より フォトグラム	1922-26/1973	ゼラチン・シルバー・プリント	
144		ボートフォリオ『10点のフォトグラム 1922-1926』より フォトグラム、ラーズローとルチア	1922-26/1973	ゼラチン・シルバー・プリント	
145	マン・レイ	アングルのヴァイオリン	1924	ゼラチン・シルバー・プリント	MoMAK
146	カール・ブロスフェルト	オンダー渦巻状の若い複葉	不詳/1999	ゼラチン・シルバー・プリント	MoMAT
147		キンバイソウの果実	不詳/1999	ゼラチン・シルバー・プリント	
148	アルベルト・レンガー=パッチュ	『アルベルト・レンガー=パッチュ ボートフォリオ』より ビーカー	1934/1978	ゼラチン・シルバー・プリント	MoMAT
149		『アルベルト・レンガー=パッチュ ボートフォリオ』より メスシリンダー、有栓シリンダー	1932/1978	ゼラチン・シルバー・プリント	

作品番号	作家名	作品名	制作年	技法	所蔵先
150	エドワード・ウェストン	ニール	1925	ゼラチン・シルバー・プリント	MoMAK
151		ヌード	1925	ゼラチン・シルバー・プリント	
152		貝	1927	ゼラチン・シルバー・プリント	
153		ヌード	1936	ゼラチン・シルバー・プリント	
154	イモージェン・カニンガム	龍舌蘭	1920年代	ゼラチン・シルバー・プリント	MoMAK
155		ファジェオルの排気筒	1934	ゼラチン・シルバー・プリント	
156	バーバラ・モーガン	チャールズ・ワイドマン『リンチ・タウン』	1938	ゼラチン・シルバー・プリント	MoMAK
157		マーサ・グレアム『世界への手紙』	1940	ゼラチン・シルバー・プリント	
158		サマディ	1940	ゼラチン・シルバー・プリント	
159	アーロン・シズキン	グロスター	1945	ゼラチン・シルバー・プリント	MoMAK
160		メキシコ	1955	ゼラチン・シルバー・プリント	
161	ハリー・キャラハン	エレノア	1948	ゼラチン・シルバー・プリント	MoMAK
162	ネイサン・ラーナー	紐に付けた紙切れ	1938	ゼラチン・シルバー・プリント	MoMAK
163		窓に付いた目	1943	ゼラチン・シルバー・プリント	
164		カリグラフィ、京都	1976	ゼラチン・シルバー・プリント	
165	ケネス・ジョセフソン	マッシュウ、シカゴ	1965	ゼラチン・シルバー・プリント	MoMAK
166	ポール・カボニグロ	スコットランド・アザミ	1958	ゼラチン・シルバー・プリント	MoMAK
167		向日葵	1965	ゼラチン・シルバー・プリント	
168	ブレット・ウェストン	日本:寺の外観	1970	ゼラチン・シルバー・プリント	MoMAK
169		日本:船	1970	ゼラチン・シルバー・プリント	
170	石元泰博	ポートフォリオ『桂』より 十二、賞花亭西面	1953-54 / 1989	ゼラチン・シルバー・プリント	MoMAT
171		ポートフォリオ『桂』より 十四、笑意軒土庇から室内を望む	1981-82 / 1989	ゼラチン・シルバー・プリント	
172	ヘルント&ヒラ・ベッヒャー	冷却塔 [1]	1963-82	ゼラチン・シルバー・プリント	NMAO
		冷却塔 [2]			
		冷却塔 [3]			
		冷却塔 [4]			
		冷却塔 [5]			
		冷却塔 [6]			
		冷却塔 [7]			
		冷却塔 [8]			

Chapter 6 アートになった写真

作品番号	作家名	作品名	制作年	技法	所蔵先
173	杉本博司	プロスペクトパーク・シアター、ニューヨーク	1977	ゼラチン・シルバー・プリント	NMAO
174		ビーコン、ニューヨーク	1979	ゼラチン・シルバー・プリント	
175		バームス、ミシガン	1980	ゼラチン・シルバー・プリント	
176	ジョ・アン・キャリス	ティガーとアップルパイ	1980	Cプリント	MoMAK
177	森村泰昌	だぶらかし(マルセル)	1988	カラー写真	MoMAK
178	トーマス・ルフ	ポートレート(K.クネフェル)	1988	Cプリント	NMAO
179	トーマス・シュトゥルert	ルーヴル美術館4、パリ 1989	1989	Cプリント	MoMAK
180	野村仁	曲がった大気中の自転(旧題「太陽の軌跡—曲線」)	1989	ポラロイド(20×24)	MoMAK
181	石内都	Scars#10 accident 1990	1996 / 1998	ゼラチン・シルバー・プリント	NMAO
182		Scars#54 illness 1994	1996 / 1998	ゼラチン・シルバー・プリント	
183	畠山直哉	プラスト #5707	1998	Cプリント	NMAO
184	やなぎみわ	案内嬢の部屋1F	1997	Cプリント(2点組)	MoMAK
185	ダヤニータ・シン	私としての私 *12点組のうち3点	1999	ゼラチン・シルバー・プリント	MoMAK
186	米田知子	藤田嗣治の眼鏡—日本出国を助けたシャーマンGHQ民政官に送った電報を見る	2015	ゼラチン・シルバー・プリント	NMAO

資料

資料番号	資料名	制作年	技法、材質	所蔵先
R-1	モダンギャラリー開設案内	1915	紙	MoMAK
R-2	『291』第1号	1915年3月	リトグラフ、ジャパン・ヴェラム紙・雑誌(6頁)	MoMAK
R-3	『291』第5/6号	1915年7-8月	リトグラフ、ジャパン・ヴェラム紙・雑誌(6頁)	MoMAK
R-4	『291』第7/8号	1915年9-10月	リトグラフ、ジャパン・ヴェラム紙・雑誌(4頁)	MoMAK
R-5	『291』第10/11号	1915年12月-1916年1月	リトグラフ、ジャパン・ヴェラム紙・雑誌(4頁)	MoMAK
R-6	ザ ファミリー オブ マン ポスター(河野鷹思デザイン)	1956	オフセット、紙	NMAO

書籍

書籍番号	資料名	詳細	所蔵先
B-1	『LIFE』1945年5月21日号	雑誌	SCMoA
B-2	『LIFE』1948年9月20日号	雑誌	SCMoA
B-3	『LIFE(インターナショナル版)』1948年10月11日号	雑誌	SCMoA
B-4	『LIFE』1972年6月2日号	雑誌	SCMoA
B-5	W・ユージン・スミス、アイリーン・M・スミス『写真集 水俣(普及版)』中尾ハジメ訳、三才書房、1982年	書籍	SCMoA
B-6	『The Family of Man』ニューヨーク近代美術館・MACOマガジン、1955年	書籍	SCMoA
B-7	『ザ・ファミリー・オブ・マン』日本経済新聞社企画部、1956年	冊子	SCMoA
B-8	『ザ・ファミリー・オブ・マン(人間家族)日本語解説書』日本経済新聞社、1956年	冊子	SCMoA
B-9	『The Family of Man 写真展 カタログ』G.I.P. Tokyo、1993年	書籍	SCMoA
B-10	『The Family of Man:人間家族』エドワード・スタイケン編、新倉俊一訳、富山房、1994年	書籍	SCMoA

2-5 キース・ヘリング展 アートをストリートへ

会期：11月28日(木) - 1月19日(日)

概要：明るくポップなイメージで、世界中に多くのファンをもつキース・ヘリング(1958-1990)。「アートはみんなのために」という信念のもと、1980年代のニューヨークを中心に地下鉄駅構内やストリートなど日常にアートを拡散させ、混沌とする社会に対し強くメッセージを発信し続けた。ヘリングが駆け抜けた31年の生涯のうち創作活動期間はわずか10年ほどであるが、残された作品に込められたメッセージは今なお多くの人々の共感を呼んでいる。本展では中村キース・ヘリング美術館のコレクションを中心に、絵画や版画、ドローイングなど約150点の作品を通して、ヘリングのアートを体感いただくとともに、その多彩な表現活動を紹介した。

巡回先：森アーツセンターギャラリー、兵庫県立美術館ギャラリー棟、福岡市美術館、名古屋・松坂屋美術館、茨城県近代美術館

主催：静岡市、静岡市美術館 指定管理者(公財)静岡市文化振興財団、テレビ静岡、中日新聞東海本社

後援：静岡市教育委員会

特別協力：中村キース・ヘリング美術館

協力：びあ

企画協力：朝日新聞社、東映

観覧料：一般 1,500円(1,300円)

大高生・70歳以上 1,100円(900円)

※()内は前売および20名以上の団体料金

※中学生以下無料

※障がい者手帳等をご持参の方および介助者原則1名は無料

観覧者数：25,342人(有料18,177人、無料7,165人、有料率71.73%)

出品点数：約150点

制作物：

1)チラシ

<仕様>紙：b7トラネクスト 86kg

サイズ・数量：A4 65,000部

2)ポスター

<仕様>紙：b7トラネクスト 99kg

サイズ・数量：B1 60部、B2 1,700部、B3 2,500部(うち400部はJR帯つき)



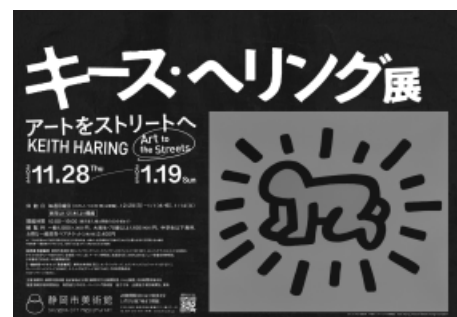
チラシ表面



チラシ裏面



B1・B2ポスター



B3ポスター

普及ツール：

1)音声ガイド

2)本展オリジナルミニDMの作成・配布

コースター型のミニDMを制作し、市内店舗等へ配布した。

制作物：

◆ミニDM

<仕様>紙：ジェントルSホワイトフェイス 175kg

サイズ・数量：115×100mm 15,000部



ミニDM表面



ミニDM裏面

3)早期来場特典の実施

11・12月の平日に展覧会を観覧した方、各日先着50名に、当館オリジナルグッズをプレゼントした。

各種連携：

1)近隣店舗との連携

葵タワー内および近隣店舗で、展覧会入場者への優待サービスの実施、本展に合わせた特別メニューの提供を行った。

制作物：

◆チラシ

<仕様>紙：マットコート 70kg

サイズ・数量：A4 4,000部



協賛チラシ表面



協賛チラシ裏面

主要広報記録：

1)テレビ・ラジオ

- ・「展覧会紹介」K-MIX『K-MIX ROOTS RADIO』、11月21日放送。
- ・「展覧会紹介」FM-Hil『chalchalサタデー 静岡ドライブインフォメーション』、11月23日放送。
- ・「キース・ヘリング展開幕 ストリートなど日常にアートを拡散」テレビ静岡『ただいま!テレビ』、11月28日放送。
- ・「展覧会紹介」FM-Hil『ひるラジ静岡情報館』、12月5日放送。
- ・「キース・ヘリング展 来場1万人達成」テレビ静岡『ただいま!テレビ』、12月24日放送。

2)新聞

- ・高橋哲也「反戦、人種差別撤廃、エイズ予防 社会へメッセージ」『中日新聞』静岡版、11月25日。
- ・飯盛結衣「平和願い ポップな風刺 静岡市美術館 キース・ヘリング展開幕」『中日新聞』静岡版、11月29日。
- ・鈴木弘人「キース・ヘリング「純真」」『中日新聞』静岡版、12月8日。
- ・高橋哲也「作品紹介1 地下鉄駅に描き拡散」『中日新聞』静岡版、12月10日。
- ・高橋哲也「作品紹介2 躍動感あふれる妊婦」『中日新聞』静岡版、12月11日。
- ・高橋哲也「作品紹介3 舞台芸術 大作手掛け」『中日新聞』静岡版、12月12日。
- ・高橋哲也「作品紹介4 差別反対の姿勢表現」『中日新聞』静岡版、12月13日。
- ・高橋哲也「作品紹介5 子どもと対話 大切に」『中日新聞』静岡版、12月15日。
- ・高橋哲也「作品紹介6 未来への希望を託す」『中日新聞』静岡版、12月17日。
- ・飯盛結衣「キース・ヘリング色あせない 展示来場1万人」『中日新聞』静岡版、12月25日。
- ・「社会問題 芸術に ヘリング企画展」『読売新聞』静岡版、1月5日。
- ・丹野恒一「静岡でキース・ヘリング展 多彩なポップアート150点 社会へのメッセージポスターも」『毎日新聞』静岡版、1月6日。

3)雑誌他

- ・「展覧会紹介」『美術の窓』、2023年12月号。
- ・「キース・ヘリングが今こそ伝えたいメッセージ」『美術展びあ2024』。
- ・「展覧会紹介」『芸術新潮』、2024年1月増刊号。
- ・「展覧会紹介」『和楽』、10・11月号。
- ・「展覧会紹介」『和楽』、12・1月号。
- ・「展覧会紹介」『週刊鋼構造ジャーナル』、No.2216。
- ・「展覧会紹介」『和楽』、1・2月号。
- ・「展覧会紹介」『美術展びあ 2025』。
- ・「展覧会紹介」『すろ〜かる』、12月号。
- ・「展覧会紹介」『すろ〜かる』、1月号。
- ・「キース・ヘリング展 19日まで静岡市美術館」『富士ニュース』、23556号。

4)ウェブサイト等(媒体名のみ記載)

「Sfumart」、「稲沢ケーブルテレビ」、「アートアジェンダ」、「インターネットミュージアム」、「日経REVIVE」、「artscape」、「アットエス」、「ウェブ版「美術手帖」



12月24日 来場者1万人達成

関連事業：

1) 講演会「Art to the Streets 1980年代と現在のキース・ヘリング」(対談)

概要：

かつてニューヨークでキース・ヘリングの密着取材を行った経験のある村田真氏と、中村キース・ヘリング美術館ディレクターのHiraku氏を招きお話しいただいた。当時の取材写真からキースの活動を回顧するとともに、美術と社会的活動のふたつの観点から現代における評価、位置付けに迫る内容で、参加者からは「本人と交わりのあった方の生の声を聞くことができ興味深かった」「キースの価値について理解できた」と好評を得た。

日時：12月7日(土)14:00-15:30

会場：多目的室 参加者数：73人

講師：村田真氏(美術評論家/BankARTスクール校長)、
Hiraku氏(中村キース・ヘリング美術館ディレクター)



出品作品リスト

・作者の表記がない作品は、すべてキース・ヘリングが制作したものである。
 ・ヘリングが付けた作品名を(和)で表記し、呼称と区別した。
 ・所蔵者の表記のないものは、すべて中村キース・ヘリング美術館蔵。

作品番号	作者	作品名	技法/材質	制作年	所蔵
1	ツェン・ウウォン・チ	《キース・ヘリング》	タイプCプリント	1987年頃、2006年リプリント	
2		《無題(サブウェイ・ドローイング)》	チョーク、紙、板	1981-83年	
3		《無題(サブウェイ・ドローイング)》	チョーク、紙、板	1981-83年	
4		《無題(サブウェイ・ドローイング)》	チョーク、紙	1980-1982年	アラン・ベルデュアレ蔵、マルトス・ギャラリー寄託
5		《無題(サブウェイ・ドローイング)》	チョーク、紙	1980-1985年	ハビエル・モラ蔵、マルトス・ギャラリー寄託
6		《無題(サブウェイ・ドローイング)》	チョーク、紙	1986年	ジョン・フリードマン蔵、マルトス・ギャラリー寄託
7		《無題(サブウェイ・ドローイング)》	チョーク、紙	1982年	タッカー・ヒュース蔵、マルトス・ギャラリー寄託
8		《無題(サブウェイ・ドローイング)》	チョーク、紙		タッカー・ヒュース蔵、マルトス・ギャラリー寄託
9		《男性器と女性器》	鉛筆、紙	1979年	
10		《無数の小さな男性器の絵》	鉛筆、紙	1979年	
11	エンジェル・オルティス(LAI)との共同制作	《無題》	蛍光スプレー、キャンバス	1983年	
12		《無題》	アクリル、拡大した写真、キャンバス	1988年	
13		《ピラミッド》	シルクスクリーン、アルミ板(アルマイト)	1989年	
14		《ピラミッド》	シルクスクリーン、アルミ板(アルマイト)	1989年	
15		《フラワーズI》	シルクスクリーン、紙	1990年	
16		《フラワーズII》	シルクスクリーン、紙	1990年	
17		《フラワーズIII》	シルクスクリーン、紙	1990年	
18		《フラワーズIV》	シルクスクリーン、紙	1990年	
19		《フラワーズV》	シルクスクリーン、紙	1990年	
20		《ドッグ》	シルクスクリーン、木	1986年	
21		《ストーンズ1》	リトグラフ、紙	1989年	
22		《ストーンズ2》	リトグラフ、紙	1989年	
23		《ストーンズ3》	リトグラフ、紙	1989年	
24		《ストーンズ4》	リトグラフ、紙	1989年	
25		《ストーンズ5》	リトグラフ、紙	1989年	
26		《スリー・リトグラフス》	リトグラフ、紙	1985年	
27		《スリー・リトグラフス》	リトグラフ、紙	1985年	
28		《スリー・リトグラフス》	リトグラフ、紙	1985年	
29		《バッド・ボーイズ》	シルクスクリーン、紙	1986年	
30		《バッド・ボーイズ》	シルクスクリーン、紙	1986年	
31		バッド・ボーイズ(テキスト)	シルクスクリーン、紙	1986年	
32		バッド・ボーイズ(テキスト)	シルクスクリーン、紙	1986年	
33		バッド・ボーイズ(テキスト)	シルクスクリーン、紙	1986年	
34		《バッド・ボーイズ》の収納ケース		1986年	
35		《無題》	シルクスクリーン、紙	1983年	
36		《無題》	シルクスクリーン、紙	1983年	
37		《無題》	シルクスクリーン、紙	1983年	
38		《無題》	シルクスクリーン、紙	1983年	
39		《無題》	シルクスクリーン、紙	1983年	
40		ラリー・レヴァン ライブ音源 パラダイス・ガラージ: 1987年9月25日・28日パラダイスの最後の夜/ ディスク2/5		1987年	
41		スクラッチン		1984年	
42		クラック・イズ・ワック		1987年	
43		人生は何か特別なもの		1983年	
44		サムワン・ライク・ユー		1986年	
45		ウィズアウト・ユー		1983年	
46		ラッキー・ストライク	シルクスクリーン、紙	1987年	
47		ラッキー・ストライク	シルクスクリーン、紙	1987年	
48		ラッキー・ストライク	シルクスクリーン、紙	1987年	
49		《アンディ・マウス》	シルクスクリーン、紙	1986年	
50		《アンディ・マウス》	シルクスクリーン、紙	1986年	
51		《アンディ・マウス》	シルクスクリーン、紙	1986年	
52		《アンディ・マウス》	シルクスクリーン、紙	1986年	
53		《無題(踊る3人のフィギュア Bバージョン)》	アルミニウムにペイント	1989年	

作品番号	作者	作品名	技法/材質	制作年	所蔵
54		《セルフ・ポートレート》	アルミニウムにペイント	1989年	
55		『スウィート・サタデー・ナイト』のための舞台セット	アクリル、モスリン布	1985年	
56		キース・ヘリング:84年へ	オフセット・リトグラフ、紙	1983年	
57		『秘密の牧草地』のための舞台セットの一部	アクリル、キャンバス	1984年	
58		モントルー1983	シルクスクリーン、紙	1983年	
59		モントルー1983	シルクスクリーン、紙	1983年	
60		モントルー1983	シルクスクリーン、紙	1983年	
61		クラブDV8「キース・ヘリングルーム」公開	オフセット・リトグラフ、紙	1986年	
62		甘い生活	シルクスクリーン、紙	1989年	
63		スウォッチ	オフセット・リトグラフ、紙	1984年	
64		《レトロスペクト》	シルクスクリーン、紙	1989年	
65		《沈黙は死》	シルクスクリーン、紙	1989年	
66		無知は恐怖 沈黙は死	オフセット・リトグラフ、光沢紙	1989年	
67		アートを使ったエイズとの戦い	シルクスクリーン、紙	1988年	
68		セーフ・セックス!	オフセット・プリント、厚紙	1987年	
69		ナショナル・カミングアウト・デー	オフセット・リトグラフ、紙	1988年	
70		南アフリカ解放	オフセット・リトグラフ、光沢紙	1985年	
71		ヒロシマ 平和がいいに決まってる!!	オフセット・リトグラフ、紙	1988年	
72		核放棄のためのポスター	オフセット・リトグラフ、光沢厚紙	1982年	
73		クラック・ダウン!	オフセット・リトグラフ、厚紙	1986年	
74		楽しさで頭をいっぱいにして!本を読もう!	オフセット・リトグラフ、光沢厚紙	1988年	
75		ポップショップ	プリント、紙	1986年	
76		《赤と青の物語》	リトグラフ、紙	1989年	
77		《赤と青の物語I》	リトグラフ、紙	1989年	
78		《赤と青の物語II》	リトグラフ、紙	1989年	
79		《赤と青の物語III》	リトグラフ、紙	1989年	
80		《赤と青の物語IV》	リトグラフ、紙	1989年	
81		《赤と青の物語V》	リトグラフ、紙	1989年	
82		《赤と青の物語VI》	リトグラフ、紙	1989年	
83		《赤と青の物語VII》	リトグラフ、紙	1989年	
84		《赤と青の物語VIII》	リトグラフ、紙	1989年	
85		《赤と青の物語IX》	リトグラフ、紙	1989年	
86		《赤と青の物語X》	リトグラフ、紙	1989年	
87		《赤と青の物語XI》	リトグラフ、紙	1989年	
88		《赤と青の物語XII》	リトグラフ、紙	1989年	
89		《赤と青の物語XIII》	リトグラフ、紙	1989年	
90		《赤と青の物語XIV》	リトグラフ、紙	1989年	
91		《赤と青の物語XV》	リトグラフ、紙	1989年	
92		《赤と青の物語XVI》	リトグラフ、紙	1989年	
93		《赤と青の物語XVII》	リトグラフ、紙	1989年	
94		《赤と青の物語XVIII》	リトグラフ、紙	1989年	
95		《赤と青の物語XIX》	リトグラフ、紙	1989年	
96		《赤と青の物語XX》	リトグラフ、紙	1989年	
97		《無題》	スチールにペイント	1986年	
98		《無題(Sマン)》	アルミニウムにペイント	1987年	
99		《ジュリア》	アルミニウムにペイント	1987年	
100		《無題(ハイビーとフィギュア)》	アルミニウムにペイント	1987年	
101		ルナルナ、詩的な狂想劇!!		1986年	
102		《ブループリント・ドローイング(テキスト)》	シルクスクリーン、紙	1990年	
103		《ブループリント・ドローイング》	シルクスクリーン、紙	1990年	
104		《ブループリント・ドローイング》	シルクスクリーン、紙	1990年	
105		《ブループリント・ドローイング》	シルクスクリーン、紙	1990年	
106		《ブループリント・ドローイング》	シルクスクリーン、紙	1990年	
107		《ブループリント・ドローイング》	シルクスクリーン、紙	1990年	
108		《ブループリント・ドローイング》	シルクスクリーン、紙	1990年	
109		《ブループリント・ドローイング》	シルクスクリーン、紙	1990年	

作品番号	作者	作品名	技法/材質	制作年	所蔵
110		《ブループリント・ドローイング》	シルクスクリーン、紙	1990年	
111		《ブループリント・ドローイング》	シルクスクリーン、紙	1990年	
112		《ブループリント・ドローイング》	シルクスクリーン、紙	1990年	
113		《ブループリント・ドローイング》	シルクスクリーン、紙	1990年	
114		《ブループリント・ドローイング》	シルクスクリーン、紙	1990年	
115		《ブループリント・ドローイング》	シルクスクリーン、紙	1990年	
116		《ブループリント・ドローイング》	シルクスクリーン、紙	1990年	
117		《ブループリント・ドローイング》	シルクスクリーン、紙	1990年	
118		《ブループリント・ドローイング》	シルクスクリーン、紙	1990年	
119		《ブループリント・ドローイング》	シルクスクリーン、紙	1990年	
120		《ヘルシダ》	アクリル、キャンバス	1986年	
121		《無題》	アクリル、キャンバス	1988年	
122		《アイコンズ》	シルクスクリーンにエンボス加工、紙	1990年	
123		《アイコンズ》	シルクスクリーンにエンボス加工、紙	1990年	
124		《アイコンズ》	シルクスクリーンにエンボス加工、紙	1990年	
125		《アイコンズ》	シルクスクリーンにエンボス加工、紙	1990年	
126		《アイコンズ》	シルクスクリーンにエンボス加工、紙	1990年	
127		キース・ヘリング トニー・シャブライ画廊	オフセット・リトグラフ、厚紙	1988年	
128		《無題》	墨、和紙	1983年	びあ株式会社蔵
129		《無題》	墨、色紙	1983年	びあ株式会社蔵
130		月刊「Calendar」		1983年	びあ株式会社蔵
131		《無題》	油性ペン、紙	1983年	びあ株式会社蔵
132		《無題》	油性ペン、紙	1983年	びあ株式会社蔵
133		《無題》	墨、紙	1983年	びあ株式会社蔵
134		《無題》	墨、紙	1983年	びあ株式会社蔵
135		《無題》	墨、紙	1983年	びあ株式会社蔵
136		《無題》	墨、紙	1983年	びあ株式会社蔵
137		《無題》	招き猫にペイント	1988年	個人蔵
138		キース・ヘリングが絵を描いた ベースボールユニフォーム		1988年	CHINO氏蔵、中村キース・ヘリング美術館寄託
139		キース・ヘリングが絵を描いたトラックジャケット		1988年	CHINO氏蔵、中村キース・ヘリング美術館寄託
140		ポップショップ東京のスタッフのために作られた スタッフジャンパー		1988年	
141		ポップショップ東京で販売された扇子		1988年	
142		ポップショップ東京のために作られた招待状		1988年	
143		ポップショップ東京で販売されたラジオ		1985年	
144		ポップショップ東京で販売されたラジオ		1985年	
145		ポップショップ東京で販売された缶バッジ		1988年	
146		ポップショップ東京で販売された缶バッジ		1988年	
147		ポップショップ東京で販売された缶バッジ		1988年	
148		ポップショップ東京で販売された缶バッジ		1988年	
149		ポップショップ東京で販売された缶バッジ		1988年	
150		ポップショップ東京で販売された缶バッジ		1988年	
151		ポップショップ東京で販売された茶碗		1988年	
152		ポップショップ東京で販売された茶碗(蓋)		1988年	
153		ポップショップ東京のために作られた紙袋		1988年	
154		ポップショップ東京のために作られた ビニールバッグ		1988年	
155		ポップショップのために作られたビニールバッグ			
■写真	村田真	ニューヨークにて		1982年12月27日-1983年1月4日	
■写真	岸田晃	表参道にて		1988年	
■写真	岸田晃	ポップショップ東京にて		1988年	
■映像		《キース・ヘリング・インターキョー・ハラジュク1988.1.24》		1988年	CHINO蔵、中村キース・ヘリング美術館寄託

2-6 北欧の神秘

—ノルウェー・スウェーデン・フィンランドの絵画

会期：2月1日(土)～3月26日(水)

概要：19世紀以降、北欧では独自の芸術が開花する。それまでフランスやドイツの美術に範を取っていた画家たちは、自国の風土や文化、歴史に関心を寄せるようになり、氷河と森が織りなす固有の風景や、古くから伝わる神話・民間伝承が、絵画主題として人気を博した。とくに世紀転換期の1900年頃は北欧美術の「黄金期」と呼ばれ、ノルウェーのエドヴァルド・ムンクやフィンランドのガッレン＝カッレラなど、後に西洋美術史に名を連ねる画家たちが活躍した。

本展は、日本では目にすることの少ないノルウェー、スウェーデン、フィンランドの絵画が一堂に会する貴重な機会であった。ノルウェー国立美術館、スウェーデン国立美術館、フィンランド国立アテネウム美術館が所蔵する47作家、約70点の作品を通して、「自然」「神話・お伽話」「都市」というテーマを軸に、19世紀後半から20世紀前半に描かれた北欧絵画の魅力をひもといた。

巡回先：SOMPO美術館、松本市美術館、佐川美術館

主催：静岡市、静岡市美術館 指定管理者(公財)静岡市文化振興財団、Daiichi-TV

協賛：DNP大日本印刷

特別協力：スウェーデン国立美術館、フィンランド国立アテネウム美術館、ノルウェー国立美術館

協力：フィンエアー、フィンエアーカーゴ

後援：静岡市教育委員会、スウェーデン大使館、フィンランド大使館、ノルウェー大使館

制作協力：NHKプロモーション

企画協力：S2

観覧料：一般 1,400円(1,200円)

大高生・70歳以上 1,000円(800円)

※()内は前売および20名以上の団体料金

※中学生以下無料

※障がい者手帳等をご持参の方および介助者原則1名は無料

観覧者数：15,378人(有料10,942人、無料4,436人、有料率71.15%)

出品点数：68点

制作物：

1)チラシ

<仕様>紙：b7トラネクスト 99kg

サイズ・数量：A4 100,000部

2)ポスター

<仕様>紙：グラディアCoC 120.5kg

サイズ・数量：B1 60部、B2 1,850部、B3 900部(うち400部はJR帯つき)



チラシ表面



チラシ裏面



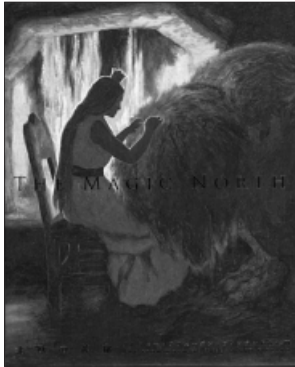
B1・B2ポスター



B3ポスター

カタログ：

<仕様>227×280mm、174頁



カタログ表紙

カラー図版70点

参考図版(カラー63点、モノクロ76点)

パール・ヘードストゥルム「北欧の神秘—イントロダクション」
 カール=ヨーハン・オルソン「序章 神秘の源泉—北欧美術の形成」
 ヴィーベケ・ヴォラン・ハンセン「1章 自然の力」
 アンナ=マリア・フォン・ボンズドルフ「2章 魔力の宿る森—北欧美術における英雄と妖精」
 カール=ヨーハン・オルソン「3章 都市—現実世界を描く」

「北欧の神秘」を紐解くキーワード／美術館紹介／本展の注目作家
[作家解説]／関連年表／展覧会カタログ案内／出品作品リスト

編集：SOMPO美術館、松本市美術館、佐川美術館、静岡市美術館、NHKプロモーション

執筆：パール・ヘードストゥルム、カール=ヨーハン・オルソン
 (スウェーデン国立美術館展覧会部門長代理、19世紀絵画担当学芸員)、カリナ・レッシュ (同美術館学芸員)、アンデシユ・スヴェンソン (同美術館学芸員)、アンナ=マリア・フォン・ボンズドルフ (フィンランド国立アテネウム美術館館長)、ヴィーベケ・ヴォラン・ハンセン (ノルウェー国立美術館学芸員)、古館遼 (SOMPO美術館学芸員)、堀川麗子

翻訳：[英文和訳]朝田千恵 (ノルウェー語翻訳者)、遠藤浩子 (庭園文化研究家)、今野敬子 (翻訳家—仏蘭英)、中澤聡 (松本市美術館学芸員)、深尾茅奈美 (静岡市美術館学芸員)、古館遼、堀川麗子、本橋弥生 (京都芸術大学教授)、[和文英訳]ブライアン・アムスタッツ

現地語読み監修：スウェーデン語：上倉あゆ子 (東海大学文化社会学部北欧学科)、ノルウェー語：朝田千恵、フィンランド語：宇井久仁子

編集協力：木村しのぶ (福本事務所)

発行：NHKプロモーション

発行年：2024年

普及ツール：

1)本展オリジナル名刺型DMの作成・配布
名刺サイズのミニDMを制作し、市内店舗等へ配布した。

制作物：

◆名刺型DM

<仕様>紙：b7トラネクスト 99kg

サイズ・数量：91×55mm 15,000部



名刺型DM表面(計3種)



名刺型DM裏面(計3種)

2)速報チラシ特典

「西洋絵画の400年」の会期中に、館内に本展の速報チラシを配架し、本展の会期中にそのチラシを持参した方に、当館オリジナルグッズをプレゼントした。

利用者数：216人

各種連携：

1)近隣店舗との連携

葵タワー内および近隣店舗で、展覧会入場者への優待サービスの実施、本展に合わせた特別メニューの提供を行った。

制作物：

◆チラシ

<仕様>紙：マットコート 70kg

サイズ・数量：A4 4,000部



協賛チラシ表面



協賛チラシ裏面

2)2月限定トワイライトプレゼントの実施

2月の16時以降に展覧会を観覧した方、各日先着50名に、当館オリジナルグッズをプレゼントした。

主要広報記録：

1) テレビ・ラジオ

- ・「展覧会紹介」NHK Eテレ『日曜美術館アートシーン』、4月21日放送。

2) 新聞

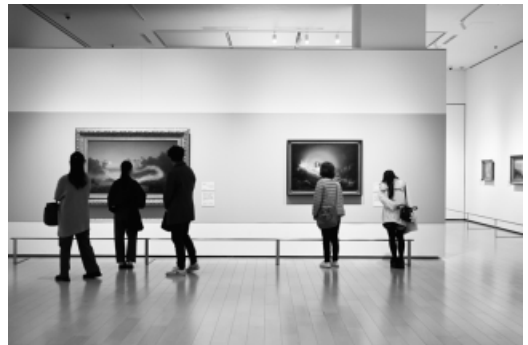
- ・「静岡市美術館 1万人突破」『スポーツ報知』3月14日。
- ・「「北欧の神秘」観覧1万人」『読売新聞』、3月14日。

3) 雑誌他

- ・「展覧会紹介」『美術の窓』、2023年12月号。
- ・「展覧会紹介」『美術展びあ 2024』。
- ・「展覧会紹介」『美術展びあ 2025』。
- ・「展覧会紹介」『和楽』、12・1月号。
- ・「展覧会紹介」『和楽』、1・2月号。
- ・「展覧会紹介」『芸術新潮』2024年1月増刊号。
- ・「展覧会紹介」『週刊鋼構造ジャーナル』No.2225
- ・「展覧会紹介」『フィガロジャポン』、586号、4月号。
- ・「展覧会紹介」『懸賞なび』、3月号。
- ・「展覧会紹介」『清水ベイプレス』、970号。
- ・「展覧会紹介」『スミセイDailyニュース』、No.0197。
- ・「展覧会紹介」『ハビなび 岡崎・幸田版』、Vol.87。
- ・「展覧会紹介」『すろ〜かる』、2月号。
- ・「展覧会紹介」『すろ〜かる』、3月号。

4) ウェブサイト等(媒体名のみ記載)

「Sfumart」、「Fashion Press」、「artscape」、「アートアジェンダ」



3月13日 来場者1万人達成

関連事業：

1) 講演会「北欧の青い風景画—エウシェン・ヤンソンを中心に」

概要：

ドイツおよび北欧美術史が専門の東京藝術大学教授・佐藤直樹氏を講師に招き、北欧絵画の魅力について解説いただいた。ストックホルムの都市景観を描いたエウシェン・ヤンソンを中心に、同時代に活動したエウシェン王子との交流や、ムンクとの比較も紹介された。申込みが定員の倍以上あり、落選者も多く出たが、「ヤンソンの“青い風景”に興味を持った」「気候や文化の違いが絵画にも表れていて興味深い」と好評を得た。

日時：2月23日(日・祝)14:00-15:30

会場：多目的室 参加者数：75人

講師：佐藤直樹氏(東京藝術大学教授)



2) 静岡・音楽館×科学館×美術館共同事業

ミュージアム・コンサート「ムンクとグリーク 2人のエドヴァルドと音楽」

概要：

静岡音楽館AOIとの連携事業として、伊藤春菜氏によるピアノコンサートを実施した。チケットは完売、追加販売を行い当日は67名が参加した。展覧会の内容にあわせ、出品作家であるエドヴァルド・ムンクと同時代のノルウェーの作曲家エドヴァルド・グリークの作品等を演奏した。

日時：3月2日(日)14:30開場 15:00開演

会場：多目的室 参加料：1,500円 参加者数：67人

出演：伊藤春菜(ピアノ)

曲目：E.グリーク：《抒情小品集》第3集 op.43より 第1曲〈蝶々〉
《パール・ギェント》組曲 より〈朝〉、〈アラビアの踊り〉、〈山の魔王の宮殿にて〉ほか



3) 当館学芸員によるスライドトーク

概要：展覧会に対する理解を深めるため、当館学芸員によるスライドトークを会期中実施した。

日時：3月15日(土)14:00-

会場：多目的室 参加者数：55人

参加料：無料



出品作品リスト

・所蔵先の略称の正式名称は以下のとおり。
 [N]：ノルウェー国立美術館 [S]：スウェーデン国立美術館 [F]：フィンランド国立アテネウム美術館

序章 神秘の源泉 ―― 北歐美術の形成

図録番号	作家名	作品名	制作年	技法・素材	所蔵
1	ヴェルネル・ホルムベリ	ハメ地方の郵便路、フィンランド	1860年	油彩・カンヴァス	[F]
2	ファンニユ・グールベリ	ボルヴォー諸島の朝	1873年	油彩・カンヴァス	[F]
3	ファンニユ・グールベリ	白樺の木立	1880年	油彩・カンヴァス	[F]
4	マグヌス・フォン・ヴリクト	リーエラクスの風景、フィンランド	1861年	油彩・カンヴァス	[S]
5	カール・ステファン・ベンネット	ストックホルム宮殿の眺め、冬	制作年不詳	油彩・カンヴァス	[S]
6	ロベルト・ヴァルヘルム・エークマン	イルマタル	1860年	油彩・カンヴァスに貼った紙	[F]
7	アウグスト・マルムストゥルム	踊る妖精たち	1866年	油彩・カンヴァス	[S]
8	ヨーハン・クリスティアン・ダール	山岳風景、ノルウェー	1848年	油彩・カンヴァス	[S]
9	ヨーハン・フレドリク・エッケシュバルグ	雪原	1851年	油彩・カンヴァス	[N]
10	マルクス・ラーション	滝のある岩場の景観	1859年	油彩・カンヴァス	[S]
11	トマス・ファンライ	旅人のいる風景	1830年	油彩・カンヴァス	[N]

1章 自然の力

図録番号	作家名	作品名	制作年	技法・素材	所蔵
12	ブルーノ・リエフォッシュ	密猟者	1894年	油彩・カンヴァス	[S]
13	ニルス・クレーゲル	春の夜	1896年	油彩・パネル	[S]
14	ブルーノ・リエフォッシュ	ワシミズク	1905年	油彩・カンヴァス	[S]
15	ハルマン・ノルマン	雲の影	1899-1902年	油彩・カンヴァス	[S]
16	アンナ・ボーバリ	羊飼いの小屋のある夏の風景、ノルウェー北部での習作	制作年不詳	油彩・カンヴァス	[S]
17	クレーゲル・ニルス	ヴァールバリのホステン丘II	1896年	油彩・カンヴァス	[S]
18	オッスレンド・ヘルメル	カールシューン湖周辺の夏の夜	制作年不詳	油彩・カンヴァス	[S]
19	アンナ・ボーバリ	山に囲まれた湖、ノルウェー北部での習作	制作年不詳	油彩・厚紙に裏打ちした厚紙	[S]
20	ニコライ・アストルプ	ジギタリス	1909年	油彩・カンヴァス	[N]
21	エドヴァルド・ムンク	フィヨルドの冬	1915年	油彩・カンヴァス	[N]
22	ハーラル・ソールバルグ	午後の日差し	1895年	油彩・カンヴァス	[N]
23	ベッカ・ハロネン	河岸	1897年	油彩・カンヴァス	[F]
24	ハンス・フレドリク・グーデ	フースヴィーク栈橋、ドロバック	1875年	油彩・カンヴァス	[S]
25	ニコライ・アストルプ	ユルステルの春の夜	1926年	油彩・カンヴァス	[N]
26	ハルヴァン・エゲーディウス	夏、テレマルクのポー	1896年	油彩・カンヴァス	[N]
27	ガブリエル・エングベリ	湖上の雪解け	1902年	油彩・カンヴァス	[F]
28	ヴェルネル・ホルムベリ	フィンランドの風景	1855年	油彩・カンヴァス	[F]
29	エーロ・ヤルネフェルト	雲の習作	1893年	油彩・カンヴァス	[F]
30	ヴィクトル・ヴェステルホルム	クヌーツボーダの岩	1909年	油彩・カンヴァス	[F]
31	ヴァイノ・プロムステット	初雪	1896年	油彩・木製パネル	[F]
32	ヴァイノ・プロムステット	冬の日	1896年	油彩・木製パネル	[F]
33	アイリフ・ベッテシェン	夜景画	1887年	油彩・カンヴァス	[N]
34	ヴァイノ・プロムステット	弓の射手	1897年	油彩・厚紙に貼ったカンヴァス	[F]

2章 魔力の宿る森 ―― 北歐美術における英雄と妖精

図録番号	作家名	作品名	制作年	技法・素材	所蔵
35	テオドール・キッテルセン	アスケラッドとオオカミ	1900年	油彩・カンヴァス	[N]
36	テオドール・キッテルセン	アスケラッドと黄金の鳥	1900年	油彩・カンヴァス	[N]
37	テオドール・キッテルセン	トロルのシラミ取りをする姫	1900年	油彩・カンヴァス	[N]
38	ガーラル・ムンテ	山の門の前に立つオースムン	1902-1904年	油彩・カンヴァス	[N]
39	ガーラル・ムンテ	一の間	1902-1904年	油彩・カンヴァス	[N]
40	ガーラル・ムンテ	五の間	1902-1904年	油彩・カンヴァス	[N]
41	ガーラル・ムンテ	帰還するオースムンと姫	1902-1904年	油彩・カンヴァス	[N]
42	ガーラル・ムンテ	山の中の神隠し	1928年	油彩・カンヴァス	[N]
43	エーリク・ヴァーレンシヨル	森の中の逃避	1903年	油彩・カンヴァス	[S]
44	フーゴ・シンベリ	素晴らしい花	制作年不詳	油彩・カンヴァス	[S]
45	ガーラル・ムンテ	スレイプニルにまたがるオーディンのタビスリー	1914年	羊毛	[S]
46	アウグスト・マルムストゥルム	フリチョフの誘惑(『フリチョフ物語』より)	1880年代	油彩・カンヴァスに貼った紙	[S]

図録 番号	作家名	作品名	制作年	技法・素材	所蔵
47	アーンシュト・ヨーセフソン	水の精	1882年	油彩・カンヴァス	[S]
48	トルステン・ヴァサスティエルナ	ベニテングタケの陰に隠れる姫と蝶(《おとぎ話の姫》のためのスケッチ)	1895-1896年	油彩・パネルに貼ったカンヴァス	[F]
50	ヨセフ・アラネン	レンミンカイネンと牛飼	1919-1920年	テンペラ・カンヴァス	[F]
52	J.A.G.アッテ	金属の街の夏至祭	1898年	油彩・カンヴァス	[S]

3章 都市 —— 現実世界を描く

図録 番号	作家名	作品名	制作年	技法・素材	所蔵
53	エウシェン王子	工場、ヴァルデマッシュウッドからサルトシュークヴァーン製粉工場の眺め	制作年不詳	油彩・カンヴァス	[S]
54	エウシェン王子	初冬の朝	1906あるいは1907年	油彩・カンヴァス	[S]
55	アウグスト・ストリンダバリ	街	1903年	油彩・カンヴァス	[S]
56	ブルーノ・リリエフォッシュ	そり遊び	1882年	油彩・カンヴァス	[S]
57	エウシェン・ヤンソン	ティンメルマンスガータン通りの風景	1899年	油彩・カンヴァス	[S]
58	エンマ・トッル	リッダルホルメンの風景	制作年不詳	油彩・カンヴァス	[S]
59	アルフレッド・バリストウルム	ストックホルムの水辺の冬景色	1899年	油彩・カンヴァス	[S]
60	アンスヘルム・シュルツバリ	古い孤児院の取り壊し	1886年	油彩・カンヴァス	[S]
61	カール・ノードストウルム	スカンセンからのストックホルムの眺め	1889年	油彩・カンヴァス	[S]
62	ルイ・スバル	ヘルシンキの冬のモチーフ	1907年	油彩・カンヴァス	[S]
63	クリスティアン・クローグ	生存のための闘争(習作)	制作年不詳	油彩・カンヴァス	[S]
64	カール・ヴィルヘルムソン	村の店	1896年	油彩・カンヴァス	[S]
65	カール・ヴィルヘルムソン	諦念	1895年	油彩・カンヴァス	[S]
66	エドヴァルド・ムンク	ペランダにて	1902年	油彩・カンヴァス	[N]
67	アンデシュ・ソーン	コール・マルギット	1901年	油彩・カンヴァス	[S]
68	トルステン・ヴァサスティエルナ	ルドルフィナ・ヴァサスティエルナ邸の室内、 ボホヨイスランタ6番地、ヘルシンキ	1889年	油彩・カンヴァス	[F]
69	アルベルト・エーデルフェルト	ラリン・パラスケの哀歌	1893年	油彩・カンヴァス	[F]
70	アクセリ・ガッレン＝カッレラ	画家の母	1896年	テンペラ・カンヴァス	[S]

3. 交流事業(教育普及事業) 目次

3-1 交流事業

1) Shizubi Research+「倉俣史朗と静岡」	50
2) Shizubi シネマアワー	52
3) しずびオープンアトリエ	53
4) しずびチビッコプログラム	54
5) 暦とあそぶワークショップ	56
6) プレゼントワークショップ	57
7) 夜店市	57
8) 平野富山ブロンズ彫刻パネル展示	58
9) 平野富山ブロンズ彫刻鑑賞マップ	58

3-2 連携事業

1) ミュージアム教室・展示解説	59
2) 生涯学習センター・静岡市美術館連携事業「しずび出前講座」	60
3) 静岡・音楽館×科学館×美術館共同事業(三館共同事業)	61
4) その他施設との連携	61

3. 交流事業(教育普及事業)

3-1 交流事業

1) Shizubi Research+「倉俣史朗と静岡」

概要：倉俣史朗(1934-1991)は、椅子や照明機器などのプロダクトやインテリアデザインの分野で革新的な活動を展開した、戦後日本を代表するデザイナーである。アクリル、ガラス、アルミニウム、FRPなど、それまで家具や内装で使用されることのなかった素材を積極的に取り入れ、透明感や浮遊感に満ちた独創性あふれる作品で世界的にも高い評価を得た。

戦中、愛鷹村(現・静岡県沼津市)に疎開していたというだけでなく、倉俣と静岡は深い関係にあった。彼がそのキャリアをスタートさせた60年代半ばから80年代にかけて静岡の数多くの商業空間が手がけられ、当館が位置する静岡駅前に限っても、トンボヤ(衣料品/1966、70)、タカラ堂(宝飾品/1965、69、70、71、89)、COMBLÉ(バー/1988)などがあげられる。なかでも、天井の曲面と柔らかな色彩で人を包み込む COMBLÉ(コンプレ)は、倉俣の空間が体感できる、数少ない現存例である(一部改装済)。さらに静岡市が1988年に主催した「家具産地イメージアップ事業」では、倉俣と静岡の職人がオリジナルのイスとテーブルを共同制作している。

当館では関係者や市民から聞き取りを行うなど、倉俣史朗と静岡についての調査を進めてきた。昨年度はプレ企画として、パネル展示やCOMBLÉでのトークイベントを行った。本年度は、「家具産地イメージアップ事業」にて制作された静岡市が収蔵する椅子のほか、これまでの調査過程で発見された新たな図面や写真資料などのアーカイブ資料を当館多目的室にて特集展示した。また、倉俣の静岡での足跡をまとめた記録集を、2025年3月末に発行した。

* 静岡市文化振興財団アフターコロナ事業

会期：11月6日(水) - 12月15日(日)

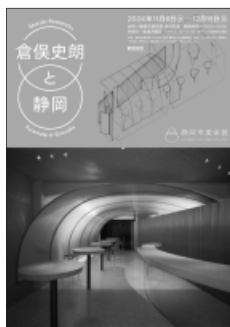
観覧者数：25,396人

制作物：

◆チラシ

<仕様>紙：マットコート 90kg

サイズ・数量：A4 20,000部



チラシ表面

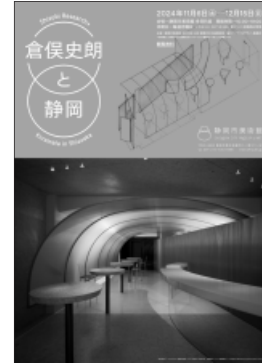


チラシ裏面

◆ポスター

<仕様>紙：マットコート 110kg

サイズ・数量：B2 50部



B2ポスター

作品リスト：

- ・コバヤシ保管資料 図面、写真、手紙など計35点
- ・アルバム/撮影年不詳/32.5×28/株式会社トンボヤ
- ・トンボヤ 紙袋/制作年不詳/大：39.5×21.4、小：30.0×18.4/株式会社トンボヤ
- ・トンボヤ ノベルティ/制作年不詳/カップ：6×11×8、ソーサー：φ16×2.5、皿：13.7×14/株式会社トンボヤ
- ・『商店建築』第11巻11号、商店建築社、1966年11月1日/静岡市美術館
- ・『デザイン』92号、美術出版社、1967年1月1日/静岡市美術館
- ・『食堂建築秀作シリーズ2 喫茶店』柴田書店、1968年/静岡市美術館
- ・ファニコンのイス #1(イエロー)/1988年/75.5×36.5×47/町田光・至
- ・ファニコンのイス #1(ブラック)/1988年/75.5×36.5×47/町田光・至
- ・ファニコンのイス #1(パープル)/1988年/75.5×36.5×47/静岡市
- ・ファニコンのイス #2(ブラック)/1988年/95×43×46.5/町田光・至
- ・ファニコンのイス #2(ベージュ)/1988年/95×43×46.5/静岡市
- ・ファニコンのテーブル/1988年/65.5×60×60/静岡市
- ・ファニコンのイス #3(レッド)/1988/2000年/81×46.5×40/静岡市
- ・ファニコンのイス #3(イエロー)/1988/2000年/81×46.5×40/静岡市
- ・ファニコンのイス #3(ブラック)/1988/2000年/81×46.5×40/静岡市
- ・ファニコンのイス #3(パープル)/1988年/81×46.5×40/町田光・至
- ・静岡家具産地イメージアップ事業チラシ/59.2×20.8/静岡市美術館
- ・静岡家具産地イメージアップ事業カタログ/21×21.5(6枚封筒入)/静岡市美術館
- ・『室内』411号、工作社、1989年3月/静岡市美術館
- ・COMBLÉのイス(オリジナル)/1988年/100×53×53/COMBLÉ
- ・COMBLÉ(青焼き)/1988年/42×59.5(全18頁)/イガラシデザインスタジオ

- ・COMBLÉ開店案内／1989年／封筒10.2×16.5、カバー17×15、案内18×15.5／COMBLÉ
- ・COMBLÉ素材サンプル(OSB、FRP、アルマイト)19点／1988年／イガラシデザインスタジオ

主要広報記録：

◆テレビ・ラジオ

- ・「展覧会紹介」TOKAIケーブルネットワーク『トコチャンワイド』、11月28日放送。

◆新聞

- ・岡本妙「倉俣史朗 静岡での足跡たどる」『静岡新聞』、11月26日。
- ・橋爪充「時を超える「街中のデザイン」」『静岡新聞』、11月29日。
- ・池田知之「斬新 不可能のイス 静岡の軌跡追う企画展」『中日新聞』静岡版、12月2日。
- ・齊藤智子「倉俣史朗の粋「奇跡」のバー」『朝日新聞』静岡版、12月12日。
- ・池田知之「世界的デザイナー 倉俣史朗記録集」『中日新聞』、令和7年5月7日。
- ・岡本妙「革新の家具・インテリア・店舗空間 倉俣史朗デザイン記録集に」『静岡新聞』令和7年5月26日

◆ウェブサイト等(媒体名のみ記載)

- 「Design November」、「Fashion Press」、「Sfumart」、「インターネットミュージアム」、「artscape」、「ウェブ版「美術手帖」」

カタログ：

<仕様>156×234mm、136頁



カタログ表紙

カラー図版192点

参考図版(カラー57点、モノクロ35点)

橋本啓子「アートからデザインへー《トンボヤ》と《タカラ堂》が倉俣にもたらしたもの」

伊藤鮎「倉俣史朗の静岡での足跡をめぐって」

久保耕介「倉俣史朗とトンボヤ」

大石幸枝「倉俣史朗と真田屋」

藤塚光政「COMBLÉ 2025—37年の時をつなぐ」

執筆：橋本啓子(近畿大学建築学部教授)、伊藤鮎(静岡市美術館学芸員)、久保耕介(株式会社トンボヤ)、大石幸枝(株式会社真田屋)、藤塚光政(写真家)

編集・発行：静岡市美術館

発行：2025年

関連事業：

◆ギャラリートーク

最終週の12/14、15に実施したギャラリートークでは県外からの来館も多く、134人が参加した。会場をまわりながら展示物を紹介。参加者からも時折質問が出るなど関心の高さが窺えた。

日時：①12月14日(土) ②12月15日(日) いずれも15:00-

会場：多目的室 参加者数：計134人



2)Shizubi シネマアワー

(1)Shizubi シネマアワー vol.33

「アート・コレクター」

概要：美術作品の収集に情熱を注いだ人々を取り上げた2本の映画を上映した。

日時：①5月3日(金・祝) ②5月4日(土・祝)
いずれも14:00-(開場13:30)

上映内容：

- ①『ゴッホとヘレーネの森 クレラー・ミュラー美術館の至宝』(ジョヴァンニ・ピスカーリア監督/2018年/イタリア/90分)
- ②『ハープ&ドロシー ふたりからの贈りもの』(佐々木芽生監督/2013年/アメリカ/87分)

会場：多目的室 参加者数：①83人 ②36人

参加料：いずれも500円

企画協力：(株)サルナートホール



告知チラシ(当館作成)

(2)Shizubi シネマアワー vol.34

「北欧の女性画家たち」

概要：「北欧の神秘」展にあわせ、19世紀末から20世紀にかけ、ほぼ同時期に北欧で活動した女性画家についての2本の映画を上映した。

日時：①3月8日(土) ②3月9日(日)
いずれも14:00-(開場13:30)

上映内容：

- ①『魂のまなざし』(アンティ・ヨキネン監督/2020年/フィンランド・エストニア/122分)
- ②『見えるもの、その先に ヒルマ・アフ・クリントの世界』(ハリナ・ディルシュカ監督/2019年/ドイツ/94分)

会場：多目的室 参加者数：①46人 ②55人

参加料：いずれも500円

企画協力：(株)サルナートホール



告知チラシ(当館作成)

3)しずびオープンアトリエ

概要：春・夏の年2回、開催中の展示会にあわせて実施する、鑑賞と創作が一体となったオリジナルワークショップ。地元の大学生による「学生ボランティア」が制作をサポートする。

(1)「絵画を立体化！紙ジオラマ『立版古』をつくろう」(夏季)

概要：「珠玉の東京富士美術館コレクション 西洋絵画の400年」展にあわせ、出品作品を立体的に表した紙のジオラマ「立版古」を制作。プログラムの冒頭では、「鑑賞ガイド」を用いながら、展示会の概要や作品の簡単な解説を行い、制作へとつなげた。今回も制作工程を写真入りで掲載した「つくり方ガイド」を用意し、参加者はそれを見ながら制作を進めた。全10日間、20回実施し、参加者数は計197人と盛況だった。また学生ボランティアを募集し2名が従事した。

日時：8月9日(金)～18日(日)
いずれも ①13:30～ ②15:00～
(各回約1時間、計10日間・20回実施)

会場：ワークショップ室

対象・参加者数：小学生以上 計197人(各回定員10人)

参加料：200円(材料費含む)

主要広報記録：

◆新聞

・赤池泰輝「展示油彩画で立版古作ろう」『静岡新聞』、8月15日。



(2)「絵画を立体化！紙ジオラマ『立版古』をつくろう」(春季)

概要：夏のアトリエに引き続き「北欧の神秘ーノルウェー・スウェーデン・フィンランドの絵画」展にあわせ「立版古」を制作。出品作品より、北欧の自然を描いた風景画3点から1点を選択し、絵画の立体化に挑戦した。全10日間、20回実施し、参加者数は計204人と夏の参加者数を上回る盛況ぶりだった。また学生ボランティアは8名が参加した。

日時：2月15日(土)～3月16日(日)の毎週土曜・日曜日
いずれも ①13:30～ ②15:00～
(各回約1時間、計10日間・20回実施)

会場：ワークショップ室

対象・参加者数：小学生以上 計204人(各回定員10人)

参加料：200円(材料費含む)

主要広報記録：

◆ウェブサイト等(媒体名のみ記載)

「アットエス」、「いこーよ」



(3)おうちで！しずびオープンアトリエ(動画配信+貸出キット)

「縹綯彩色に挑戦！色鮮やかな文様を描こう」

概要：過年度に引き続き動画配信と制作キットの貸出サービスを実施し、4月～3月までの間に24セットの利用があった。利用者の中にはリピーターもあり、自宅でワークショップをゆっくりと楽しめると好評を得た。

日時：4月13日(土)～3月31日(月)

参加者数：24人

貸出キット価格：1作品につき200円



4)しずびちピッコプログラム

概要：2歳以上の未就学児を対象とした、鑑賞に基づく制作プログラム。保護者は展覧会を見学する。展覧会毎に様々なアプローチで未就学児の表現の可能性を引き出している。市内保育支援団体の協力を得て実施。(保護者は要観覧券)

(1)「京都 細見美術館の名品一琳派、若冲、ときめきの日本美術一」

概要：「細見美術館展」にあわせ、出品作品である神坂雪佳《住之江蒔絵色紙箱》などを参考に、漆塗り風の丸皿に蒔絵で松林や梅を描き、螺鈿で周囲を装飾した作品を制作した。描画には漆の代わりとなる専用の筆ペンを、蒔絵に使用する金粉は真鍮製の代替品を用意し、螺鈿では実際の貝を用いた。金粉を扱う際には手袋を使用するなど金属アレルギーにも配慮した。日本の伝統工芸の技法を体験できる機会となった。

日時：4月28日(日)①10:30-12:00 ②14:00-15:30

会場：ワークショップ室

対象・参加者数：2歳以上の未就学児 計20人

参加料：子ども1人につき500円



(2)「没後35周年記念 平野富山展 一平櫛田中と歩んだ彩色木彫、追求の軌跡」

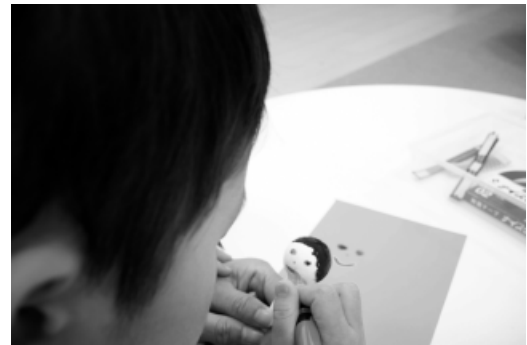
概要：「平野富山展」にあわせ、富山の彩色木彫《三輪雛》に関連し、雛人形の最も古い様式とされる立雛を制作。富山が描いた文様を参考に、松や藤、鶴といった吉祥文様を筆ペンやポスカなどで布張りした紙に描き、男雛、女雛の着物をデザインした。また、発砲スチロール製の頭部に筆で髪を描き、目鼻口も筆ペンで描き込み、個性豊かな表情の雛人形が完成した。

日時：7月13日(土)①10:30-12:00 ②14:00-15:30

会場：ワークショップ室

対象・参加者数：2歳以上の未就学児 計14人

参加料：子ども1人につき500円



(3)「珠玉の東京富士美術館コレクション 西洋絵画の400年」

概要：オープンアトリエの内容を未就学児向けにアレンジして実施。ジャック＝ルイ・ダヴィッドの工房《サン＝ベルナル峠を越えるボナパルト》を立体的に表した紙のジオラマ「立版古」を制作した。作品図版を前景・中景・後景に切り分ける前にワークシートにペンで書き込み見当をつけた。その後、箱の中に各パーツを配置し額縁を取りつけて仕上げた。作品の隅々までじっくりと鑑賞することにも繋がり、保護者からも好評を得た。

日時：8月31日(土)①10:30-12:00 ②14:00-15:30

会場：ワークショップ室

対象・参加者数：2歳以上の未就学児 計19人

参加料：子ども1人につき500円



(4)「令和6年度国立美術館巡回展 写真をめぐる100年のものがたり 京都国立近代美術館コレクションを中心に」

概要：手軽に撮影から現像までを体験できるように、箱型カメラの制作を考案。100円ショップの双眼鏡のレンズを利用し、焼き付けには感光紙を使用した。カメラに感光紙を装着し、日光の照射角度に応じて10～30分程度静止状態で撮影、暗室で現像液を塗布して青焼き写真に仕上げた。現像体験や写真の仕上がりに対する驚きの声が保護者からも上がるなど、カメラのしくみや原理を未就学児でも体感できるプログラムとして好評を得た。

日時：11月4日(月・祝)①10:30-12:00 ②14:00-15:30

会場：ワークショップ室

対象・参加者数：2歳以上の未就学児 計24人

参加料：子ども1人につき500円

主要広報記録：

◆新聞

・「幼児 自作カメラで撮影」『静岡新聞』、11月7日。



(5)「キース・ヘリング展 アートをストリートへ」

概要：「キース・ヘリング展」にあわせ、ヘリングが用いた技法や表現を参考に、シルクスクリーンでエコバックをつくった。作品に見られるアクションラインと呼ばれる動きを表す線の表現に着目し、線がもたらす効果を言葉で表しイメージを共有した上で、当館ロゴマークとアクションラインを組み合わせたデザインでエコバックの両面を彩った。申込人数は定員の3倍を超えるなど、プログラムへの関心度の高さが窺えた。

日時：12月21日(土)①10:30-12:00 ②14:00-15:30

会場：ワークショップ室

対象・参加者数：2歳以上の未就学児 計23人

参加料：子ども1人につき500円



(6)「北欧の神秘 —ノルウェー・スウェーデン・フィンランドの絵画」

概要：オープンアトリエの内容を未就学児向けにアレンジして実施。エドヴァルド・ムンク《フィヨルドの冬》を立体的に表した紙のジオラマ「立版古」を制作した。作品図版を前景・中景・後景に切り分ける前にワークシートにペンで書き込み、作品の隅々までじっくりと鑑賞することにも繋げた。その後、箱の中に各パーツを配置し額縁を取りつけて仕上げた。定員の5倍を超える申込があり、保護者向けアンケートでも好評を得た。

日時：3月20日(木・祝)①10:30-12:00 ②14:00-15:30

会場：ワークショップ室

対象・参加者数：2歳以上の未就学児 計24人

参加料：子ども1人につき500円

主要広報記録：

◆新聞

・「未就学児ワークショップ 紙のジオラマでムンク作品挑戦」『静岡新聞』、3月27日。



5) 暦とあそぶワークショップ

概要：祭事や年中行事を通して季節を感じ、それをかたちにするワークショップシリーズ。暦の本来の意味や歴史を学びながら制作する。

(1) 暦とあそぶワークショップvol.27

「新年を彩る和綴じ本をつくろう」

概要：新年にあわせ、伝統的な和綴じの製本を体験出来るプログラムを考案した。同日に2時間半のプログラムを2回行い、小学生から80代までの幅広い層が参加した。手摺りの友禅和紙などを用い「四つ目綴じ」という基本的な綴じ方で縦・横A5サイズの本を2冊制作した。制作工程はやや複雑なため、あらかじめ編集した動画により手順を分かり易く伝えた。アンケートからも満足度の高さが窺え、新年にふさわしい和綴じ本が完成した。

日時：1月13日(月・祝) ①9:30-12:00 ②14:30-17:00

会場：ワークショップ室

対象・参加者数：いずれも 小学生以上 計30人

参加料：1人につき1,000円(材料費含む)

主要広報記録：

◆新聞

・伊藤さくら「和とじ本 味のある手触り」『静岡新聞』、1月14日。

◆ウェブサイト等(媒体名のみ記載)

「アットエス」、「いこーよ」



(2) 暦とあそぶワークショップvol.28

「ひな祭りの準備をしよう！」

概要：親子や夫婦、祖母と孫など6組12人が一対の立雛を制作したほか、台座、屏風も合作した。はじめに雛祭りの由来や立雛の例を解説した後、松や藤、鶴といった吉祥文様を参考に男雛、女雛の着物をデザインし、絵の具やペンで描いた。屏風や台座は和の色柄のマスキングテープで装飾した。小学生らは屏風に雪洞や富士山、龍といったモチーフを伸びやかに描き加えるなど、最後まで集中力が途切れることなく制作を楽しむ様子が見られた。

日時：2月11日(火・祝) 13:00-16:30

会場：ワークショップ室

対象・参加者数：小学生以上の親子・兄弟または夫婦など 6組12人

参加料：1組につき1,500円(材料費含む)

主要広報記録：

◆新聞

・「立びなづくり 上手にできた」『静岡新聞』、2月14日。

・奥村友基「鶴や松描き「立雛」作り」『中日新聞』静岡版、2月15日。

◆ウェブサイト等(媒体名のみ記載)

「アットエス」、「いこーよ」



6) プレゼントワークショップ

概要：子どもたちの創作意欲の原点である、家族や大切な人への想いをかたちにするという行為に焦点を当て、記念日にあわせて実施。プレゼントを「つくって、贈る」ことから生まれるコミュニケーションに主眼を置く。

(1) プレゼントワークショップvol.42

「銅版画でクリスマスカードをつくろう」

概要：

子ども編：当館ワークショップ指導員で銅版画家の武田あずみ氏を講師に迎え、銅版画でクリスマスカードを制作した。油性ペンを防蝕膜とし、エッチング(油性ペンで塗布した上からニードルで描画)に加え、ディープエッチング(油性ペンでモチーフを線描)も採り入れた。参加者は下絵を制作し、ニードルと油性ペンを用いて銅板に描いた後、板の腐蝕、刷りまでの一連の行程を体験した。武田氏の専門的な知識と、当館で長年指導員を務めた経験が生かされた丁寧で質の高い事業となった。

大人編：大人編には20代から70代まで幅広い層の参加があった。基本的な流れは子ども編と同様であるが、刷りの工程でインクの混色を採り入れるなど、より高度で幅の広い表現に取り組んだ。申込段階より銅版画への関心や、武田氏の作品のファンでといった想いを寄せるコメントがみられた。アンケートからも「エッチングとディープエッチングの2種類の違いが出来上がりではっきりわかって面白かった」などの感想が寄せられ、満足度の高さが窺えた。

日時：①子ども編 12月1日(日)

②大人編 12月8日(日)

いずれも 13:00-16:30

会場：いずれも ワークショップ室

対象・参加者数：①小学生12人 ②中学生以上15人

参加料：いずれも 1人につき2,000円(材料費含む)



子ども編



大人編

7) 夜店市

概要：静岡市中央商店街で実施される夏まつりに静岡市文化振興財団ブースとして、事務局、静岡市美術館、静岡市歴史博物館で出店した。今年度は美術館の展覧会チケットやグッズ、歴史博物館の展覧会チケット、企画展図録の販売と購入者限定のくじ引きを実施し、法人広報の場としてうちわやコラボビールの作成も行った。期間中は多くのお声がけをいただき、当財団施設や実施事業に関心を持っていただく機会を創出できた。

日時：8月10日(土)・11日(日)・12日(月・祝)

いずれも 16:00-21:00

場所：葵区紺屋町名店街「小梳神社」前

販売物：「珠玉の東京富士美術館コレクション 西洋絵画の400年」当日券、「令和6年度国立美術館巡回展 写真をめぐる100年のものがたり 京都国立近代美術館コレクションを中心に」前売券、静岡市美術館オリジナル虹色鉛筆、同マスキングテープ、同缶バッジ、ヨーヨーバトル、EARTH PIECE、バウンドボールスターライト、チャームトゥチャームクレヨン、ルーパー(飛行機)

※チケット・グッズ購入者には、スピードくじを実施した。



8)平野富山ブロンズ彫刻パネル展示

「没後35周年記念 平野富山展 一平櫛田中と歩んだ彩色木彫、追求の軌跡」関連展示として、市内に点在する平野富山のブロンズ彫刻12点を撮影の上、当館エントランスホールにてパネルで紹介。彩色木彫家でありながら、西洋彫刻の分野でも活躍した富山の業績を紹介した。

* 静岡市文化振興財団アフターコロナ事業

会期：6月6日(木)～7月15日(月・祝)
観覧者数：18,586人



9)平野富山ブロンズ彫刻鑑賞マップ

「平野富山ブロンズ彫刻パネル展示」に連動し、市内に点在する富山のブロンズ彫刻鑑賞マップを展示終了後も活用できるツールとして作成した。マップに掲載したQRコードを読み込むと設置場所が表示される仕組みも盛り込んだ。

制作物：

◆ブロンズ彫刻鑑賞マップ

<仕様>紙：マットコート 90kg

サイズ・加工・数量：210×440mm(仕上A5縦)、巻三つ折20,000部



鑑賞マップ表面



鑑賞マップ裏面

3-2 連携事業

1)ミュージアム教室・展示解説

概要：当館では、学校や生涯学習センター等からの団体を対象にして、展覧会担当学芸員が直接解説する鑑賞教室に力を入れている。幼稚園・保育園児～高校生については、子どもたちと当館学芸員等が対話形式で展覧会鑑賞を行う「ミュージアム教室」として実施。子どもたち自身が作品の魅力を発見し、考えるよう促すことで、美術を身近で楽しいものと感じることを目指すとともに、美術館でのマナーも学習することを目的とする。大学・専門学校生、および生涯学習センター・生涯学習交流館等の事業参加者については、展覧会の見どころを中心とした「展示解説」として実施している。



対象：<ミュージアム教室>幼稚園・保育園児～高校生

<展示解説>大学生・専門学校生～一般

実施内容・所要時間(共通)：

スタッフの解説30分+自由鑑賞30分 計60分

利用状況：

◆ミュージアム教室利用状況

	幼稚園・保育園		小学校		中学校		高等学校		特別支援学校 特別支援学級		児童クラブ 等		展覧会合計	
	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数
京都 細見美術館の名品 —琳派、若冲、ときめきの日本美術—	0	0	0	0	9	221	4	57	0	0	1	9	14	287
没後35周年記念 平野富山展 —平櫛田中と歩んだ彩色木彫、追求の軌跡	0	0	0	0	6	111	3	60	0	0	1	13	10	184
珠玉の東京富士美術館コレクション 西洋絵画の400年	0	0	0	0	7	132	13	300	1	14	4	44	25	490
令和6年度国立美術館巡回展 写真をめぐる100年のものがたり 京都国立近代美術館コレクションを中心に	0	0	0	0	1	28	4	46	0	0	1	22	6	96
キース・ヘリング展 アートをストリートへ	3	50	2	72	6	93	7	78	0	0	4	55	22	348
北欧の神秘 —ノルウェー・スウェーデン・フィンランドの絵画	0	0	0	0	5	123	6	127	0	0	1	18	12	268
計	3	50	2	72	34	708	37	668	1	14	12	161	89	1,673

計 89団体 1,673人

◆展示解説利用状況

	大学・専門学校		生涯学習センター 生涯学習交流館		その他		展覧会合計	
	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数
京都 細見美術館の名品 —琳派、若冲、ときめきの日本美術—	0	0	1	18	1	20	2	38
没後35周年記念 平野富山展 —平櫛田中と歩んだ彩色木彫、追求の軌跡	1	16	1	9	2	60	4	85
珠玉の東京富士美術館コレクション 西洋絵画の400年	0	0	1	18	1	26	2	44
令和6年度国立美術館巡回展 写真をめぐる100年のものがたり 京都国立近代美術館コレクションを中心に	0	0	0	0	1	17	1	17
キース・ヘリング展 アートをストリートへ	4	122	0	0	0	0	4	122
北欧の神秘 —ノルウェー・スウェーデン・フィンランドの絵画	0	0	0	0	0	0	0	0
計	5	138	3	45	5	123	13	306

計 13団体 306人

2)生涯学習センター・静岡市美術館連携事業

「しずび出前講座」

概要：「しずび出前講座」は、開催中の展覧会にかかわらず、生涯学習センターに当館学芸員を講師として派遣し、座学やワークショップを実施する連携講座。本年度は9講座を実施した。

①西部生涯学習センター

静岡市文化振興財団設立30周年記念「笑顔 デカケル プロジェクト」
「琳派、若冲…コレクターが愛した日本美術—京都・細見美術館の名品」

概要：京都 細見美術館の名品展に合わせ実施。1回目は細見美術館のコレクションの概要や各章の構成に沿って作品を解説、2回目は展覧会の鑑賞ポイントを中心に作品の見どころを紹介した。琳派や若冲など人気の作品も多く、参加者はじっくり鑑賞を楽しみ、アンケートの満足度も高かった。

日時：①4月25日(木) ②5月9日(木)

いずれも10:00-11:30

会場：①西部生涯学習センター ②当館 参加者数：計37人

講師：大石沙織

②藁科生涯学習センター

静岡市文化振興財団設立30周年記念「笑顔 デカケル プロジェクト」
「彩色木彫の名匠・平野富山—平瀬田中と歩んだ彩色木彫、追求の軌跡」

概要：「没後35周年記念 平野富山展」にあわせ実施。1回目の講座では富山の仕事の全容やその生涯を、関連作家らの作品も交え解説し、富山の日本近代彫刻史上の位置づけやその功績を紹介した。2回目は市内に点在する富山のブロンズ彫刻12点について、同展にあわせ作成した鑑賞マップを用いて紹介した後、各自で展覧会を鑑賞した。参加者は熱心に聴講する様子が見られ、静岡ゆかりの作家に対する注目度の高さが窺えた。

日時：①6月18日(火) ②6月25日(火)

いずれも10:00-11:30

会場：①藁科生涯学習センター ②当館 参加者数：計14人

講師：太田紗世

③高齢者学級みのり大学 藁科学級での講義

「バルセロナ—ガウディ、ピカソ、ミロ…巨匠たちを育んだ芸術の都」

概要：地中海沿岸の都市バルセロナは19世紀以降急速に経済発展を遂げ、芸術面でもガウディ、ピカソ、ミロなど現在でも世界的に著名な作家たちを次々と輩出した。本講座では、なぜこれほどまでに独創的な芸術家たちをバルセロナが育むことができたのか、「街の拡張」「地域文化の復興」というキーワードをもとに解説した。

日時：6月27日(木)9:30-11:15

会場：藁科生涯学習センター 参加者数：53人

講師：小川かい

④高齢者学級みのり大学 西奈学級での講義

「平安王朝の美と文化」

概要：藤原氏が朝廷の要職を独占し栄華を誇った平安時代中期、都では王朝貴族の美意識を反映した雅やかな文化が開花した。本講座では、藤原頼道が建立した平等院鳳凰堂の造形的特質を筆頭に、王朝文化の粋を結集した絵画、彫刻、工芸、書跡、文学など諸分野の作品を取り上げながら、その魅力について紹介した。

日時：7月24日(水)13:30-15:30

会場：西奈生涯学習センター 参加者数：34人

講師：高橋哲也

⑤大里生涯学習センター 大里心の乙女塾

「近代美術の中の猫 日本画を中心に」

概要：菱田春草・竹内栖鳳・竹久夢二を中心に、日本の近代美術における猫の表現に着目。現実の猫はもとより、古今東西の多様なイメージソースが画家の個性と融合し、猫の名画が誕生したことを解説した。

日時：9月11日(水)19:00-21:00

会場：大里生涯学習センター 参加者数：27人

講師：山本香瑞子

⑥高齢者学級みのり大学 東部学級での講義

「平安王朝の美と文化」

概要：藤原氏が朝廷の要職を独占し栄華を誇った平安時代中期、都では王朝貴族の美意識を反映した雅やかな文化が開花した。本講座では、藤原頼道が建立した平等院鳳凰堂の造形的特質を筆頭に、王朝文化の粋を結集した絵画、彫刻、工芸、書跡、文学など諸分野の作品を取り上げながら、その魅力について紹介した。

日時：9月24日(火)10:00-11:30

会場：東部生涯学習センター 参加者数：48人

講師：高橋哲也

⑦大里生涯学習センター

静岡市文化振興財団設立30周年記念「笑顔 デカケル プロジェクト」

「バルセロナ—ガウディ、ピカソ、ミロ…巨匠たちを育んだ芸術の都」

概要：地中海沿岸の都市バルセロナは19世紀以降急速に経済発展を遂げ、芸術面でもガウディ、ピカソ、ミロなど現在でも世界的に著名な作家たちを次々と輩出した。本講座では、なぜこれほどまでに独創的な芸術家たちをバルセロナが育むことができたのか、「街の拡張」「地域文化の復興」というキーワードをもとに解説した。

日時：11月16日(土)13:30-15:00

会場：大里生涯学習センター 参加者数：24人

講師：小川かい

⑧北部生涯学習センター

静岡市文化振興財団設立30周年記念「笑顔 デカケル プロジェクト」

「浮世絵ってなんだ？」

概要：江戸に花開いた芸術・浮世絵。美人画で知られる鈴木春信や喜多川歌麿。役者絵で人気を博した歌川豊国に謎多き浮世絵師・東洲斎写楽。名所絵の葛飾北斎と歌川広重など各浮世絵師の代表作、特徴、時代背景などを木版画の技法とともに紹介した。アンケートでも「とても楽しかった」「よく理解することができた」等の感想が多く寄せられた。

日時：11月29日(金)10:00-11:30

会場：北部生涯学習センター 参加者数：32人

講師：大石沙織

⑨高齢者学級みのり大学 美和学級での講義

「浮世絵ってなんだ？」

概要：江戸に花開いた芸術・浮世絵。美人画で知られる鈴木春信や喜多川歌麿。役者絵で人気を博した歌川豊国に謎多き浮世絵師・東洲斎写楽。名所絵の葛飾北斎と歌川広重など各浮世絵師の代表作、特徴、時代背景などを木版画の技法とともに紹介した。終了後には質問も相次ぐなど参加者の興味関心の高さが窺えた。

日時：12月4日(水)13:30-15:15

会場：美和生涯学習センター 参加者数：37人
講師：大石沙織

3) 静岡・音楽館×科学館×美術館共同事業(三館共同事業)

概要：JR静岡駅前に位置する静岡音楽館AOI、静岡科学館る・く・る、静岡市美術館が特徴を活かして、音楽、科学、美術の境界を越え、総合的な文化空間の創造を目指して連携実施する事業。本年度は2事業を実施した。

(1) 静岡・音楽館×科学館×美術館共同事業

科学教室「光の跡ののこしかた」

概要：写真の原理を工作と実験で紹介するテーマの事業を午前と午後で対象を変えて実施した。どちらの回も絵や風景が写し取れることに感動している様子が見られ、アンケートからも満足度の高さが窺われた。展示会の連携イベントであったが、午前の回(小学生)だけでなく午後の大人の参加者も展示会には行っていない、知らないという方が大半だった。連携により美術館を知ってもらう機会になった。

日時：11月3日(日)①10:00-12:00 ②14:00-16:00

会場：静岡科学館る・く・る 参加者数：計20人

講師：谷俊雄氏(静岡大学 GSC事務局)

(2) 静岡・音楽館×科学館×美術館共同事業

ミュージアム・コンサート「ムンクとグリーグ 2人のエドヴァルドと音楽」※46頁を参照

4) その他施設との連携

(1) 静岡市文化振興財団設立30周年記念「笑顔 デカケル プロジェクト」

しずび能「羽衣」

概要：財団30周年記念事業の一環として、静岡市民文化会館と連携し実施。開催中の「平野富山展」にあわせ、美術館エントランスに能舞台を特設し、富山の代表作《羽衣舞》の題材となった能「羽衣」を上演した。能公演の前には実際に面をつける様子を演者が解説つきで紹介するワークショップも実施された。チケットは販売開始から4日目で完売するなど、盛況のうちに公演を終えることができた。

日時：6月9日(日)19:10開場 19:30開演

会場：エントランスホール

参加料：3,500円(全席指定・「平野富山展」観覧料込)

参加者数：95人

出演：シテ 佐野登(宝生流)

ワキ 館田善博(下掛宝生流)

笛 熊本俊太郎

小鼓 清水和音

大鼓 亀井洋佑

太鼓 姥浦理紗

地謡 高橋憲正、東川尚史、今井基

後見 川瀬隆士、松田脩

演目：能楽ワークショップ「羽衣」解説

三保松原と能「羽衣」の世界 ～「装束」から見る能 天女の

装束付け実演

能「羽衣」

主要広報記録：

◆新聞

- ・天野のりこ「美術館に能舞台 上演」『中日新聞』静岡版、5月19日。
- ・「天女の厳かな舞堪能 静岡市美術館能舞台上演」『静岡新聞』、6月13日。

(2) ワークショップ教材提供

概要：当館が独自に企画・制作したワークショップ教材を要望のあった施設に対して提供した。

提供物：2011年度しずびオープンアトリエ「はんこでつくろ！夢ニデザイン」のハンコキットおよび制作ガイド

提供先：金沢湯涌夢二館 ※子ども博物館セミナー「はんこでつくろ！夢ニデザイン」[実施日：8/10-12]にて使用



4. 受託事業等

4-1 受託事業等

1)「旧五十嵐邸・竹久夢二」展

概要：静岡市美術館が所蔵する、竹久夢二作品(志田コレクション)を、夢二と同時代に建てられた国登録有形文化財の旧五十嵐歯科医院(旧五十嵐邸)で展示する、毎年恒例の展覧会。今年度は版画や資料を含む9点で夢二作品の魅力を紹介した。

会期：11月7日(木)～10日(日)

会場：旧五十嵐歯科医院(旧五十嵐邸)

来場者数：234人

展示内容：志田コレクションより

○版画集『女十題』より

1.《黒猫》

2.《朝の光へ》

3.《舞姫》

以上すべて 昭和12-13 (1937-38)年、木版・紙、原画：竹久夢二、制作：加藤版画研究所

○版画集『長崎六景』より

4.《眼鏡橋》

5.《浦上天主堂》

6.《出島》

以上すべて 昭和15-16 (1940-41)年、木版・紙、原画：竹久夢二、制作：加藤版画研究所

※資料

・志田喜代江『目で見る庵原の歴史 富士川 蒲原 由比』昭和53 (1978)年、緑星社

・志田喜代江『駿河湾 桜えび漁九十年史』昭和55(1980)年、緑星社

・志田喜代江『夢二を巡って－志田喜代江宛の諸氏の書簡集－』平成11(1999)年、静岡新聞社

計9点

主要広報記録：

◆新聞

・「故志田氏収集の夢二版画 紹介」『静岡新聞』、11月8日。



2)静岡市清水文化会館マリナート常設展示

「平野富山ー清水が生んだ彩色木彫の名匠」

概要：今年度で13年目となる静岡市清水文化会館マリナートにおける、彩色木彫家・平野富山の常設展示。静岡市が収蔵する富山作品(彩色木彫35点、塑像等約35点、書2点)と富山の収集品454件を活用し、各期テーマを設けて年3回の展示を行った。また、それに係る保存管理、調査研究もあわせて実施した。

テーマおよび会期：

【第1期】平野富山と同時代の作家 7月～10月

【第2期】富山のお雛様 11月～2月

【第3期】人形研究団体での研鑽 3月～6月

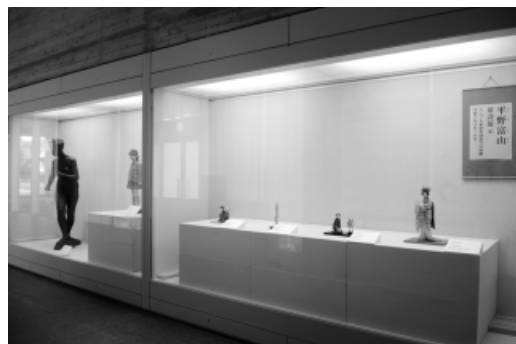
会場：静岡市清水文化会館マリナート 1階ギャラリー隣 平野富山常設展示コーナー



第1期



第2期



第3期

作品リスト：

【第1期】テーマ：平野富山と同時代の作家

第1期は富山の彩色木彫と、富山のコレクションより同時代の作家らの作品を紹介した。富山の同主題作品の中でもひととき精緻な彩色が施された《福寿恵比須尊像》《福寿大黒天尊像》をはじめ、近代日本彫刻の巨匠・平櫛田中の仕事を手伝ったこともあった木彫家・宮本理三郎、日展を舞台に富山と共に研鑽した木彫家・木島延幸らの木彫作品を展示したほか、田中と同じく岡山県出身の陶芸家・岡本欣三の陶磁器も出品した。

- 1.平野富山《福寿恵比須尊像》昭和52～平成元年頃、木・彩色、静岡市
 - 2.平野富山《福寿大黒天尊像》昭和52～平成元年頃、木・彩色、静岡市
 - 3.宮本理三郎《うずら》昭和58年、木・彩色、静岡市
 - 4.木島延幸《うそ》木、静岡市
 - 5.平野富山《静炎》※原型は第13回日彫展出品作、昭和40年※FRPは没後制作、FRP、静岡市
 - 6.平野富山《莫》※原型は第7回改組日彫展出品作、昭和50年※FRPは没後制作、FRP、静岡市
 - 7.《色絵張子犬図香合》昭和45年
 - 8.《鉄絵猪図香合》昭和46年
 - 9.《鉄絵虎形香合》昭和49年
 - 10.《染付辰砂蛇文香合》昭和52年
 - 11.《瑠璃釉鉄絵羊文香合》昭和54年
 - 12.《鉄絵辰砂鶏形香合》昭和56年
 - 13.《染付犬図香合》昭和57年
 - 14.《鉄絵和歌入茶碗》※平櫛田中揮毫、昭和45年
 - 15.《鉄絵菖蒲文茶碗》※平野富山絵付
- ※no.7-15 すべて岡本欣三、静岡市

【第2期】テーマ：富山のお雛様

第2期は富山が手がけた様々な雛人形より、個性あふれる3作品を紹介した。松に藤、梅といった極彩色の吉祥文様が描かれた立雛《三輪雛》、奈良・吉野地方で作られた「吉野雛」の名前を冠した《吉野雛》、有職故実に基づいた装束の《親王雛》など、いずれも緻密さと華やかさを備えた彩色が見事な優品のほか、富山の収集品から陶磁器も展示した。

- 1.平野富山《三輪雛》昭和52～平成元年頃、木・彩色、静岡市
- 2.平野富山《吉野雛》昭和40年代前半～51年頃、木・彩色、静岡市
- 3.平野富山《親王雛》昭和40年代前半～51年頃、木・彩色、静岡市
- 4.平野富山《扇面散らし文様欄間》制作年不詳、木・彩色、静岡市
- 5.平野富山《裸婦》※原型は第2回新日展出品作、昭和34年※FRPは没後制作、FRP、静岡市
- 6.平野富山《黙視》※原型は63回太平洋展出品作、昭和42年※FRPは没後制作、FRP、静岡市
- 7.《白磁碗》清時代、中国南部、静岡市/平野富山コレクション
- 8.《白磁印花文皿》江戸時代中期、有田、静岡市/平野富山コレクション
- 9.《青花花卉文合子》黎朝、ベトナム、静岡市/平野富山コレクション

【第3期】テーマ：人形研究団体での研鑽

第3期は富山の初期の足跡に注目し、人形研究団体・日本人形社で活動した頃の作品を出品した。日本人形社展第3回展出品作、または同型とされる《八重垣姫》のほか、日本人形社12名による合作で白耳義国際人形展の事前国内展示会に出品したうち、富山が担当した1点とされる《おぼろ夜》などを紹介した。そのほか、富山晩年の《おさな心》も展示し、初期の人形作品から彫刻へと変遷を遂げた富山の彩色木彫の魅力を伝えた。

- 1.平野富山〔無題〕昭和時代初期～昭和30年代後半、木・彩色、静岡市
- 2.平野富山《八重垣姫》昭和13年頃～昭和30年代後半、木・彩色、静岡市
- 3.平野富山《おぼろ夜》昭和14年頃、木・彩色、静岡市
- 4.平野富山《筒井筒》昭和40年代前半～51年頃、木・彩色、静岡市
- 5.平野富山《おさな心》昭和59年頃、木・彩色、静岡市
- 6.平野富山《楽園》※原型は第7回新日展出品作、昭和39年※FRPは没後制作、FRP、静岡市
- 7.《青花花鳥図皿》明時代末期、磁器、静岡市/平野富山コレクション
- 8.《呉須赤絵赤玉文合子》明時代後期、磁器、静岡市/平野富山コレクション
- 9.《色絵龍文皿》江戸時代中期、磁器、静岡市/平野富山コレクション

※仮題は〔 〕で記載

制作物：

◆平野富山常設展示案内リーフレット(刷新)

＜仕様＞紙：マットコート 90kg

サイズ・加工・数量：210×297mm(仕上210×99mm)、
巻三つ折8,000部



リーフレット表面

リーフレット中面

5. 調査研究・研修受入等

5-1 調査研究

令和6年度中に当館職員が行った、館外での主な活動および執筆・寄稿等は下記のとおりである。

●高市純行

<館外での活動>

- ・静岡市文化振興審議会委員
- ・静岡市文化・クリエイティブ産業振興懇話会委員

●山本香瑞子

<館外での活動>

- ・東海大学海洋学部環境社会学科「美術・デザイン史」非常勤講師(4月-7月)
- ・静岡市立芹沢銈介美術館協議会委員
- <展覧会カタログ等編集・執筆>
- ・「柚木沙弥郎 永遠のいま」カタログ編集、作品解説、コラム執筆

●高橋哲也

<展覧会カタログ等編集・執筆>

- ・「没後35周年記念 平野富山展 一平榊田中と歩んだ彩色木彫、追求の軌跡」カタログ編集
- <雑誌・新聞等寄稿>
- ・高橋哲也「反戦、人種差別撤廃、エイズ予防 社会へメッセージ」『中日新聞』静岡版、11月25日。
- ・高橋哲也「作品紹介1 地下鉄駅に描き拡散」『中日新聞』静岡版、12月10日。
- ・高橋哲也「作品紹介2 躍動感あふれる妊婦」『中日新聞』静岡版、12月11日。
- ・高橋哲也「作品紹介3 舞台芸術 大作手掛け」『中日新聞』静岡版、12月12日。
- ・高橋哲也「作品紹介4 差別反対の姿勢表現」『中日新聞』静岡版、12月13日。
- ・高橋哲也「作品紹介5 子どもと対話 大切に」『中日新聞』静岡版、12月15日。
- ・高橋哲也「作品紹介6 未来への希望を託す」『中日新聞』静岡版、12月17日。

●太田紗世

<館外での活動>

- ・常葉大学造形学部アート領域ゼミ「美術館の現場に触れる"静岡市美術館編"」講師(7月7日)
- <展覧会カタログ等編集・執筆>
- ・「没後35周年記念 平野富山展 一平榊田中と歩んだ彩色木彫、追求の軌跡」カタログ編集、作家解説、作品解説、「平野富山の仕事」、コラム1「日本人形社時代の富山」、コラム2「生活を支えた三美工芸の仕事」、コラム3「星取り法と深く結びついた近代日本の木彫制作」、コラム4「鏡獅子への道」、コラム5「白鳳会時代の富山」、コラム6「富山と故郷清水—平野富山後援会の活動を中心に」、コラム7「富山が手がけた静岡市内のブロンズ彫刻と『水と彫刻のあるまちを創る会』の活動」執筆。
- ・「平野富山ブロンズ彫刻鑑賞マップ」編集・執筆。
- ・「平野富山—清水が生んだ彩色木彫の名匠」常設展示パンフレット編集・執筆。

<雑誌・新聞等寄稿>

- ・太田紗世「彩色木彫家 平野富山の紹介」『井原市平榊田中美術館友の会便り』、No.66。

<研修>

- ・「令和6年度 文化財(美術工芸品)保存修理講習会」、文化庁(オンライン)、12月17日。

●伊藤鮎

<館外での活動>

- ・ヴェネチア・ビエンナーレ研究派遣(10月7日-11日)
- <展覧会カタログ等編集・執筆>
- ・「令和6年度国立美術館巡回展 写真をめぐる100年のものがたり 京都国立近代美術館コレクションを中心に」カタログ編集、セクション解説(Chapter1-6)、作品解説、作家解説執筆。
- ・「Shizubi Research+ 倉俣史朗と静岡」カタログ編集、エッセイ「倉俣史朗の静岡での足跡をめぐって」、作品解説執筆。

●大石沙織

<展覧会カタログ等編集・執筆>

- ・「令和6年度国立美術館巡回展 写真をめぐる100年のものがたり 京都国立近代美術館コレクションを中心に」カタログ編集
- <雑誌・新聞等寄稿>
- ・大石沙織「伊藤若冲《雪中雄鶏図》羽毛の質感を描き分け」『静岡新聞』、4月2日。
- ・大石沙織「葛飾北斎《五美人図》髪型、服装に見る身分差」『静岡新聞』、4月3日。
- ・大石沙織「神坂雪佳《金魚玉図》受け継がれる琳派の技」『静岡新聞』、4月4日。
- ・大石沙織「重要文化財《金銅春日神鹿御正体》愛らしく凛とした表情」『静岡新聞』、4月5日。
- <研修>
- ・「令和6年度 文化財(美術工芸品)保存修理講習会」、文化庁(オンライン)、12月17日。

●小川かい

<館外での活動>

- ・静岡県博物館協会事業推進グループ委員

●深尾茅奈美

<展覧会カタログ等編集・執筆>

- ・「珠玉の東京富士美術館コレクション 西洋絵画の400年」カタログ作家解説・作品解説執筆
- ・「北欧の神秘—ノルウェー・スウェーデン・フィンランドの絵画—」カタログ編集、翻訳。
- <雑誌・新聞等寄稿>
- ・深尾茅奈美「繊細で秀逸な質感描写①」『静岡新聞』、7月2日。
- ・深尾茅奈美「英雄のイメージを流布②」『静岡新聞』、7月3日。
- ・深尾茅奈美「リアルさ離れ独自表現③」『静岡新聞』、7月4日。
- ・深尾茅奈美「日本愛投影の画面構成④」『静岡新聞』、7月5日。

●岡田牧

<研修>

- ・「令和6年度 ミュージアム・パブリックリレーションズ研修」、

文化庁、国立アイヌ民族博物館(オンライン)、12月4日

「おうちで!しずびオープンアトリエ(動画配信+貸出キット)」
 :「縹緗彩色に挑戦!色鮮やかな文様を描こう」
 ・「プレゼントワークショップ」(計1種)
 vol.42「銅版画でクリスマスカードをつくろう」
 ・「暦とあそぶワークショップ」(計2種)
 vol.27「新年を彩る和綴じ本をつくろう」
 vol.28「ひな祭りの準備をしよう!」

◆教育普及プログラム企画・制作(担当:太田)

- ・「しずびチビッコプログラム」オリジナルプログラム(計6種)
- ・「しずびオープンアトリエ」オリジナルプログラム(計3種)
- 夏:「絵画を立体化!紙ジオラマ『立版古』をつくろう」
- 春:「絵画を立体化!紙ジオラマ『立版古』をつくろう」

5-2 博物館実習

以下の要領で学芸員資格取得を目指す学生を対象に博物館実習を行った。

対象:博物館法施行規則第一条に定められた博物館に関する科目の単位を履修済みまたは履修中で、以下の要件を満たす者。ただし学芸員資格を既に取得済みの者は除く。

- ①美学・美術史または美術教育専攻であること。(美術館で研修する理由がある者)
- ②静岡県内在学者もしくは県内に帰省先があること。
- ③パソコンのメールアドレスを持っていること。(携帯メールは不可)
- ④学部3年生以上であること。(4年生を優先する)

実習期間:8月7日(水)~11日(日) 計5日間

実習場所:当館

実入大学・人数:同志社大学、女子美術大学 計2大学2人

実習日	時間	実施内容
7日(水)	10:10-11:00 11:10-12:00 13:00-13:50 14:00-15:50	ガイダンス・職員紹介・施設案内 静岡市美術館の特色について(講義) 展覧会の組み立て方について(講義) ミュージアム教室見学(実習) 開催中の展覧会について<展示演出、関連事業の立案など>(講義) 開催中展覧会の見学(実習)
8日(木)	9:10-9:50 9:50-10:30 10:30-12:00 13:00-13:50 14:00-14:50	自記温湿度計の取り扱い(実習) 開館時混雑対応(実習) 収蔵庫見学・前室清掃(実習) 静岡市美術館の広報活動について(講義) 美術品の借用について(講義)
9日(金)	9:10-11:00 11:10-12:00 13:00-13:50 14:00-14:50	作品(軸・卷子)の取扱いと点検・調書作成について(実習) 美術品の展示・保存環境について(講義) 収蔵庫前室清掃(講義) 日本美術の調査と展示<作品調査の実際、日本美術の展示>(講義)
10日(土)	13:00-13:50 14:00-14:50 15:00-15:50 16:00-17:50	図書整理作業(実習) 静岡市美術館の教育普及活動について(講義) オープンアトリエ体験(実習) 夜店市手伝い(実習)
11日(日)	10:10-11:30 13:30-14:50	館長講話(講義) 「これまでの実習で学んだこと」(実習生による発表)

5-3 視察等受入

令和6年度受入分は下記のとおりである。

	日付	視察団体名	人数
1	7月26日(金)	浜松市	2人
2	7月30日(火)	静岡県	2人
3	12月11日(水)	諸橋近代美術館	4人

(※外部施設との連携事業における展示解説分は除く。)

計 3件 8人

6. 収蔵品・図書等

6-1 収蔵品・画像貸出

1)「佐伯喜三郎 遺作展」

会期：令和6年6月26日(水) - 30日(日)

会場(所在地)：静岡県立美術館県民ギャラリー (静岡県静岡市)

貸出内容：佐伯喜三郎《或る日》 計1点

2)美術図書『日本伝統の配色事典』(海外版)

貸出画像：竹久夢二《草に憩う女》 1点

発行者：青人社

体裁：B4変形(278×215mm)、総頁208頁オールカラー、上製本(4,000部)

発行日：令和6年12月30日

3)「柚木沙弥郎 永遠のいま」

会期：令和6年10月19日(土) - 12月22日(日) / 令和7年2月14日(金) - 3月23日(日)

会場(所在地)：岩手県立美術館(岩手県盛岡市) / 岡山県立美術館(岡山県岡山市)

貸出内容：柳宗悦著『無有好醜の願』(私家版)

芹沢銈介監修、柚木沙弥郎編集『形染集』(三一書房)

『もうひとつの創造 芹沢銈介の蒐集』(平凡社)

計3点

6-2 図書等

令和6年度図書等受入数

	購入	寄贈	合計
カタログ	24冊	286冊	310冊
雑誌	23冊	53冊	76冊
一般図書・その他	60冊	321冊	381冊
合計	107冊	660冊	767冊

7. 広報活動

7-1 広報制作物

1)年間スケジュール

令和6(2024)年度展覧会スケジュールを下記のとおり制作し、ウェブサイトに掲載した。

<仕様>紙：A2 マット 110kg

サイズ・数量：210×396mm(仕上 210×99mm) 45,000部(日本語版)、500部(英語版)

加工：観音折り(四つ折り)加工

印刷：オフセット印刷(日本語版)、オンデマンド印刷(英語版)

◆日本語版年間スケジュール



表紙

表面



中面

◆英語版年間スケジュール



表紙

表面



中面

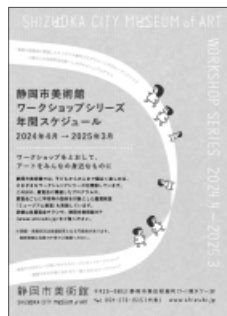
2)ワークショップシリーズ年間スケジュール

令和6(2024)年度ワークショップシリーズ年間スケジュールを下記のとおり制作した。

<仕様>紙：b7トラネクスト 86kg

サイズ・数量：A4(仕上A5) 18,500部

加工：二つ折り加工



表紙



表面



中面

7-2 ウェブサイト

展覧会情報を中心に、関連イベントの情報や施設概要、ショップ情報についても掲載。ブログ、X(旧Twitter)、Instagram、YouTubeも開設し、常にタイムリーな情報発信を行っている。

ウェブサイト構成：<https://www.shizubi.jp>

- 展覧会
 - ・開催中の展覧会 ・これからの展覧会
 - ・年間スケジュール ・展覧会アーカイブ
- イベント
 - ・これからのイベント
 - ・ワークショップシリーズ年間スケジュール
 - ・イベントアーカイブ
- 来館案内
 - ・基本情報・開館カレンダー ・アクセス
 - ・駐車場 ・ご来館のお客様へ/Q&A
 - ・ショップ&カフェ ・学校・団体鑑賞
- 美術館概要
 - ・静岡市美術館について
 - ・館長挨拶 ・施設概要 ・ロゴについて
 - ・活動記録 ・静岡市美術館運営協議会
- その他(リンク)
 - ・ブログ(<https://www.shizubi.jp/blog>)
 - ・X(旧Twitter)(https://x.com/shizubi_jp)
 - ・Instagram(https://instagram.com/shizubi_jp)
 - ・YouTube(<https://www.youtube.com/@shizuokacitymuseumofart2662>)

アクセス数：649,403件(1日平均 1,779件)



パソコン版ホームページ



スマートフォン版ホームページ

7-3 施設広報記録

展覧会事業・交流事業以外の美術館施設に関する主な取材記録は下記のとおりである。

1)新聞

- ・マコーリー-碧水「この人 静岡市美術館の2代目館長 高市純行さん」『静岡新聞』、5月25日。

2)雑誌他

- ・「施設紹介」『芸術新潮』、2024年7月号。
- ・「施設紹介」『KAKEHASHI』、2024春 no.9。
- ・「施設紹介」『KAKEHASHI』、2024夏 no.10。
- ・「施設紹介」『静岡駅周辺のご案内』。
- ・「施設紹介」『KAKEHASHI』、2024秋 no.11。
- ・「施設紹介」『KAKEHASHI』、2025冬 no.12。

3)ウェブサイト(媒体名のみ記載)

「くふうロコしずおか」、「ふじのくにユニバーサルデザイン」

8. 管理運営

8-1 利用者数

1)利用者数(月別) (単位:人)

	展覧会 観覧者	展覧会関連事業 参加者	交流事業 参加者	連携事業・その他 の事業 参加者	事業参加者 計	総入館者
4月	7,673	257	24	20	7,974	18,128
5月	15,600	352	122	0	16,074	28,877
6月	3,641	371	2	60	4,074	12,025
7月	7,570	285	25	34	7,914	17,938
8月	25,770	219	666	2	26,657	41,146
9月	41,506	431	0	75	42,012	62,779
10月	3,834	150	1	0	3,985	12,407
11月	4,838	131	13,029	310	18,308	15,450
12月	10,227	470	12,575	37	23,309	20,765
1月	13,880	73	30	0	13,983	25,505
2月	7,181	220	91	0	7,492	14,718
3月	8,197	245	251	0	8,693	16,930
計	149,917	3,204	26,816	538	180,475	286,668
月平均	12,493	267	2,235	45	15,040	23,889

2)利用者数 事業別

展覧会名	実施期間	入場者等
京都 細見美術館の名品 一琳派、若冲、ときめきの日本美術一	4月13日 - 5月26日 (開館39日間)	23,273人 (597人/日)
没後35周年記念 平野富山展 一平櫛田中と歩んだ彩色木彫、追求の軌跡	6月6日 - 7月15日 (開館35日間)	6,844人 (196人/日)
珠玉の東京富士美術館コレクション 西洋絵画の400年	7月26日 - 9月23日 (開館53日間)	71,643人 (1,352人/日)
令和6年度国立美術館巡回展 写真をめぐる100年のものがたり 京都国立近代美術館コレクションを中心に	10月4日 - 11月17日 (開館39日間)	7,437人 (191人/日)
キース・ヘリング展 アートをストリートへ	11月28日 - 1月19日 (開館43日間)	25,342人 (589人/日)
北欧の神秘 ーノルウェー・スウェーデン・フィンランドの絵画	2月1日 - 3月26日 (開館47日間)	15,378人 (327人/日)
展覧会 観覧者 計		149,917人
普及事業参加者 (展覧会関連事業参加者 + 交流事業参加者 + 連携事業・その他事業参加者)		30,557人
事業参加者 総計 (展覧会観覧者 + 普及事業参加者)		180,474人
総入館者数(エントランス入口自動カウンター集計数)	4月1日 - 3月31日	286,668人

3)利用者数(事業別詳細)

事業区分	事業名	実施時期	入場者等		
			目標値	実績値	達成率
			(人)	(人)	(%)
展覧会事業	展覧会		計6本 149,917人		
	京都 細見美術館の名品 一琳派、若冲、ときめきの日本美術―	4/13-5/26 (計39日間)	22,000	23,273	105.8%
	没後35周年記念 平野富山展 ―平櫛田中と歩んだ彩色木彫、追求の軌跡	6/6-7/15 (計35日間)	12,000	6,844	57.0%
	珠玉の東京富士美術館コレクション 西洋絵画の400年	7/26-9/23 (計53日間)	40,100	71,643	178.7%
	令和6年度国立美術館巡回展 写真をめぐる100年のものがたり 京都国立近代美術館コレクションを中心に	10/4-11/17 (計39日間)	12,000	7,437	62.0%
	キース・ヘリング展 アートをストリートへ	11/28-1/19 (計43日間)	26,000	25,342	97.5%
	北欧の神秘 ―ノルウェー・スウェーデン・フィンランドの絵画	2/1-3/26 (計47日間)	22,000	15,378	69.9%
展覧会関連事業	ミュージアム教室		計1,673人(89団体/89回)		
	ミュージアム教室(細見美術館の名品)	4/13-5/26 (全14回)	287(14団体/14回)		
	ミュージアム教室(平野富山展)	6/6-7/15 (全10回)	184(10団体/10回)		
	ミュージアム教室(西洋絵画の400年)	7/26-9/23 (全25回)	490(25団体/25回)		
	ミュージアム教室(写真をめぐる100年のものがたり)	10/4-11/17 (全6回)	96(6団体/6回)		
	ミュージアム教室(キース・ヘリング展)	11/28-1/19 (全22回)	348(22団体/22回)		
	ミュージアム教室(北欧の神秘)	2/1-3/26 (全12回)	268(12団体/12回)		
	その他展示解説		計306人(11団体/12回)		
	展示解説(細見美術館の名品)	4/13-5/26 (全2回)	38(2団体/2回)		
	展示解説(平野富山展)	6/6-7/15 (全4回)	85(4団体/4回)		
	展示解説(西洋絵画の400年)	7/26-9/23 (全2回)	44(2団体/2回)		
	展示解説(写真をめぐる100年のものがたり)	10/4-11/17 (全1回)	17(1団体/1回)		
	展示解説(キース・ヘリング展)	11/28-1/19 (全5回)	122(4団体/5回)		
	展示解説(北欧の神秘)	2/1-3/26 (0回)	0		
	京都 細見美術館の名品 一琳派、若冲、ときめきの日本美術―		計3本 284人		
	記念講演会「細見コレクションと伊藤若冲」	4/13	70	86	122.9%
	講演会「細見コレクションで楽しむ琳派」	4/27	70	90	128.6%
	当館学芸員によるスライドトーク	5/11	-	108	-
	没後35周年記念 平野富山展 ―平櫛田中と歩んだ彩色木彫、追求の軌跡		計4本 274人		
	静岡市文化振興財団設立30周年記念「笑顔 デ カケル プロジェクト」 しずび能「羽衣」	6/9	80	95	118.8%
講演会 「平野富山の周辺～彫刻家・平櫛田中と斎藤素巖を中心に～」	6/23	70	64	91.4%	
彩色実演&「辰(たつ)」の飾り物絵付け体験	6/30	24	24	100.0%	
当館学芸員によるスライドトーク	6/16、7/7	-	91	-	

事業区分	事業名	実施時期	入場者等		
			目標値	実績値	達成率
			(人)	(人)	(%)
展覧会関連事業	珠玉の東京富士美術館コレクション 西洋絵画の400年		計2本 229人		
	記念講演会「名画を旅する90分」	7/27	70	74	105.7%
	当館学芸員によるスライドトーク	8/24、9/7	-	155	-
	令和6年度国立美術館巡回展 写真をめぐる100年のものがたり 京都国立近代美術館コレクションを中心に		計4本 168人		
	講演会①「MoMAK写真コレクションの魅力」	10/19	70	42	60.0%
	講演会② 「あなたの一枚を探すために一写真の読み方を究める90分」	11/9	70	77	110.0%
	当館学芸員によるスライドトーク	10/13	-	49	-
	静岡・音楽館×科学館×美術館共同事業 科学教室「光の跡ののこしかた」	11/3	※静岡・音楽館×科学館×美術館共同事業に記載		
	キース・ヘリング展 アートをストリートへ		計1本 73人		
	講演会 「Art to the Streets 1980年代と現在のキース・ヘリング」(対談)	12/7	70	73	104.3%
	北欧の神秘 —ノルウェー・スウェーデン・フィンランドの絵画		計3本 197人		
	講演会「北欧の青い風景画—エウシェン・ヤンソンを中心に」	2/23	70	75	107.1%
	静岡・音楽館×科学館×美術館共同事業 ミュージアム・コンサート 「ムンクとグリーク 2人のエドヴァルドと音楽」	3/2	60	67	111.7%
	当館学芸員によるスライドトーク	3/15	-	55	-
	交流事業	Shizubi Research+「倉俣史朗と静岡」		計2本 25,530人	
Shizubi Research+「倉俣史朗と静岡」		11/6-12/15 (計35日間)	-	25,396	-
ギャラリートーク		12/14-12/15 (計2日間)	-	134	-
Shizubi シネマアワー			計4本 220人		
Shizubi シネマアワー vol.33「アート・コレクター」 ①『ゴッホとヘレーネの森 クレラー・ミュラー美術館の至宝』		5/3	60	83	138.3%
Shizubi シネマアワー vol.33「アート・コレクター」 ②『ハーブ&ドロシー ふたりからの贈りもの』		5/4	60	36	60.0%
Shizubi シネマアワー vol.34「北欧の女性画家たち」 ①『魂のまなざし』		3/8	60	46	76.7%
Shizubi シネマアワー vol.34「北欧の女性画家たち」 ②『見えるもの、その先に ヒルマ・アフ・クリントの世界』		3/9	60	55	91.7%
しずびオープンアトリエ			計3本 425人		
絵画を立体化！紙ジオラマ「立版古」をつくろう(夏季)		8/9-8/18 (計10日間・全20回)	140	197	140.7%
絵画を立体化！紙ジオラマ「立版古」をつくろう(春季)		2/15-3/16 (計10日間・全20回)	140	204	145.7%
縹緗彩色に挑戦！色鮮やかな文様を描こう (動画配信+貸出キット)		4/13-3/31	-	24	-
しずびチッコプログラム			計6本 124人		
「細見美術館の名品」		4/28 (全2回)	16	20	125.0%
「平野富山展」		7/13 (全2回)	16	14	87.5%
「西洋絵画の400年」	8/31 (全2回)	16	19	118.8%	
「写真をめぐる100年のものがたり」	11/4 (全2回)	16	24	150.0%	

事業区分	事業名	実施時期	入場者等		
			目標値	実績値	達成率
			(人)	(人)	(%)
交流事業	「キース・ヘリング展」	12/21 (全2回)	16	23	143.8%
	「北欧の神秘」	3/20 (全2回)	16	24	150.0%
	暦とあそぶワークショップ		計2本 42人		
	vol.27「新年を彩る和綴じ本をつくろう」	1/13 (全2回)	12	30	250.0%
	vol.28「ひな祭りの準備をしよう！」	2/11	14	12	85.7%
	プレゼントワークショップ		計2本 27人		
	vol.42「銅版画でクリスマスカードをつくろう」子ども編	12/1	12	12	100.0%
	vol.42「銅版画でクリスマスカードをつくろう」大人編	12/8	12	15	125.0%
	その他交流事業		計1本 448人		
	平野富山ブロンズ彫刻パネル展示	6/6-7/15 (計35日間)	-	18,586	-
夜店市	8/10-8/12	-	448	-	
連携事業	■生涯学習センターとの連携事業				
	展示解説付き講座		計1本		
	駿河生涯学習センター連携 女性学級 「珠玉の東京富士美術館コレクション 西洋絵画の400年」	9/18	※その他展示解説に含む		
	しずび出前講座(講義)※当館学芸員が講師として参画		計9本 282人		
	西部生涯学習センター 「琳派、若冲…コレクターが愛した日本美術—京都・細見美術館の名品」	4/25、5/9	-	20	-
			※5/9実施分はその他展示解説に含む		
	薬科生涯学習センター 「彩色木彫家・平野富山—平櫛田中と歩んだ彩色木彫、追求の軌跡」	6/18、25	-	7	-
			※6/25実施分はその他展示解説に含む		
	高齢者学級みのり大学薬科学級 「バルセロナーガウディ、ピカソ、ミロ…巨匠たちを育んだ芸術の都」	6/27	-	53	-
	高齢者学級みのり大学西奈学級 「平安王朝の美と文化」	7/24	-	34	-
	大里生涯学習センター 大里心の乙女塾 「近代美術の中の猫 日本画を中心に」	9/11	-	27	-
	高齢者学級みのり大学西奈学級 「平安王朝の美と文化」	9/24	-	48	-
	大里生涯学習センター 「バルセロナーガウディ、ピカソ、ミロ…巨匠たちを育んだ芸術の都」	11/16	-	24	-
	北部生涯学習センター 「浮世絵ってなんだ？」	11/29	-	32	-
	高齢者学級みのり大学美和学級 「浮世絵ってなんだ？」	12/4	-	37	-
	静岡・音楽館×科学館×美術館 共同事業(三館共同事業)		計2本 20人		
静岡・音楽館×科学館×美術館共同事業 科学教室「光の跡ののこしかた」	11/3 (全2回)	-	20	-	
静岡・音楽館×科学館×美術館共同事業 ミュージアム・コンサート 「ムンクとグリーグ2人のエドヴァルドと音楽」	3/2	※展覧会関連事業に記載			

事業 区分	事業名	実施時期	入場者等		
			目標値	実績値	達成率
			(人)	(人)	(%)
その他事業	その他事業		計3本 236人		
	静岡市文化活動振興事業 「旧五十嵐邸・竹久夢二」展	11/7-11/10 (計4日間)	-	234	-
	静岡市文化活動振興事業 静岡市清水文化会館マリナート常設展示 「平野富山-清水が生んだ彩色木彫の名匠」 【第1期】平野富山と同時代の作家 【第2期】富山のお雛様 【第3期】人形研究団体での研鑽	【第1期】7月-10月 【第2期】11月-2月 【第3期】3月-6月	-	-	-
	博物館実習	8/7-8/11 (計5日間)	-	2	-
	計		135,490	180,474	133.2%

8-2 過去展覧会一覧

	展覧会名	会期	観覧者数
●平成22(2010)年度			計3本 132日 93,654人
1	開館記念展<Ⅰ> ボア美術館コレクション展 印象派とエコール・ド・パリ	10月2日(土)～11月28日(日) <開館51日間>	38,695人 (759人/日)
2	開館記念展<Ⅱ>・NHK静岡放送局開局80周年記念 家康と慶喜－徳川家と静岡	12月11日(土)～1月30日(日) <開館42日間>	34,424人 (820人/日)
3	開館記念展<Ⅲ> 棟方志功 祈りと旅	2月11日(金・祝)～3月27日(日) <開館39日間>	20,535人 (527人/日)
●平成23(2011)年度			計5本 261日 131,904人
1	ハンス・コバー展－20世紀陶芸の革新	4月9日(土)～6月26日(日) <開館69日間>	16,395人 (238人/日)
2	没後150年 歌川国芳展	7月9日(土)～8月21日(日) <開館38日間> ※前期：7月9日(土)～31日(日) 後期：8月2日(火)～21日(日)	30,404人 (801人/日)
3	開館1周年記念展<Ⅰ>・NHK静岡放送局開局80周年記念 アルプスの画家 セガンティーニ ー光と山ー	9月3日(土)～10月23日(日) <開館44日間>	17,806人 (405人/日)
4	開館1周年記念展<Ⅱ> レオナルド・ダヴィンチ美の理想	11月3日(木・祝)～12月25日(日) <開館46日間>	53,136人 (1,156人/日)
5	竹久夢二と静岡ゆかりの美術 (前期：中川雄太郎と静岡の創作版画の世界 後期：平野富山“彩色木彫”の美)	1月7日(土)～3月25日(日) <開館64日間> ※前期：1月7日(土)～2月12日(日) 後期：2月18日(土)～3月25日(日)	14,163人 (222人/日)
●平成24(2012)年度			計6本 258日 100,862人
1	森村泰昌モリエンナーレ まねぶ美術史	4月7日(土)～6月10日(日) <開館57日間>	7,976人 (140人/日)
2	静岡音楽館AOI×静岡科学館る・く・る×静岡市美術館共同事業 七夕の美術－日本近世・近代の美術工芸にみる	6月23日(土)～8月19日(日) <開館51日間> ※前期：6月23日(土)～7月22日(日) 後期：7月24日(火)～8月19日(日)	10,929人 (214人/日)
3	フィンランドのくらしとデザイン－ムーミンが住む森の生活	9月1日(土)～10月8日(月・祝) <開館38日間>	41,258人 (1,086人/日)
4	ストラスブール美術館展 モダンアートへの招待	10月27日(土)～12月16日(日) <開館44日間>	12,016人 (273人/日)
5	滋賀県立琵琶湖文化館が守り伝える美 近江巡礼 祈りの至宝展	1月2日(水)～2月11日(月・祝) <開館36日間> ※前期：1月2日(水)～1月20日(日) 後期：1月22日(火)～2月11日(月・祝)	11,256人 (313人/日)
6	新美南吉生誕100年 ごんぎつねの世界	2月23日(土)～3月31日(日) <開館32日間>	17,427人 (545人/日)
●平成25(2013)年度			計5本 260日 156,594人
1	藤田嗣治 渡仏100周年記念 レオナルド・フジタとパリ	4月20日(土)～6月23日(日) <開館57日間>	22,451人 (393人/日)
2	静岡朝日テレビ 開局35周年記念 オーディロン・ルドン 夢の起源 幻想のふるさと、ボルドーから	6月29日(土)～8月25日(日) <開館51日間>	16,907人 (332人/日)
3	はじめての美術 絵本原画の世界2013	9月14日(土)～10月27日(日) <開館38日間>	44,385人 (1,168人/日)
4	徳川家康公顕彰四百年記念事業 没後100年 徳川慶喜	11月2日(土)～12月15日(日) <開館38日間> ※前期：11月2日(土)～11月24日(日) 後期：11月26日(火)～12月15日(日)	15,260人 (402人/日)
5	テレビ静岡開局45周年記念 シャガール展	1月2日(木)～3月30日(日) <開館76日間>	57,591人 (758人/日)

	展覧会名	会期	観覧者数
●平成26(2014)年度			計6本 254日 155,028人
1	巨匠の眼 川端康成と東山魁夷	4月12日(土)～6月1日(日) <開館44日間>	15,475人 (352人/日)
2	読売新聞創刊140周年記念・静岡第一テレビ開局35周年 法隆寺展－聖徳太子と平和への祈り－	6月14日(土)～7月27日(日) <開館38日間>	26,566人 (699人/日)
3	日本のアニメーション美術の創造者 山本二三展 ～天空の城ラピュタ、火垂るの墓、時をかける少女～	8月4日(月)～9月23日(火・祝) <開館48日間>	66,773人 (1,391人/日)
4	徳川家康公顕彰四百年記念事業・静岡市文化振興財団設立20周年記念事業 国宝・久能山東照宮展－家康と静岡ゆかりの名宝	10月4日(土)～11月24日(月・祝) <開館45日間>	20,353人 (452人/日)
5	ロイヤル・アカデミー展 イギリス美術の華麗なる150年	12月6日(土)～1月25日(日) <開館41日間>	16,034人 (391人/日)
6	没後100年 小林清親展 文明開化の光と影をみつめて	2月7日(土)～3月22日(日) <開館38日間>	9,827人 (259人/日)
●平成27(2015)年度			計6本 254日 155,806人
1	静岡市美術館開館5周年記念 大原美術館展 名画への旅	4月18日(土)～5月31日(日) <開館39日間>	32,133人 (824人/日)
2	青磁のいま－受け継がれた技と美 南宋から現代まで	6月13日(土)～8月16日(日) <開館56日間>	13,907人 (248人/日)
3	錦絵誕生250年 フィラデルフィア美術館浮世絵名品展 春信一番！写楽二番！	8月23日(日)～9月27日(日) <開館36日間>	16,475人 (458人/日)
4	静岡市美術館開館5周年記念 ちひろ美術館 世界の絵本原画コレクション展 絵本をひらくと	10月10日(土)～11月23日(月・祝) <開館39日間>	41,836人 (1,073人/日)
5	静岡市美術館開館5周年記念 静岡市立芹沢銈介美術館・静岡市美術館共同企画 芹沢銈介生誕120年記念展 しあわせの色 たのしい模様	12月5日(土)～1月11日(月・祝) <開館27日間>	7,502人 (278人/日)
6	スター・ウォーズ展 未来へつづく、創造のビジョン。	1月23日(土)～3月27日(日) <開館57日間>	43,953人 (771人/日)
●平成28(2016)年度			計6本 254日 167,547人
1	没後20年 ルーシー・リー展	4月9日(土)～5月29日(日) <開館45日間>	17,157人 (381人/日)
2	伊豆市所蔵近代日本画コレクション展 大観・靱彦・龍子らと修善寺	6月7日(火)～7月10日(日) <開館30日間>	6,592人 (220人/日)
3	エッシャーの世界	7月17日(日)～8月28日(日) <開館37日間>	36,297人 (981人/日)
4	ランス美術館展 美しきフランス バロックからフジタへ	9月10日(土)～10月30日(日) <開館45日間>	16,154人 (359人/日)
5	高畑・宮崎アニメの秘密がわかる。 スタジオジブリ・レイアウト展	11月19日(土)～2月5日(日) <開館65日間>	79,378人 (1,221人/日)
6	夢二と京都の日本画	2月18日(土)～3月26日(日) <開館32日間>	11,969人 (374人/日)
●平成29(2017)年度			計5本 244日 111,134人
1	アルバレス・ブラボ写真展 －メキシコ、静かなる光と時	4月8日(土)～5月28日(日) <開館45日間>	6,208人 (138人/日)
2	没後150年 坂本龍馬	7月1日(土)～8月27日(日) <開館51日間>	50,397人 (988人/日)
3	日本・デンマーク外交関係樹立150周年記念 デンマーク・デザイン	9月9日(土)～11月12日(日) <開館56日間>	16,965人 (303人/日)
4	ウェールズ国立美術館所蔵 ターナーからモネへ	11月23日(木・祝)～1月28日(日) <開館54日間>	25,503人 (472人/日)
5	駿河の白隠さん	2月10日(土)～3月25日(日) <開館38日間>	12,061人 (317人/日)

	展覧会名	会期	観覧者数
●平成30(2018)年度			計5本 258日 83,257人
1	いつだって猫展	4月7日(土)～5月20日(日) ＜開館39日間＞	18,404人 (472人/日)
2	ミュシャ展 ～運命の女たち～	6月2日(土)～7月15日(日) ＜開館38日間＞	28,579人 (752人/日)
3	ヴラマンク展 絵画と言葉で紡ぐ人生	7月28日(土)～9月24日(月・祝) ＜開館51日間＞	10,871人 (213人/日)
4	テレビ静岡開局50周年記念 フランス宮廷の磁器 セーヴル、創造の300年	10月6日(土)～12月16日(日) ＜開館62日間＞	15,262人 (246人/日)
5	起点としての80年代	1月5日(土)～3月24日(日) ＜開館68日間＞	10,141人 (149人/日)
●平成31/令和元(2019)年度			計5本 258日 105,481人
1	小倉遊亀と院展の画家たち展 滋賀県立近代美術館所蔵作品による	4月6日(土)～5月26日(日) ＜開館44日間＞	12,009人 (273人/日)
2	オーバリン大学アレン・メモリアル美術館所蔵 メアリー・エインズワース浮世絵コレクション ～初期浮世絵から北斎・広重まで	6月8日(土)～7月28日(日) ＜開館44日間＞	22,589人 (513人/日)
3	印象派への旅 海運王の夢 パレル・コレクション	8月7日(水)～10月20日(日) ＜開館65日間＞	25,461人 (392人/日)
4	Daiichi-TV開局40周年記念 奇蹟の芸術都市バルセロナ展	11月15日(金)～1月19日(日) ＜開館55日間＞	21,895人 (398人/日)
5	不思議の国のアリス展	2月1日(土)～3月29日(日) ＜開館50日間＞	23,527人 (470人/日)
●令和2(2020)年度			計5本 219日 109,088人
1	日・チェコ交流100周年 ミュシャと日本、日本とオルリック めぐるジャポニスム	4月11日(土)～4月19日(日) ＜開館8日間＞	578人 (72人/日)
2	静岡市美術館開館10周年記念 東海道之美 駿河への旅	※延期	-
3	静岡市所蔵品 特集展示 見るよろこび：東海道図屏風・竹久夢二を中心に	6月17日(水)～7月19日(日) ＜開館29日間＞	2,815人 (97人/日)
4	2020しずおか文化プロジェクト 日本・ポーランド国交樹立100周年記念 シヨバン―200年の肖像	8月1日(土)～9月22日(火・祝) ＜開館47日間＞	17,774人 (378人/日)
5	静岡市美術館開館10周年記念 生誕110年・没後30年 絵本画家・赤羽末吉展 『スーホの白い馬』はこうして生まれた	10月3日(土)～11月29日(日) ＜開館50日間＞	16,196人 (324人/日)
6	静岡市美術館開館10周年記念・中日新聞東海本社40周年記念 ライデン国立古代博物館所蔵 古代エジプト展	12月19日(土)～3月31日(水) ＜開館85日間＞	71,725人 (844人/日)
●令和3(2021)年度			計5本 251日 77,160人
1	キューガーデン 英国王室が愛した花々 シャーロット王妃とボタニカルアート	4月15日(木)～6月6日(日) ＜開館46日間＞	12,766人 (278人/日)
2	没後70年 吉田博展	6月19日(土)～8月29日(日) ＜開館62日間＞	13,646人 (220人/日)
3	静岡新聞社80周年・静岡放送70周年記念 生誕160年記念 グランマ・モーゼス展 一素敵な100年人生	9月14日(火)～11月7日(日) ＜開館48日間＞	16,437人 (342人/日)
4	ランス美術館コレクション 風景画のはじまり コローから印象派へ	11月20日(土)～1月23日(日) ＜開館51日間＞	15,096人 (296人/日)
5	平等院鳳凰堂と浄土院 その美と信仰	2月5日(土)～3月27日(日) ＜開館44日間＞	19,215人 (437人/日)

	展覧会名	会期	観覧者数
●令和4(2022)年度			計5本 251日 80,282人
1	スイス プチ・パレ美術館展 花ひらくフランス絵画	4月9日(土)～6月19日(日) ＜開館63日間＞	19,755人 (314人/日)
2	ボストン美術館所蔵 THE HEROES 刀剣×浮世絵―武者たちの物語	7月2日(土)～8月28日(日) ＜開館51日間＞	17,412人 (341人/日)
3	出版120周年 ピーターラビット™展	9月15日(木)～11月6日(日) ＜開館44日間＞	24,780人 (563人/日)
4	杉浦非水 時代をひらくデザイン	11月19日(土)～1月29日(日) ＜開館55日間＞	11,440人 (208人/日)
5	東海道之美 駿河への旅	2月11日(土)～3月26日(日) ＜開館38日間＞	6,895人 (181人/日)
●令和5(2023)年度			計5本 272日 133,039人
1	英国キュー王立植物園 おいしいボタニカル・アート 食を彩る植物のものがたり	4月8日(土)～6月4日(日) ＜開館51日間＞	14,632人 (287人/日)
2	さくらももこ展	6月17日(土)～8月23日(水) ＜開館59日間＞	49,369人 (837人/日)
3	カンパール美術館所蔵 ブルターニュの光と風 フランス 神秘と伝統の地へ	9月5日(火)～10月22日(日) ＜開館42日間＞	15,747人 (375人/日)
4	NHK大河ドラマ特別展 どうする家康	11月3日(金・祝)～12月13日(水) ＜開館40日間＞	21,201人 (530人/日)
5	高畑勲展―日本のアニメーションに遺したもの	12月27日(水)～3月31日(日) ＜開館80日間＞	32,090人 (401人/日)
●令和6(2024)年度			計6本 256日 149,917人
1	京都 細見美術館の名品 ―琳派、若冲、ときめきの日本美術―	4月13日(土)～5月26日(日) ＜開館39日間＞	23,273人 (597人/日)
2	没後35周年記念 平野富山展 ―平櫛田中と歩んだ彩色木彫、追求の軌跡	6月6日(木)～7月15日(月・祝) ＜開館35日間＞	6,844人 (196人/日)
3	珠玉の東京富士美術館コレクション 西洋絵画の400年	7月26日(金)～9月23日(月・祝) ＜開館53日間＞	71,643人 (1,352人/日)
4	令和6年度国立美術館巡回展 写真をめぐる100年のものがたり 京都国立近代美術館コレクションを中心に	10月4日(金)～11月17日(日) ＜開館39日間＞	7,437人 (191人/日)
5	キース・ヘリング展 アートをストリートへ	11月28日(木)～1月19日(日) ＜開館43日間＞	25,342人 (589人/日)
6	北欧の神秘 ―ノルウェー・スウェーデン・フィンランドの絵画	2月1日(土)～3月26日(水) ＜開館47日間＞	15,378人 (327人/日)

8-3 静岡市美術館運営協議会

(公財)静岡市文化振興財団では、当館の事業及び運営について、幅広く意見を求め、長期的かつ総合的展望に立った運営に資することを目的として、平成23年度より静岡市美術館運営協議会を設置している。年2回の開催を基本とし、令和6年度末現在まで計26回開催した。

【静岡市美術館運営協議会委員】(敬称略・50音順)

氏名	肩書
●第1期【平成23年6月19日 - 平成25年6月18日】	
岩城見一	京都大学名誉教授・前京都国立近代美術館館長
小澤 豊	静岡市校長会(図工美術部会長・観山中学校校長)
織田元泰	元静岡市教育長・元常葉学園大学教授
金子賢治	茨城県陶芸美術館館長
川口良子	合同会社 デザイン・アープ代表CEO
川崎博良	静岡市中央商店街連合会(静岡紺屋町名店街理事長)
金原宏行	豊橋市美術館館長
小林 忠	学習院大学名誉教授・前千葉市美術館館長
小針由紀隆	静岡県立美術館学芸部長
谷 新	宇都宮美術館館長・美術評論家
●第2期【平成25年6月19日 - 平成27年6月18日】	
岩城見一	前京都国立近代美術館館長・京都大学名誉教授
小澤 豊	静岡市校長会(図工美術部会長・観山中学校校長) <～平成26年4月1日>
織田元泰	元静岡市教育長・元常葉学園大学教授
金子賢治	茨城県陶芸美術館館長
川口良子	合同会社 デザイン・アープ代表CEO
川崎博良	静岡市中央商店街連合会(静岡紺屋町名店街理事長)
金原宏行	豊橋市美術館館長
小林 忠	岡田美術館館長・学習院大学名誉教授
小針由紀隆	静岡文化芸術大学教授
谷 新	宇都宮美術館館長・美術評論家
増田安由	静岡市校長会(図工美術部会長・富士見小学校校長) <平成26年4月2日～>
●第3期【平成27年6月19日 - 平成29年6月18日】	
天野一夫	豊田市美術館チーフキュレーター
岩城見一	京都大学名誉教授・前京都国立近代美術館館長
金子賢治	茨城県陶芸美術館館長
川口良子	合同会社 デザイン・アープ代表CEO
金原宏行	豊橋市美術館館長
小林 忠	岡田美術館館長・学習院大学名誉教授
小針由紀隆	静岡文化芸術大学教授
田中文雄	元静岡県立中央図書館調査課長
服部 功	静岡市中央商店街連合会(静岡紺屋町名店街理事長)
増田安由	静岡市校長会(図工美術部会長・富士見小学校校長)
●第4期【平成29年6月19日 - 令和元年6月18日】	
片瀬恵子	静岡市校長会(図工美術部会長・清水庵原小学校校長)
金子賢治	茨城県陶芸美術館館長
金原宏行	前豊橋市美術館館長
小勝禮子	美術史家・元栃木県立美術館学芸課長

氏名	肩書
小針由紀隆	静岡文化芸術大学教授
高松良幸	静岡大学教授
田中文雄	元静岡県立中央図書館調査課長
服部 功	静岡市中央商店街連合会(静岡紺屋町名店街理事長)
村田眞宏	豊田市美術館館長
●第5期【令和元年6月19日 - 令和3年6月18日】	
大石英之	静岡市校長会(図工美術部会長・中田小学校校長) <～令和2年3月31日>
入口強志	静岡市校長会(図工美術部副会長・清水両河内中学校教頭) <令和2年5月25日～令和3年3月31日>
岩崎信男	静岡市校長会(図工美術部会長・長田西中学校校長) <令和3年4月22日～>
川口良子	合同会社 デザイン・アープ代表CEO
金原宏行	前豊橋市美術館館長
小勝禮子	美術史家・元栃木県立美術館学芸課長
小針由紀隆	静岡文化芸術大学教授
高松良幸	静岡大学教授
田中文雄	元静岡県立中央図書館調査課長
服部 功	静岡市中央商店街連合会(静岡紺屋町名店街理事長)
村田眞宏	豊田市美術館館長
●第6期【令和3年6月19日 - 令和5年6月18日】	
岩崎信男	静岡市校長会(図工美術部会長・長田西中学校校長)
川口良子	合同会社 デザイン・アープ代表CEO
金原宏行	元豊橋市美術館館長・元常葉美術館館長 元常葉学園大学教授
小勝禮子	美術史家・元栃木県立美術館学芸課長
小針由紀隆	ベルナル・ビュフェ美術館館長・元静岡文化芸術大学教授
高松良幸	静岡大学教授・公益財団法人平野美術館評議員
田中文雄	元静岡県立中央図書館調査課長・フェルケール博物館友の会会長
富田 章	公益財団法人東日本鉄道文化財団専務理事・東京ステーションギャラリー館長
服部 功	静岡市中央商店街連合会(静岡紺屋町名店街理事長)
村田眞宏	前豊田市美術館館長・元愛知県立美術館館長
●第7期【令和5年6月19日 - 】	
伊東正伸	練馬区立美術館館長
川口良子	合同会社デザイン・アープ代表社員
金原宏行	元豊橋市美術館館長・元常葉美術館館長・元常葉大学教授
小泉憲明	静岡市校長会(賤機中小学校校長)<～令和6年3月31日>
五十畑美濃	静岡市校長会(清水袖師小学校校長) <令和6年4月17日～>
小勝禮子	美術史家・元栃木県立美術館学芸課長
小針由紀隆	ベルナル・ビュフェ美術館館長・元静岡文化芸術大学文化政策部芸術文化学科教授
田中文雄	静岡平和資料センター長
富田 章	公益財団法人東日本鉄道文化財団専務理事・東京ステーションギャラリー館長
服部 功	静岡市中央商店街連合会(静岡紺屋町名店街理事長)
森谷明子	日本画家

※委員の肩書については、各期就任時のものを記載した。

静岡市美術館運営協議会設置要綱

(目的)

第1条 公益財団法人静岡市文化振興財団(以下「当法人」という。)は、静岡市美術館(以下「美術館」という。)の事業及び運営について、幅広く意見を求め、長期的かつ総合的展望に立った運営に資することを目的として、静岡市美術館運営協議会(以下「協議会」という。)を設置する。

(役割)

第2条 協議会は、美術館の運営に関し美術館長(以下「館長」という。)の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べるものとする。

(委員)

第3条 協議会の委員の定数は、10人とする。

2 委員は、当法人の専務理事が選定し、理事長が委嘱する。

3 委員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

4 補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

5 委員は、任期満了後においても、後任者が就任するまで在任する。

6 委員の氏名等は公表する。

(委員の任期の起算)

第4条 協議会委員の任期は、就任の日から起算する。ただし、任期満了による選任が、任期満了の前に行われたときは、新たな委員の任期は、前任者の任期満了の日の翌日から起算する。

(委員の辞任)

第5条 委員が辞任しようとするときは、理事長に届け出るものとする。

(会長及び副会長)

第6条 協議会に会長及び副会長を置き、委員会において互選する。

2 会長は、会議の議長となり、協議会の会務を総括する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故のあるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第7条 協議会は、館長からの求めに応じ、会長が随時招集する。

2 委員の辞職又は任期満了に伴い会長及び副会長がともに欠けたときは、館長が協議会を招集する。

3 会長は、協議会を招集しようとするときは、委員に対し、開催日の2週間前までに、書面等により日時、場所及び議題その他必要な事項を通知しなければならない。ただし、委員全員の同意があるときは、この限りではない。

4 協議会は、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない。

5 会長は、必要と認めたときは協議会に諮り、関係者に参考人として会議への出席を求め、資料の提供、意見の開陳、説明その他必要な協力を求めることができる。

6 会議当日に会長及び副会長とともに事故があるとき、又は会長及び副会長がともに欠けたときは、あらかじめ会長が指定した委員又は館長が指名した委員がその職務を代理する。

(議事録)

第8条 会議の議事については、その経過の要領及びその結果を記載した議事録を作成するものとする。

2 前項の議事録は館長が保管し、保存年限は当法人文書取扱規程の定めるところによる。

(庶務)

第9条 協議会の事務は、静岡市美術館総務課において処理する。

2 美術館の職員は、協議会その他の事務処理を通じて知り得た事項を他に漏らしてはならない。

(補足)

第10条 この要綱に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、協議会において定める。

附 則

この要綱は、平成23年6月19日から施行する。

附 則

この要綱は、平成24年4月1日から施行する。

附 則

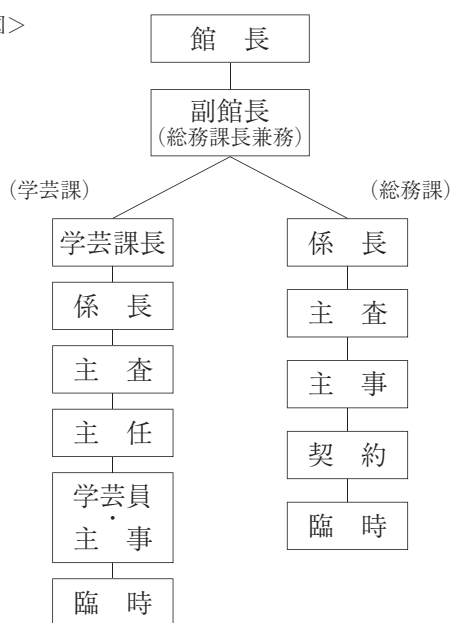
この要綱は、平成25年10月30日から施行する。

附 則

この要綱は、平成31年4月1日から施行する。

8-4 組織図・職員名簿

<組織図>



<職員名簿>(令和6年度)

館長	高市 純行
副館長(総務課長兼務)	大畑 綾子
(総務課)	
係長	青木 直美
主査	池ヶ谷 志帆
主事	寺崎 薫(令和6年9月)
契約	青野 貴美
臨時	清水 美香
(学芸課)	
学芸課長	山本 香瑞子(日本近代美術)
係長	高橋 哲也(日本美術) (令和6年12月)
主査	太田 紗世(教育普及)
主査	伊藤 鮎(西洋美術・現代美術)
主査	大庭 千恵子(広報)
主任	大石 沙織(日本美術)
学芸員	小川 かい(西洋美術) (令和6年12月)
学芸員	深尾 茅奈美(西洋美術)
主事	岡田 牧(広報)
臨時	山中 悠
臨時	黒田 麻紀子(令和6年10月-)

8-5 条例・施行規則

○静岡市美術館条例

平成21年7月16日
条例第50号

(設置)

第1条 静岡市は、多様な美術表現を広く市民に公開し、静岡市の特色ある美術文化の創造と発信を行い、及び美術文化の交流を促進することにより、美術に関する市民の知識及び教養の向上を図り、もって市民の美術文化を振興することを目的として、次の施設を設置する。

名称	位置
静岡市美術館	静岡市葵区紺屋町17番地の1

(事業)

第2条 静岡市美術館(以下「美術館」という。)は、次に掲げる事業を行う。

- (1) 美術文化に係る展示会の開催に関すること。
- (2) 美術文化の教育及び普及に関すること。
- (3) 美術文化に係る講演会、講習会等の開催に関すること。
- (4) 美術文化に係る調査及び研究に関すること。
- (5) 美術文化に係る情報の収集及び提供並びに広報活動に関すること。
- (6) 美術作品及び美術に係る資料の収集、保管、展示及び利用に関すること。
- (7) 前各号に掲げるもののほか、市長が必要があると認める事業(開館時間)

第3条 美術館の開館時間は、午前10時から午後7時までとする。ただし、第7条の規定による指定を受けて美術館の管理を行うもの(以下「指定管理者」という。)が特に必要があると認めるときは、市長の承認を得てこれを変更することができる。

(休館日)

第4条 美術館の休館日は、次のとおりとする。ただし、指定管理者が特に必要があると認めるときは、市長の承認を得てこれを変更し、又は臨時に休館することができる。

- (1) 月曜日(当日が国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日(以下この号において「休日」という。)に当たるときは、その翌日以降の最初の休日以外の日)
- (2) 12月28日から翌年の1月4日までの日

(入館の制限)

第5条 指定管理者は、次の各号のいずれかに該当するときは、美術館への入館を拒否し、又は美術館からの退館を命ずることができる。

- (1) 公の秩序又は善良の風俗を害するおそれがあると認めるとき。
- (2) 美術館の管理上支障があると認めるとき。
- (3) 前2号に掲げる場合のほか、必要があると認めるとき。

(損害賠償の義務)

第6条 美術館の施設、設備、備品等を損傷し、又は滅失したときは、その損害を賠償しなければならない。ただし、市長がやむを得ない理由があると認めるときは、賠償額を減額し、又は免除することができる。

(指定管理者による管理)

第7条 美術館の管理は、地方自治法(昭和22年法律第67号)第244条の第3項の規定により、法人その他の団体であつて市長が指定するものに行わせるものとする。

(指定管理者の指定の申請)

第8条 指定管理者の指定を受けようとするものは、事業計画書その他規則で定める書類を添付して市長に申請しなければならない。

(指定管理者の指定の基準)

第9条 市長は、前条の規定による申請を審査し、次に掲げる基準に適合するものの中から、最も効率的かつ適切な管理を行うことができると認めるものを指定管理者として指定するものとする。

- (1) 事業計画が美術館の設置の目的を達成するためにふさわしいものであること。
- (2) 事業計画が美術館の効果的な管理を実現するものであること。
- (3) 事業計画に沿った管理を行うために必要な物的・人的能力を有していると認められること。
- (4) 管理の業務を適切かつ円滑に行うための経理的基礎を有していること。

(指定管理者の指定等の公告)

第10条 市長は、指定管理者を指定したとき、又はその指定を取り消したときは、遅滞なく、その旨を公告するものとする。

(指定管理者の業務の範囲)

第11条 指定管理者が行う業務の範囲は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 第2条に掲げる事業の実施に関すること。
- (2) 美術館の施設及び設備の維持管理に関すること。
- (3) 前2号に掲げるもののほか、市長が必要があると認める業務(指定管理者の原状回復の義務)

第12条 指定管理者は、その指定に係る管理の業務の期間が満了したとき、又は指定を取り消され、若しくは期間を定めて管理の業務の全部若しくは一部の停止を命ぜられたときは、その管理しなくなった施設又は設備を速やかに原状に回復しなければならない。ただし、市長の承認を得たときは、この限りでない。

(委任)

第13条 この条例の施行に関し必要な事項は、規則で定める。

附 則

この条例は、公布の日から起算して12月を超えない範囲内において規則で定める日から施行する。ただし、第1条、第8条から第11条まで及び第13条の規定は、公布の日から施行する。

(平成22年規則第9号で、規則で定める日を平成22年5月1日とした。)

○静岡市美術館条例施行規則

平成21年11月12日
規則第103号

(趣旨)

第1条 この規則は、静岡市美術館条例(平成21年静岡市条例第50号。以下「条例」という。)の施行に関し必要な事項を定めるものとする。

(入館者の遵守事項)

第2条 静岡市美術館(以下「美術館」という。)の入館者は、次に掲げる事項を守らなければならない。

- (1) 火災、爆発その他の危険を生ずるおそれのある行為をしないこと。
- (2) 騒音又は大声を発する等他人に迷惑を及ぼす行為をしないこと。
- (3) 動物(身体障害者補助犬法(平成14年法律第49号)第2条第1項に規定する身体障害者補助犬を除く。)又は他人に迷惑を及ぼすおそれのある物品を持ち込まないこと。
- (4) 美術館資料、器物又は施設を汚損し、又は損傷するおそれのある行為をしないこと。
- (5) 許可を受けないで広告類を掲出し、又はまき散らす行為をしないこと。
- (6) 所定の場所以外の場所へ立ち入らないこと。
- (7) 所定の場所以外の場所で飲食をしないこと。
- (8) 喫煙をしないこと。
- (9) 許可を受けないで寄附金品の募集、物品の販売若しくは陳列又は飲食物の販売若しくは提供をしないこと。
- (10) 前各号に掲げるもののほか、指定管理者が管理上支障があると認める行為をしないこと。

(指定管理者の指定の申請書類)

第3条 条例第8条の規定による申請は、静岡市美術館指定管理者指定申請書(様式第1号)に、次に掲げる書類を添えて行うものとする。

- (1) 静岡市美術館事業計画書(様式第2号)
- (2) 静岡市美術館事業計画に関する収支予算書(様式第3号)
- (3) 定款、寄附行為又はこれに準ずるものの謄本
- (4) 役員名簿
- (5) 経営(事業)状況に関する書類
- (6) 前各号に掲げるもののほか、市長が必要があると認める書類(協定の締結)

第4条 市長は、指定管理者を指定したときは、当該指定管理者と美術館の管理に関する協定を締結するものとする。

2 前項の協定には、次に掲げる事項を掲載するものとする。

- (1) 事業計画に関する事項
- (2) 市が支払うべき管理費用に関する事項
- (3) 管理業務を行うに当たって保有する個人情報の保護に関する事項
- (4) 事業報告に関する事項
- (5) 前各号に掲げるもののほか、市長が必要があると認める事項(雑則)

第5条 この規則に定めるもののほか、美術館の管理に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規則は、公布の日から施行する。ただし、第2条の規定は、静岡市美術館条例附則本文に規定する規則で定める日から施行する。

様式第1号(第3条関係)

静岡市美術館指定管理者指定申請書

年 月 日

(あて先)静岡市長

所在地(法人以外の団体にあつては、その代表者の住所)

申請者 名称

代表者氏名

印

電話

静岡市美術館の指定管理者の指定を受けたいので、静岡市美術館条例第8条及び静岡市美術館条例施行規則第3条の規定により、次のとおり関係書類を添えて申請します。

様式第2号(第3条関係)

静岡市美術館事業計画書

事業計画の理念・方針
実施事業の概要(事業の構成及び年間計画表)
実施体制図
特記事項(効果的に事業を行うための方策、市民サービスの向上のための施策等)

様式第3号(第3条関係)

静岡市美術館事業計画に関する収支予算書

収入			千円
	科目	内容・数量	金額
			千円
			千円
			千円
			千円
			千円
			千円
支出			千円
	科目	内容・数量	金額
			千円
			千円
			千円
			千円
			千円
			千円

令和6(2024)年度
静岡市美術館 年報 No.15
2026年2月 発行

編集・発行 静岡市美術館
〒420-0852
静岡市葵区紺屋町17-1 葵タワー3階
TEL 054-273-1515(代)
FAX 054-273-1518

印刷 株式会社アプライズ

©Shizuoka City Museum of Art 2026

